

2022年度社会福祉法人多摩福祉会事業報告

1. 50周年事業・拠点整備・中期計画

1) 50周年事業

- ・『多摩福祉会50年誌』発刊

2019年7月12日に第1回編集委員会を発足、23回の編集会議を経て、2022年12月に『多摩福祉会50年誌』をひとなる書房から発刊。総頁本文216頁、1,000部印刷し法人内外の関係者に配布した。

- ・故浦辺史初代理事長、故庄司豊子こぐま保育園園長墓参と浦辺充さん講話

10月30日、2代目理事長浦辺充さん、伊藤亮子顧問、垣内理事長、安川常務理事、高橋理事、中村統括施設長、法人本部職員で八王子市まや靈園に墓参を行い、浦辺充さんから故人と法人の歴史の講話をお聞きした。

- ・創立50周年をみんなで祝う会

実行委員会主催で、11月19日、ハイアットリージェンシー東京にて祝う会を行い、法人の歴史を振り返ると共に実践報告等を行った。来賓、法人職員57名のリアル参加、オンライン参加136名、計193名の参加があった。

2) 法人綱領策定、法人理念整理

法人50周年を期に、西田砧園長を委員長として各拠点から参加した委員からなる綱領策定委員会で検討を開始。23年度中に成案を策定する見込み。オンラインで23年2月に、京都の社会福祉法人七野会理事長の井上ひろみさんに「理念小冊子作成の経過と活用」と題する講演をお願いし、委員会で学習した。

3) 拠点整備

練馬区公募の谷原地区民間保育園施設建設事業に応募し、応募28事業体から選定された。無償貸与の区所有地にゼロ歳から5歳まで100名規模の保育園建設を行う。園名は「しろくま保育園」。23年5月に建設会社入札、同年6月着工、24年2月完工の見込み。

多摩地域での学童保育児童館を含む複合施設事業は行政側の動きがなく進展していない。

4) 法人中期計画

法人中期計画の見直しはできなかった。しろくま保育園建設事業の他、こぐま保育園修繕を含む中期計画策定が求められている。

2. 評議員会、理事会

・評議員会の開催

定時評議員会及び臨時評議員会をいずれもwebにて4回開催。予算決算書類承認し、法人のあるべき方向、法人運営について意見交換を行った。

・理事会の開催

何れもwebで5回行い、事業報告事業計画、予算決算、補正予算の審議決定、新園建設決定、諸規程の改廃を行った。法人全体の日常運営経営と保育内容に関して定期監査を実施した。

向山保育園安川園長退職に伴い中本琢也副園長を園長に選任、永山学童クラブ施設長に渡辺智士主任を充てたほか、学童保育の施設長交代人事を行った。

3. 経営会議等

・経営会議の開催

理事長、常務理事、理事長指名の理事、各拠点代表により構成される経営会議を20回行った。保育情勢、人事採用・人事異動、処遇改善、研修事業等について審議執行し、採用異動など職員人事を行った。予算及び決算、事業計画等の理事会提案議題を審議した。また、施設防災の取り組み、現場でできる貧困家庭支援など実践的な経営会議研修を7回行った。経営会議メンバーの貴重な学びの場となっている。

事前に事務局会議で経営会議議題が整理され、経営会議の会議時間が短くなっている。

・施設長会議、課題別会議

各自治体の保育情勢、各施設がかかえる問題について情報を共有し意見交換を行い、施設運営の改善に反映することができた。

施設長会議の他、人事委員会、研修委員会、広報委員会、リクルート委員会等の課題別の各種委員会を行った。職種別会議として事務担当者会議、給食部会、保健部会が行われた。

・法人本部

法人本部は、法人業務財務業務統括、総務リクルート業務統括、労務管理諸規程業務統括と任務を明確にした常勤3名体制で安定的に運営することができた。

4. 対外任務

・社会福祉法人全国会議、全国民間保育園経営研究懇話会、全国保育団体連絡会、東京保育経営研究懇話会、日本学童保育学会、全国幼年教育研究協議会でそれぞれ役員として任務を果たした。施設長は、関係自治体施設長会議に出席し地域事業の推進に積極的役割を果たした。

・第2回福祉経営研究交流会準備

23年12月に横浜で開催が予定されている第2回福祉経営研究交流会の実行委員会に法人として参加。実行委員長、事務局任務などを担っている。

5. 人事管理・研修

・職員待遇改善

国自治体の職員待遇改善策に沿った職員待遇改善を行った。

有期雇用職員制度の検討は問題提起にとどまっている。中長期的視野から労働力確保策と連動した待遇改善策が求められている。

・職員人事データの法人本部集約

入職退職、法人内職位、辞令等のデータの整理が進んだ。データの誤りの是正など、引き続き改善を図っている。

・職員採用、人事異動

リクルートは各拠点希望の職種に応じた人数を確保することができた。全国からオンライン就職説明会への参加があり、これまでのリクルート活動が結実しつつある。リクルート活動と連動した新人研修の試みが開始された。

24年4月開設予定のしろくま保育園への法人内職員異動をほぼ内定できた。

十分な規模ではないが拠点間の定期人事異動を行うことができた。

・職員研修

新人研修、中堅研修、法人合研の各部会が責任をもって活発に研修会を実施した。昨年度来、経営会議より課題としてあがっている諸研修の体系化の課題を含め、過密になりがちな研修スケジュール管理と、就労意欲向上につながる研修内容づくりを検討した。

11月19日に行われた50周年記念レセプションと合同開催した法人合研は、実践報告と法人史を学んだのち、各施設で討議して学びを深める研修とした。新人研修、中堅研修はオンラインとリアルを並行して行った。

全国保育合研集会、福祉経営全国会議の研修等において実践報告などを行った。

・他法人との交流研修

愛知の新瑞福祉会、福島のわたり福祉会と共に三法人合同の主任・副園長研修実行委員会に参加し、交流研修を2回実施した。

6. 地域貢献、災害対応

・地域貢献

こぐま保育園では継続的に地域子育て支援「あそぼうかい」に取り組んでいるほか、シニアサークル事業を再開することができた。

上北沢こぐま保育園では、世田谷区の地域活動事業補助金を利用し、地域子育て家庭向けに「こぐま食堂」事業を開催。年間5回、給食調理食を配布することができた。

・災害対応

大災害に対応できる各拠点危機管理計画は策定できなかった。

大災害時の各拠点の地域貢献の検討もすすめることができなかった。

7. 広報・ICT化

・法人ニュース

法人誌「たまふく」15号、16号、17号を発行した。読者アンケートを実施し、希望者(65カ所)への郵送送付をなくし、メール添付・ホームページ閲覧での発信を開始した。

・法人ホームページ

コンスタントに更新を継続した。新設保育園のホームページ開設と同時に全施設のホームページ刷新を計画。各施設から委員を選出し23年度に全施設の刷新を進める予定。

・SNS

各施設SNS担当者を決定し直接更新を開始。リアルタイムな記事のアップ、コンストンクトな更新を実現した。

・ICT化

各拠点のICT化を開始しているが、法人全体のICT化には至っていない。

2022 年度 こぐま保育園事業報告

1. 事業実施状況

(1) 認可定員及び入所状況

1) 4月入所

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
認可定員	21	35	38	39	39	39	211
運用定員	21	35	38	39	39	39	211
新規入園	7	14	0	0	0	0	21
空き	15	0	0	0	2	3	20

2) 途中退園児

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
途中退園	4	0	1	0	2	0	7

3) 途中入園児

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6月	1						1
7月	4						4
8月	6						6
9月	3						3
11月					1		1
2月					2	1	3
3月	1						1
計	15	0	0	0	3	1	19

(2) 保育年齢 産休明け～就学前

(3) 保育時間 7：00～19：00

(4) 延長保育 1時間延長（18：00～19：00）

利用登録数 47名（うち0歳児 3名）

- (5) 1～5歳児の異年齢保育
- (6) 障がい児保育 多摩市増配置加算対象 10名
東京都サービス推進費対象 7名
- (7) アレルギー食対応数 配慮児童 7名
- (8) 地域活動事業
- 体験保育 15名
 - 産前産後育児体験 6組
 - 小中高生育児体験 5校 延25名
 - 実習生受け入れ 18名
- (9) 多摩市特別保育事業
- 一時・定期利用保育事業
- ① 利用定員 定期利用保育定員 5名 年間で7名利用。
一時保育 1日3名程度 登録家庭 34名、
延べ利用人数 1067名 (うち4時間利用 67名)
 - ② 保育職員体制 常勤 1名・非常勤職員 1名
- (10) 自主地域活動事業 (あそぼうかい…週2回、)
- あそぼうかい 延べ利用人数 1.2歳児 火曜実施 38名
0歳児 金曜実施 70名
 - 世代間交流 コロナ対策のため中止 (活動は土曜に開始)

2. 児童状況

① きょうだい関係

にじ	やま	そら	うみ	かぜ	もり
6世帯	1世帯	1世帯	1世帯	2世帯	2世帯

- ② 育児困難・配慮家庭 19家庭 22名 (関係機関連携)
- ③ 発達観察要配慮児童 10名 (診断ならびに専門機関と連携あり)
- ④ アレルギー食対応児 7名
- ⑤ 外国人家庭配慮

 - 宗教食対応児 2名 (牛、豚)
 - 児童言語配慮 5名
 - 保護者言語配慮 5家庭

3. 職員状況

(1) 正職員(在籍) 46名(2022年4月)

内訳 正職員 41名、育休 5名

① 正職員配置状況 (2023年3月31日現在)

園長	副園長	主任	保育士	事務長	看護師	栄養士	調理員	丸早 専任	産育休	合計
1	2	1	29	1	1	5	0	0	8	47

※栄養士 給食主任 1名

- ② 新規採用者 7名 (保育士5名、栄養士2名)
- ③ 産休・育休取得者 8名
- ④ 病休取得 2名
- ⑤ 育休復帰者 1名
- ⑥ 育児時間短縮勤務 0名
- ⑦ 短時間職員制度利用 0名
- ⑧ 異動職員 1名 (給食砧保育園より)
- ⑨ 退職者 5名 (2022年4月末日付1名・2023年3月末日付4名)

(2) 有期契約職員

① 有期契約職員配置状況 (2022年4月1日現在)

	にじ	やま	そら	うみ	かぜ	もり	給食	ちい くま	環境 衛生	事務 室	合計
人員数	4	5	6	4	6	4	7	1	3	2	42

※事務室2名は委託

4月入職 2名、年度途中入職 8名、退職 11名 (うち4名 2023年3月末退職)

② 派遣職員 2名 (年度途中採用)

(3) 嘱託医 3名

- ① 小児科医 1名 (松本多絵医師 日本医科大学永山病院小児科医局)
- ② 産業医 1名 (加藤 真医師 横浜市立大学付属市民総合医療センター)
- ③ 歯科医 1名 (三上 直一郎歯科医 三上歯科医院 医師)

(4) 講師 1名

- ① わらべうた 勝俣希子

4. 協力関係機関との連携

- (1) 島田療育センター巡回指導 →コロナ対策により実施見合わせ
- (2) 発達支援室巡回・教育センター →巡回 6件、 就学相談 6件
- (3) 市・健康センターへの相談 →5件
子ども家庭支援センターへの相談 →13家庭 16名
- (4) 都保健所保健指導、児童相談所発達相談等の援助・協力
- (5) 産業医との連携 3か月ごとの安全衛生委員会開催と報告・相談、ストレステック実施。メンタルヘルス研修会1回実施。

5. 新型コロナウイルス感染症対策についての報告

休園対象	児童陽性	職員陽性	保護者・職員家族	休園期間
0歳児	1	4	8	11月15日～19日（1クラス）
異年齢1のおうち	19	5	43	4月20日～25日 6月20日～25日 7月4日～8日（特別保育実施）
異年齢2のおうち	14	4	12	6月18日～23日
異年齢3のおうち	12	2	12	4月18日～21日
異年齢4のおうち	7	5	11	3月28日～31日

- 1) 日常の感染予防対策は感染数が下がっても緩めることはせず、保護者の送迎時の立ち入りは食堂までとしました。(ひとつのおうちは保育上の必要から保育室内への保護者の立ち入りと協力を求めました。) また、前年度から引き続き、複数のおうちを渡る職員が出席する会議については、10月までオンラインで行いました。年度末まで職員会議は半分に分け短時間で行うように工夫するなど、大人同士が感染を起こさない様最大限対策を行いました。
- 2) 7月8月は子どもの感染が主となるオミクロン株の拡大により、多くの児童と保護者が感染しました。休園が相次ぎ、そのたびにおうち毎に朝から晩までの保育となり、職員はおうちを渡る応援を中止していたため、休暇の返上の連続となり大変苦しい状態を強いられました。保護者についても休園があるたびに就労への影響が発生しました。
- 3) 多摩市の対策変更により第7波が治った11月より基本的に休園という対処はなくなりました。

6. 重点とする取り組みについての報告

コロナ禍となり 3 年が経過しました。3 年ぶりの保護者参加を冬祭りにおいて復活させることができ、子どもたち、保護者、職員にとって大きな喜びとなりました。今後の職員、保護者の主体性が発揮される取り組みへつながりました。

- (1) 地域要求をもとに定員変更計画実施するとともに財政問題に取り組みます。
- 22 年度はできるかぎりの検討を行い実施しました。
 - ① 法人でこぐま財政検討委員会を立ち上げ、定員割れの影響を受けての減収と、修繕を見据え、財政問題を検討しています。
 - ② 当園の適正な定員について多摩市と共に検討を行いました。22 年度の多摩市との懇談では、現在コロナ禍のため先が読みづらく、1 年ごとにしか利用定員変更は見通せないため、「認可定員はしばらく変更せず、少しづつ利用定員を変更していく」ことで合意し、園内では向こう 5 年で 170 名程度の定員にしていく暫定の計画をたて、23 年度は 0~3 歳児を上記の利用定員に変更しました。
市全体としても 0 歳児に関しては 22 年度初めに 52 名、23 年度初めは 60 名の空き定員が出ており、当園は 23 年度 0 歳児利用定員を 15 名と変更しましたが、4 月時点で 5 名の空きとなっています。また、1 歳児に関しては市内で定員割れが 25 名出ている一方、保留児童も 1 次選考時点で 65 名でおり、マンション計画などによる地域差が要因となり、永山駅周辺の永山・諏訪地域の 0 歳児定員割れが大幅となっています。
 - ③ 永山地域アンケートを見据えつつ、園内で保育要求アンケートを実施しました。その結果、0 歳児期間の育休取得希望が多いことがわかりました。出産の先延ばしや検討なども考えられ、この先の利用数の希望が減少していることがわかりました。
要求主体である保護者と一緒に考えあい当園の事業の長期計画の具体化や永山や近隣地域の様々な世代の要望に応える新規事業の開拓のための参考となりました。
 - ④ 地域支援事業である「あそぼうかい」の継続や一時保育事業を通して 6 名の入所があったことは、コロナ禍とはいえ当園の地域での重要な役割として今後の展望へつながるものでした。
 - ⑤ 定員変更計画を含む職員体制の検討に着手しました。10 月開始の社会保険制度改変を見越し、有期雇用職員の中で長時間勤務者を置き、力の借り方を検討しつつ 23 年度の時給や仕事内容の発展につなげました。

(2) 子どもの主体性、自主性が發揮できるよう保育を発展させます。

→

- ① コロナ禍の取り組みが続く中、昨年度はこぐまの日常をコロナ禍バージョンで味わい、子どもたちが培ってきた年長児に対するあこがれを意欲へとつなげることができました。また、コロナ禍でははじめて保護者参加型の行事を冬まつりで実現することができ、子ども・保護者・職員にとっての喜びとなりました。
- ② 保育の安全という点について振り返りや対策を行いました。個人情報に関する取り組みでは、取り扱いについて実態を把握し、新たな対策に取り組み、再学習を行いました。情報管理については年2回以上の研修に取り組むことを次年度計画としました。また、裾野市の保育園虐待事件をきっかけに不適切保育については法人でも取り上げ、園内では日常取り組んでいることではありますが、各セクションにもう一度振り返りを行うよう職員会議で取り上げ、「子どもの人権を守り発展させる保育」という点にたち、「職員の個人責任にしない、苦しい職員は相談を。」という点を呼びかけました。
- ③ 歴史の上に立って保育内容を検討するという点では、総括の場の学びを継続しました。また、50周年を祝う会実施や「多摩福祉社会50年誌」発行を受け、50年を学び始める年となりました。祝う会の後、職員の中から「退職職員による生の話を聞きたい」という要望が出され、元幹部職員などの協力を得て座談会を開き、今も昔も共通する視点の話を聞き刺激を受けました。異年齢保育が始まる前、保育内容面で苦難があったときに皆で考え合えるよう取り組んだ実践を共有し、新しい視点で保育を見つめるきっかけとなるなど、若い職員への大切な刺激として息づき始めています。
- ④ 保育実践の相談ができるアドバイザーとして元園長に保育を観察してもらい実践上のアドバイスを受けるよう取り組み始めました。始まったばかりですが職員が保育上の課題を整理する姿が見られました。

(3) 職員の主体性が發揮できる運営を目指します。

- ① 幹部体制、事務室体制の構築

→ 幹部の世代交代及び法人事業計画にある多摩市内外の施設拡大を念頭に置き、副園長、主任などの幹部養成を行い、長年副園長3名体制を目指してきました。2022年度は新人職員7名をむかえ、新人育成を重点としつつ、運営の安定を図るために、責任者会議で全体状況を把握検討し、園運営の視点を引き継ぐことを目標に置き、さらに中期計画通り主任の交代を行い、現場の活性化につなげました。24年度の園長交代を見据え、23年度の副園長1名、主任1名を新たに幹部として迎える体制確立につなげました。

- ② 仕事の基本点を深め合いつつ職員集団づくりに取り組みます。
- 若い職員が多くなっている現状に立ち、夫々の個性を認め合い、自信をもって仕事に向かえるよう取り組んできました。(研修については 6 の実施状況に記載) また、必要時には園長が面談を行うなど個別のメンタルケアも大切にしてきました。職場の課題が出されたときには再度、基本点に戻って子どもたちにとって何が必要なのかについて深め合えるよう、総括会議などで職員が刺激し合えるよう工夫し、また事務室のメンバーが援助をおこないました。
- ③ 職員体制、構成の検討再構築をおこないます。
- 利用定員の適正化と職員定数と構造の変更は上記財政の取り組みに記載。
- ④ 働く環境をととのえ、働きやすい職場づくりを行います。
- 結婚、出産と重なる時期をむかえる職員層が増え、産休・育休取得希望者の増加や復帰してからも働き続けられる環境の整備など、個々のニーズを把握しながら既存の制度を活かすよう取り組み、1 名が育休から復帰、産休育休を 8 名取得しました。

(4) 保護者と共に子育てを考え、互いに力を出し合う運営を発展させます。

→

- ① 大きな制約を受けたコロナ禍でもできることを 1 歩ずつ広げ、22 年度の冬まつりではクラスごとではありましたが、コロナ禍で初めて保護者直接参加型行事を復活させることができました。実行委員の保護者が役割をもって力を出し、「なんだか楽しいですね」と新入園児の保護者から言葉がもれ、家族と一緒に楽しむ子どもたちの笑顔は本当に久しぶりでした。元は大規模であった行事を小単位に分けて取り組む中、見えてきた良さも学ぶことができ、次に生かしていくことへつながりました。
- 日常送迎の部分についてはどのクラスも衣類タンスの場所まで保護者の入室ができるよう、また要望の高かった保育参加についても、おうちの運営委員会を中心に保護者と作りあうことを大切にし、各おうちで主体的に 1 歩ずつ進むことができたことが喜びとなりました。
- ② 新型コロナウイルス感染症に対する取り組みではおうち休園が 7 回ありましたが、多摩市の方針変更により、10 月以降は児童の感染がおきたことイコール休園ではなく、保育を継続できる条件があれば継続することとなり、園の実情に合わせて市と相談しながら対策をとってきました。7 月に子どもの感染が中心となったオミクロン株の流行時には小児医療難民がでてしまったほどで、保護者の不安が増大し、当園も心配しましたが、下火になると保護者のワクチン接種もあいまって休園はなく過ごしています。
- ③ また、五者協で 1 年の行事見通しなどについて園の対策を合わせて説明を行

い、理解が得られるよう父母会に協力をもとめ、中間地点でも意見交換の場を設定してきました。

(5) 地域の人々にとっての福祉環境の発展にさらに貢献します。

→

- ① 22年度は、事前予約や人数制限なしで地域子育て支援「あそぼうかい」などに取り組むことができましたが、21年度の人数制限や開催中止、また少子化の影響により、利用者が少ない状況が続きましたが、児童館と連携を行い、集団保育が必要な児童や家庭に対応しました。この事業は現在自主事業としてとりこんでいますが、地域住民のために保育園が力を発揮することは継続して求められています。
- ② シニアサークルについては、園の土曜体制の変更に伴い、ホールをシニアサークル専用とできる土曜日に開催することにより、園児や職員からの感染が避けられると判断し再開することができました。
- ③ 一時保育・定期利用保育事業を発展させています。

交流する異年齢のおうちに遊びに行き、共に過ごす実践をさらに充実・発展させてきました。また、発達面や家庭環境面で健康センターや子ども家庭支援センターなどの紹介で利用が増加しており、一時保育事業の脆弱な制度ではそのような専門性を必要とする保育ができない現状となっています。発達支援が必要な児童の受け皿である専門性と継続性を持った機関が市内では不足していることがわかってきてています。保育園がそういった面でも力を発揮できるよう市と懇談の際に意見をあげるなど行いました。園長会などでもとりあげつつあり、今後課題として取り組んでいく必要があります。

以上のように継続して取り組んできたことや、一時保育事業のとりくみなどにより、援助を求める家庭（児童）について市の関係機関からの紹介にもつながっています。また、永山学童クラブや児童館との連携も密に行ってています。

このような地域事業が、法人として目指す永山地域、隣接地域などに関する18歳までを見通せるような事業、利用者が主体性を発揮し、一緒に事業を創造していく事業の足がかりとして実践の積み上げが進んでいます。

- ④ 学童4施設との連携の面では夏休み体制補助の必要性が生じたとき、永山学童への協力を行うことができました。一方、内容面での交流についてはコロナ禍のためもありできませんでした。
- ⑤ 協力、共同関係にある父母の会、同窓会、労働組合と五者協議会を3回実施し、各団体の状況共有と意見交換を行いました。

7. 職員研修実施状況

- ① 法人の研修体系の見直しを 2021 年度に図りました。2022 年度は施設別の特徴をつかみながらの研修計画が必要な年度となります。同時に、キャリアアップ研修終了要件の目安が内閣府より出され、それに関する対応並びに主体的な研修への取り組みも行っています。

→キャリアアップ研修については、あくまでも制度上課せられている位置づけのものではありますが、その機会を無駄にすることなく学びの場として積極的に活用していくことができました。

経営懇主催の研修ではリモートにはなってしましたが、法人外の方と交流できる場でもあり、自分たちの実践を振り返るとともに、発信する側にも立つことで改めて自分たちの実践から学ぶこともできました。

オンデマンド研修では、事務室職員中心に同じ内容の研修を視聴し、その内容を交流することで、受けっぱなし研修とならない工夫をすることができました。

多摩市保育協議会主催研修では、多摩市内の園と交流しながら、より実践的な内容で研修を受けることができ、研修報告の中でもそのことについて多く触れられています。これら様々な団体・媒体を通しての研修機会を充実させることで、学び合う集団作りの素地づくりができました。

受講分野	乳児保育	幼児保育	障がい児保育	食物アレルギー	保健衛生安全対策	保護者支援子育て支援	マネジメント
修了者数	4 名	2 名	2 名	0 名	2 名	2 名	5 名

- ② 2021 年度から本格的に取り組んでいるバディー制度や継続的新人研修、1・2・3 年目の継続面談など、昨年度の実践を土台にしながら 7 人の入職者を迎えるという特徴を生かした研修を実施していきます。また、リモート並びにオンデマンド研修も多くなっていますので、研修受講を増やしていくと共に、振り返りや話し合いを通して職員全体の共有性を高めます。

→ 数年前から取り組み始めた新規採用職員育成方法が、定着してきました。

研修内容については、計画通り多分野にわたる内容を実施することができました。7 名という複数名の新人を受け入れていく特性上、一方的な講義形式ではなく、お互いがコミュニケーションを取りながら実施できるような企画を多く入れるなど、保育や社会人としての基礎に加え、コミュニケーション労働の特性等にも触れながらの研修を実施できました。

また、中期にも一度研修を新たに加え、より実践的な振り返りはもちろん、保育やこぐま保育園の“なぜ？”を語り合う会など、工夫を凝らした研修を行うことができました。

バディー制度では、新人研修の要素はもちろん、研修担当職員とバディーとなる中堅職員との打ち合わせを通して、中堅職員当事者にとっても、新規採用職員への接し方、様子の捉え方、助言・指導の仕方など多角的なサポートスキルを学ぶ場として効果を発揮しました。

8. 修繕実施状況

2021 年度に行った中・長期修繕計画見直しに基づき、今後も長期的な施設の維持管理を見据えた折り返しのスタート年度となるのが本年度の特徴となります。軀体部分（骨組みや外壁、屋根など）に関する修繕については行いながらも、内部については劣化状況を見つつ法人・専門家らと確認し、その計画の基実施していくこととなります。

一方で、自治体格差が大きく財政的裏付けが乏しい特徴があるため、創意工夫など費用を極限まで抑えていくことが求められており、2022 年度も大幅な収入減収のため必要最低限にとどめます。

→2022 年度修繕については中・小合わせて 17 の分野の修繕等を行いました。計画的な実施ができた分野もある一方で、半分近くの分野が予期せぬ破損や故障、その他修繕が必要な状況となってしまいました。施設整備にかかる計画をより正確なものとしていくため、さらなる見直しを行っていくことが今後の課題です。

ただ、費用の低廉化については目標通り徹底することができたと考えます。特に、職員独自で行える修繕については外部発注を行わずに修繕するなどの工夫を行い、外部発注をかける際にも、低廉に勤めることができます。

人工芝張替工事については、本年度の事業計画としていましたが、財政的見通しが不透明であったこと、物価高による財政的ふくらみが大きかったこと、施工業者の選定に難航したこと等を理由に、本年度の実施を見送り、2023 年度事業計画へと反映させていくこととしました。

2022年度 こぐま保育園 参加研修一覧

正職員								
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリア パス 該当	自主研修 対象
1	もり	東京経営懇乳児研究会	経営懇	リモート	6/15, 7/13, 9/14, 10/12, 11/9	乳児保育研究会	○	×
2	そら	東京経営懇乳児研究会	経営懇	リモート	6/15, 7/13, 9/14, 10/12, 11/9	乳児保育研究会	○	×
3	給食室	東京経営懇幼児研究会	経営懇	リモート	6/22, 7/20, 9/21, 10/19, 11/16	幼児保育研究会	○	×
4	もり	東京経営懇幼児研究会	経営懇	リモート	6/22, 7/20, 9/21, 10/19, 11/16	幼児保育研究会	○	×
5	事務室	東京都保育士等 キャリアアップ研修	日本ウェルフェア協会	リモート	10月29日（3 h） +12hオンデマンド	マネジメント	○	
6	事務室	第18回経営懇主任セミナー	経営懇	リモート	11月11日	コミュニケーションどうしてる？		
7	そら	田研セミナー	田中教育研究所	録画配信	10月25日	子ども、親、保育者の SOSに応える		○
8	うみ	多摩市キャリアアップ研修	多摩市保育協議会	リモート	10/6, 10/20、 11/17	障がい児保育	○	
9	やま	多摩市キャリアアップ研修	多摩市保育協議会	リモート	11/11, 11/16, 11/28	障がい児保育	○	
10	そら	多摩市キャリアアップ研修	多摩市保育協議会	リモート	11/18, 12/2, 12/23	マネジメント研修	○	
11	かぜ	多摩市キャリアアップ研修	多摩市保育協議会	リモート	11/18, 12/2, 12/23	マネジメント研修	○	
12	やま	多摩市キャリアアップ研修	多摩市保育協議会	リモート	10/6, 10/20、 11/17	安全・保健研修	○	
13	そら	多摩市キャリアアップ研修	多摩市保育協議会	リモート	10/6, 10/20、 11/17	安全・保健研修	○	
14	給食室	多摩市キャリアアップ研修	多摩市保育協議会	リモート	11/18, 12/2, 12/23	マネジメント研修	○	
15	給食室	第18回主任セミナー	経営懇	リモート	11月11日	職員みんなで保育を作ろう ！、主任の仕事って？		
16	給食室	南多摩保健所講習会	南多摩保健所	リモート	10月8日	職員衛生実務講習会		○
17	やま	中堅層研修	多摩福祉会	リモート	7月5日	中堅層		
18	にじ	1年目研修	多摩福祉会	リモート		新人研修		
19	やま	1年目研修	多摩福祉会	リモート		新人研修		
20	そら	1年目研修	多摩福祉会	リモート		新人研修		
21	もり	1年目研修	多摩福祉会	リモート		新人研修		
22	かぜ	1年目研修	多摩福祉会	リモート		新人研修		
23	うみ	1年目研修	多摩福祉会	リモート		新人研修		
24	事務室	東京都保育士等 キャリアアップ研修	日本ウェルフェア協会	リモート	11月12日（3 h） + オンデマンド12h視聴	乳児保育	○	
25	事務室	東京都保育士等 キャリアアップ研修	日本ウェルフェア協会	リモート	9月10日（3 h） + オンデマンド12h視聴	保護者支援・子育て支援	○	
26	事務室	東京都保育士等 キャリアアップ研修	日本ウェルフェア協会	リモート	11月12日（3 h） + オンデマンド12h視聴	乳児保育	○	
27	事務室	東京都保育士等 キャリアアップ研修	日本ウェルフェア協会	リモート	12月10日（3 h） + オンデマンド12h 視聴	保護者支援・子育て支援	○	

正職員								
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリア パス 該当	自主研修 対象
28	うみ	合研	全国保育団体合同研究集会 実行委員会	リモート	9月5日～9月25日 期間中に視聴	気になる子が変わるとき		○
29	うみ	合研	全国保育団体合同研究集会 実行委員会	リモート	9月5日～9月25日 期間中に視聴	夢中になって遊びこむ保育 学童期、思春期を見通して幼児期に大切にしたいことなど		○
30	うみ	合研	全国保育団体合同研究集会 実行委員会	リモート	9月5日～9月25日 期間中に視聴	0.1.2歳児の発達と保育 夢中になって遊びこむ保育		○
31	そら	合研	全国保育団体合同研究集会 実行委員会	リモート	9月23日～	夢中になって遊びこむ保育をコロナ渦で考える今、保育、子育てで大切なこと		○
32	そら	合研	全国保育団体合同研究集会 実行委員会	リモート	9月24日～	いやいや、泣き止まないどうしたらいい？／夢中になって遊びこむ保育を		○
33	そら	合研	全国保育団体合同研究集会 実行委員会	リモート	9月25日	夢中になって遊びこむ保育を／ へいわってどんなこと？／保育、 子育てのノロイをちょっぴりほどく／学童期、思春期を見通して 幼児期に大切にしたいこと		○
34	そら	合研	全国保育団体合同研究集会 実行委員会	リモート	8月21日～22			○
35	そら	全国研究集会	全国幼年教育研究協議会	リモート	7月23日	①保育の中の子どもの権利を見つめる ②心もからだもまるごと育てるあそび の力		○
36	やま	冬の研究集会	全幼協	リモート	1月29日	実践的な「子ども理解の難しさ」と面白さ		○
37	やま	合研	全国保育団体合同研究集会 実行委員会	リモート	8月20日	コロナ禍で考える、 今保育、子育てで必要なこと		○
38	うみ	合研	全国保育団体合同研究集会	リモート	8月20日	気になる子が変わるとき 学ぼう繋がろう、子どもの命と育ちと平和のために		○
39	うみ	合研	全国保育団体合同研究集会	リモート	9月5日	夢中になって遊びこむ保育 学童期、思春期を見通して幼児期に大切にしたいことなど		○
40	うみ	合研	全国保育団体合同研究集会	リモート	9月25日	ゼロ、1. 2歳児の発達と保育 夢中になって遊びこむ保育を開会式保育子育てフォーラム		○
41	うみ	合研	全国保育団体合同研究集会	リモート	9月25日	夢中になって遊びこむ保育を		○
42	うみ	合研	全国保育団体合同研究集会	リモート	9月25日	気になる子が変わるとき 学童期、思春期を見通して幼児期に大切にしたいこと		○
43	かぜ	合研	全国保育団体合同研究集会	リモート	8月6日	三歳児の保育B		○
44	かぜ	合研	全国保育団体合同研究集会	リモート	9月25日	ゼロ、1. 2歳児の発達と保育		○
45	かぜ	合研	全国保育団体合同研究集会	リモート	8月7日	子どもの生活と異年齢保育		○
46	かぜ	食と健康を考えるシンポジウム	芽ばえ社	浅草橋ヒューリック カンファレンス	10月30日	偏食について、食育について学ぶため		○
47	事務室	全国経営懇夏季セミナー	経営懇	リモート	9月12日			
48	事務室	全国経営懇夏季セミナー	経営懇	リモート	9月12日			
49	事務室	保幼小合同研修	保幼小	リモート 教育委員会	7月27日 11月7日			
50	全職員	荒馬研修	荒馬担	ホール	年二回	職員の自主的な研修		
51	もり	合研	全国保育団体合同研究集会	リモート	9月23日	学童期、思春期を見通して幼児期に大切にしたいこと		○
52	もり	合研	全国保育団体合同研究集会	高知 県民文化ホール	8月20日～21	・オープニング、保育フォーラム ・保育、子育てのノロイをちょっぴりほどく ・親子で遊ぼう、大人も遊ぼう		○

正職員								
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象
53	もり	合研	全国保育団体合同研究集会	リモート	7月23日	心も体もまるごと育てる あそびの力 イメージを広げる表現あそび		○
54	もり	合研	全国保育団体合同研究集会	リモート	8月20日	保育、子育てフォーラム		○
55	にじ	合研	全国保育団体合同研究集会	リモート	期間内に オンライン配信閲覧	保育、子育てフォーラム		○
56	にじ	合研	全国保育団体合同研究集会	高知 県民文化ホール	9月10日	夢中になって遊びこむ保育を 豊かな実践から探る『保育の知』		○
57	にじ	合研	全国保育団体合同研究集会	リモート	8月21日	保育のノロイをちよっぴりほどく あなたの悩みは私の悩み		○
58	にじ	合研	全国保育団体合同研究集会	リモート	9月10日	0、1、2歳児の発達と保育 子どもの育ちに学ぶ		○
59	にじ	田研セミナー	田中教育研究所	リモート	9月23日	子どもと親の育ちを支える 保育者コース		○
60	給食室	東社協保育部会 給食担当者講習会	東社協 今井孝成	リモート	1月31日～			○
61	給食室	食育で大切にしたいこと	多摩市保育協議会	リモート	1月27日	食育で大切にしたいこと 国内、海外から学ぶ		○
62	給食室	合研	全国保育団体合同研究集会	リモート	8月7日	子どもの生活と異年齢保育		○
63	給食室	食と健康を考えるシンポジウム	食べ物文化研究会	浅草橋ヒューリック カンファレンス	10月30日	食と健康を考えるシンポジウム		○
64	給食室	給食担当者講習会	順天堂大学医学部 大学院医学研修科	リモート	10月3日	コロナかだから知りたい 免疫の仕組み		○
65	給食室	東社協保育部会 給食担当者講習会	言語聴覚士 山崎祥子	リモート	7月19日	上手に食べる、食べさせる		○
66	給食室	食育	多摩市栄養士会	リモート	5月12日	保育所における食育のあり方		○
67	事務室	合研	全国保育団体合同研究集会	リモート	期間内に オンライン配信閲覧	へいわってどんなこと		○
68	事務室	合研	全国保育団体合同研究集会	リモート	期間内に オンライン配信閲覧	学童期、思春期を見通して幼児期 に大切にしたいこと 日本ってどんな国？ ゼロ、1、2歳児の発達と保育		○
69	事務室	民間社会福祉施設職員等 オンライン海外研修、調査	日本保育協会 研修部	リモート	10月12日～10月14日	フィンランドの保育事情セミナー		○
70	事務室	東京都保育士等 キャリアアップ研修	日本ウェルフェア協会	リモート	12月10日（3 h） + オンデマンド12 h 視聴	マネジメント	○	
集計							16	40

2022年度　こぐま保育園　　参加研修一覧

有期職員									
NO.	役職・クラス	氏名	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	自主研修対象	備考
1	そら	柴田 麻汐	合研	全国保育団体合同研究集会	リモート	9月8日	保育、子育てのノロイをちょっぴりほどく	○	
2	そら	宮田 香	合研	全国保育団体合同研究集会	リモート	8月21～22	夢中になって遊びこむ保育を学童期・思春期を見通して幼児期に大切にしたいこと 平和でなければ保育はできない	○	
3	うみ	鈴木幸恵	合研	全国保育団体合同研究集会	リモート	9月25日	ゼロ、1、2歳児の発達と保育	○	
4									
集計								3	

2022年度　こぐま保育園 参加研修一覧

園全体の研修他							
NO.	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	対象者
1	第1期総括	こぐま保育園	こぐま保育園	5月14日	一期の振り返り	/	正職員
2	第2期総括	こぐま保育園	こぐま保育園	10月14日 10月24日	二期の振り返り	/	正職員
3	第3期総括	こぐま保育園	こぐま保育園	12月17日	三期の振り返り	/	正職員
4	第4期総括	こぐま保育園	こぐま保育園	2月18日	四期の振り返り	/	正職員
5	にじ・保健・給食研修	こぐま保育園	こぐま保育園	4月1日		/	当該クラス職員
6	文書・実務研修	こぐま保育園	こぐま保育園	4月4日		/	常勤職員 1～3年目または希望者
7	職員会議	こぐま保育園	ホール	4月27日		/	常勤職員
8	職員会議	こぐま保育園	ホール	6月17日	応急救護研修	/	常勤職員
9	職員会議	こぐま保育園	ホール	7月1日		/	常勤職員
10	中堅層研修	多摩福祉会	リモート	7月2日		/	中堅層職員
11	フレッシュヤーズ会議	こぐま保育園	こぐま保育園	通年	副園長+各クラスバディ担当 新人職員で振り返り	/	新人職員
12	新人研修	こぐま保育園	こぐま保育園	8月23日		/	新入職員
13	働き方検学習会	多摩福祉会	リモート	9月12日		/	針尾政幹
14	ドル平研修	こぐま保育園	こぐま保育園	7月29日	ドル平泳法について	/	常勤職員
15	職員会議	こぐま保育園	こぐま保育園	10月21日		/	常勤職員
16	新人研修	こぐま保育園	こぐま保育園	10月17日		/	新入職員
17	不審者訓練	こぐま保育園	こぐま保育園	10月21日	不審者対応についての訓練 警視庁より迎えて実践含む	/	常勤職員
18	全国保育研究大会	全保連	教育委員会	11月7日		/	青野陽子
19	法人合研	多摩福祉会	現地+リモート	11月19日	法人50周年記念	/	全職員、法人関係者
20	わらべうた研修	こぐま保育園	ホール	通年	毎月わらべうた講師の勝俣tによる、 大人対象のわらべうた研修を行う	/	常勤職員
21	メンタルヘルス研修	こぐま保育園	ホール	12月14日	産業医より 職員向けにメンタルヘルス研修	/	常勤職員
22	中堅層研修	多摩福祉会	リモート	1月19日		/	中堅職員
23	新規職員研修	多摩福祉会		2月25日		/	新入職員
24	全職員会議	こぐま保育園	ホール	3月24日	保育で大切にしたいこと等	/	全職員
25	文書実務新人研修	こぐま保育園	ホール	3月30日		/	1～3年目職員中心に参加
集計						/	25

2022 年度 練馬区立向山保育園事業報告

1. 児童状況

(1) 認可定員 120 名 運用定員 124 名

年齢	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	合計
認可定員	9	18	21	23	24	25	120
運用定員	9	19	22	24	25	25	124

(2) 保育年齢 8 か月～就学前

(3) 児童状況

- ① アレルギー児 0 歳： 2 名 1 歳： 1 名 2 歳： 3 名
3 歳： 2 名 4 歳： 1 名 5 歳： 1 名
- ② 障がい児 3 名
- ③ 外国人家庭 2 家庭

2. 保育時間

開園時間 7 時 00 分～20 時 30 分

延長保育 7 時 00 分～7 時 30 分 18 時 30 分～20 時 30 分

3. 職員状況

(1) 正職員

職種	園長	副園長	主任	事務長	看護師	保育士	栄養士	調理師	環境衛生	合計
人数	1	2	2	1	1	23	3	1	1	35

(2) 正職員状況

- * 新規採用者 0 名
- * 育休復帰者 保育士 2 名 栄養士 1 名
- * 産休者 0 名
- * 退職者 0 名
- * 他施設からの異動者 保育士 2 名
- * 他施設への異動者 栄養士 1 名

(3) 有期契約職員

職種	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	給食	環境	日祝専任	土曜専任	合計
人数	2	2	3	2	2	1	3	2	1	1	19

(4) 嘴託職員

- | | | |
|------|------------------------|--------------------------|
| ①嘱託医 | 和田ファミリークリニック
安藤歯科医院 | 和田万里子（小児科医）
安藤浩徳（歯科医） |
| ②産業医 | 田中医院 | 田中美緒（内科・神経内科医） |
| ③講師 | | 鈴木典子（わらべうた） |

4. 研修について：別資料

- ・自主研修は書籍を通しての研修が中心となる。
- ・研修は主にオンラインによる研修が中心になる。

5. 特別保育事業

① 延長保育（継続利用者児童数）

	朝 7:00~7:30	夕① 18:30~19:30	夕② 19:30~20:30
定期利用数	7名	5名	2名
年間利用数	1,266	608	343
スポット利用日数	27	581	74

② 休日保育（継続児童数）

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
人数	0	4	4	3	3	4	18

年間利用日数 447 日

6. 運営重点課題

(1) 運営、保育の見通しをもっていきます。

- ・2023年度の園長交代を見通し、副園長2名、乳児主任1名、幼児主任1名、事務長1名の6名体制で業務分担に基づき引継ぎ等を含めた業務をおこなってきました。22年度もコロナの感染拡大が広がり、職員やその家族が感染したり、体調不良等で出勤できなかつたりの状況が続き事務所から現場に入るが多く、それぞれの業務引継ぎについては来年度以降もおこなうことになります。

- ・ 後半期は園長が対外的な業務があり不在が多かったが、副園長を中心に行行政への対応、各種会議の議題整理、職員、保護者対応など本来園長が行う業務を担っておこなっていました。
 - ・ 育児時短正職員、短時間正職員など職員の働き方が多様化してきました。クラス配置も時短者が重ならない等配慮し決定してきました。職員就労が安定してきたことが柔軟なクラス配置を可能にし、個々の職員の抱えている状況（家族・自分の体調等）を可能な限り園でもクラスでも共有しながらの運営に努めてきました。
- 職員同士の心地よい関係が子どもにも影響します。今以上に職員同士が安心して自分を表現でき信頼し合える関係性をつくっていく必要があります。
- ・ 早番専任、土曜専任、日曜専任職員を配置することができ、保育内容の安定化と職員の労働軽減をはかってきました。
 - ・ 園運営を支える重要な柱の一つが財政です。理事会後に職員会議等で委託園の仕組みや向山保育園の財政状況等について提示し、国基準がいかに貧しいのかということも共有してきました。
 - ・ 保育総括後に各クラス・職域で、保育で大事にしていることや子どもたちの姿やかかわりを有期職員に共有してきました。

(2) ひとり一人の子どもがその子らしく生活できる保育をめざして。

- ・ 幼児異年齢保育に向けて他施設での見学実習等を計画してきましたが、コロナ感染状況との関係で実施することはできませんでした。
- ・ 保育内容委員会を定期的に行い、各クラス、職域の状況を共有してきました。内容委員会の提起を含めて各クラス、職域会議を中心にして保育内容を深めてきました。

(3) 職員、保護者、地域等の関係づくりを意識的におこないます。

- ・ 保育園での不適切保育などが起こっています。安心して生活する保育園でそのようなことが起こってはなりません。劣悪な国の職員配置基準の問題等の様々な原因がありますが、すぐには改善できそうにありません。この間、職員がお互いの違いや思いを理解し共有することで、保育に対しても意見を言って良いという風通しのいい関係を事務所も含めて作ってきました。
- ・ 各種会議はコロナ禍の中2ヶ所～4ヶ所にわかれでおこなってきましたが、時間等の制限もあり、職員会議等は報告事項が中心になる傾向にありました。職員一人一人の意見や思いが反映されたかは今後の課題となります。職域の意見を運営に反映できるよう園内で給食、保健、環境衛生の各会議に副園長が参加してきました。
- ・ この間、子どもの怪我等をめぐり保護者との協議を重ねてきました。怪我の原因を明らかにすると同時に、その対応について担当クラスとの協議を含め各種会議を通して職員間で自分のこととして捉え、保育内容、子どもの発する信号を見過ごさないこと等を

共有し再発防止に努めていきます。また、職員が委縮せずに保育がおこなえるように援助してきました。社会的に保護者のおかれている状況をふまえ、日頃の保護者との会話等を通して思いや悩みを理解していく関係性が大事になってきます。

- ・ 今年度も保護者主催の夏祭りの実施はできませんでした。3年間未実施となり保護者の半数近くが“父母の会”という組織を実感することなく来年度を迎えます。父母会との話し合いも運営委員会（練馬区、保護者代表、園）の事前協議とそのための話し合いにとどまりました。
- ・ 施設見学は人数を制限して実施してきました。

(4) 新規事業への取り組み

- ・ 法人として谷原5丁目の新規事業に応募し、多摩福祉会が運営することになりました。職員に異動希望を聞くと10名近い職員が異動の希望（現時点で6名が異動します）を出してくれました。距離的に職員異動が難しい中、新園が2024年度に開園することで、日常的な人事交流等をおこなうことで、保育内容面などお互いに学び合うことができると期待しています。

(5) 練馬区との協議をすすめています。

- ・ 2026年度に委託契約の更新の時期を迎えることと打診がありました。職員間でも協議を重ね民営として保育をしていくことで一致し練馬区に意向を伝えてきました。

2022年度 向山保育園 研修報告書

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリア パス 該当	自主研修 対象	備考
1	園長	全国民間保育園 経営研究セミナー	全国民間保育園 経営研究セミナー	神戸市 ペイシュラトンホテル	1月9日（月）		×	×	
2	副園長	全国民間保育園 経営研究セミナー	全国民間保育園 経営研究セミナー	神戸市 ペイシュラトンホテル	1月9日（月）		×	×	
3	副園長	全国民間保育園 経営研究セミナー	全国民間保育園 経営研究セミナー	神戸市 ペイシュラトンホテル	1月10日（火）		×	×	
4	保育主任	乳児保育研究会	東京経営懇	オンライン	6月15日（水）	乳児保育の意義	○	×	
5	保育主任	乳児保育研究会	東京経営懇	オンライン	7月13日（水）	乳児の発達に応じた保育内容	○	×	
6	保育主任	乳児保育研究会	東京経営懇	オンライン	9月14日（水）	乳児への適切な関わり	○	×	
7	保育主任	乳児保育研究会	東京経営懇	オンライン	10月12日（水）	乳児保育の環境	○	×	
8	保育主任	乳児保育研究会	東京経営懇	オンライン	11月9日（水）	指導計画、記録、評価	○	×	
9	保育主任	障害児保育研究会	東京経営懇	オンライン	6月21日（火）	障害の理解	○	×	
10	保育主任	障害児保育研究会	東京経営懇	オンライン	7月26日（火）	障害児保育の環境	○	×	
11	保育主任	障害児保育研究会	東京経営懇	オンライン	9月20日（火）	障害児の発達の援助	○	×	
12	保育主任	障害児保育研究会	東京経営懇	オンライン	10月18日（火）	家庭及び関係機関との連携	○	×	
13	保育主任	障害児保育研究会	東京経営懇	オンライン	11月15日（火）	就学に向けて	○	×	
14	保育主任	子どもの命を守る保育	保育プラザ	オンライン	7月16日（土）	子どもの命を守る保育	×	○	
15	保育主任	子どもの命を守る保育	保育プラザ	オンライン	8月3日（水）	子どもの命を守る保育	×	○	
16	保育主任	気になる子どもの発達支援	練馬区保育研究会	ココネリホール	7月7日（木）	気になる子どもの発達支援	×	○	
17	0歳児クラス	乳児保育A（環境）	コダーラ研究所	コダーラ 芸術教育研究所	5月26日（木）		×	○	
18	0歳児クラス	乳児保育A（環境）	コダーラ研究所	コダーラ 芸術教育研究所	6月23日（木）		×	○	
19	0歳児クラス	乳児保育A（環境）	コダーラ研究所	コダーラ 芸術教育研究所	9月22日（木）		×	○	
20	0歳児クラス	乳児保育A（環境）	コダーラ研究所	コダーラ 芸術教育研究所	10月27日（木）		×	○	
21	0歳児クラス	練馬区保育所等職員研修計画	練馬区	オンライン	5月11日（水）	調乳と離乳食の基礎と実際	×	×	
22	1歳児クラス	保育現場でのアレルギー疾患 最近の話題	小林茂俊	オンライン	3月9日（木）		×	○	
23	1歳児クラス	自分らしく子育てするために 私と子どもはどんなか？	子どもの心を育む ネットワーク練馬	オンライン	7月23日（土）		×	×	
24	1歳児クラス	練馬区保育所等職員研修計画	練馬区	オンライン	11月24日（木）	子どもの学びを支える保育環境づくり ～人の環境を中心に～	×	×	
25	2歳児クラス	乳児保育研究会	東京経営懇	オンライン	6月15日（水）	乳児保育の意義	○	×	
26	2歳児クラス	乳児保育研究会	東京経営懇	オンライン	7月13日（水）	乳児の発達に応じた保育内容	○	×	
27	2歳児クラス	乳児保育研究会	東京経営懇	オンライン	9月14日（水）	乳児への適切な関わり	○	×	
28	2歳児クラス	乳児保育研究会	東京経営懇	オンライン	11月9日（水）	指導計画、記録、評価	○	×	

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリア パス 該当	自主研修 対象	備考
29	2歳児クラス	子どもの便秘 基礎と保育園での対応	中野 美和子 日本トイレ研究会	ココネリホール	12月15日（木）		×	○	
30	2歳児クラス	子どもの便秘 基礎と保育園での対応	中野 美和子 日本トイレ研究会	ココネリホール	12月15日（木）		×	○	
31	3歳児クラス	わらべうた（課業）	コダーア研究所	コダーア 芸術教育研究所	5月8日（日）		×	○	
32	3歳児クラス	わらべうた（課業）	コダーア研究所	コダーア 芸術教育研究所	6月5日（日）		×	○	
33	3歳児クラス	わらべうた（課業）	コダーア研究所	コダーア 芸術教育研究所	7月3日（日）		×	○	
34	3歳児クラス	わらべうた（課業）	コダーア研究所	コダーア 芸術教育研究所	10月2日（日）		×	○	
35	3歳児クラス	わらべうた（課業）	コダーア研究所	コダーア 芸術教育研究所	11月13日（日）		×	○	
36	3歳児クラス	体育講座	コダーア研究所	コダーア 芸術教育研究所	4月27日（水）		×	○	
37	3歳児クラス	体育講座	コダーア研究所	コダーア 芸術教育研究所	5月11日（水）		×	○	
38	3歳児クラス	体育講座	コダーア研究所	コダーア 芸術教育研究所	5月25日（水）		×	○	
39	3歳児クラス	体育講座	コダーア研究所	コダーア 芸術教育研究所	6月1日（水）		×	○	
40	3歳児クラス	体育講座	コダーア研究所	コダーア 芸術教育研究所	6月8日（水）		×	○	
41	3歳児クラス	体育講座	コダーア研究所	竜ヶ崎みどり	10月24日（火）		×	○	
42	3歳児クラス	練馬区保育所等職員研修計画	練馬区	練馬区立区民 ・産業プラザ ココネリホール	8月30日（火）	発達障害の理解と支援	×	×	
43	3歳児クラス	立川体育	コダーア研究所	三多摩労働会館 第一会議室（立川）	6月7日（火）	体育課業	×	○	
44	3歳児クラス	立川体育	コダーア研究所	三多摩労働会館 第一会議室（立川）	7月5日（火）	体育課業	×	○	
45	3歳児クラス	立川体育	コダーア研究所	三多摩労働会館 第一会議室（立川）	9月13日（火）	体育課業	×	○	
46	3歳児クラス	立川体育	コダーア研究所	三多摩労働会館 第一会議室（立川）	10月18日（火）	体育課業	×	○	
47	3歳児クラス	立川体育	コダーア研究所	三多摩労働会館 第一会議室（立川）	11月15日（火）	体育課業	×	○	
48	3歳児クラス	気になる子どもの発達支援	練馬区保育研究会	ココネリホール	7月7日（木）	気になる子どもの発達支援	×	○	
49	3歳児クラス	美術教育	コダーア研究所	コダーア 芸術教育研究所	4月26日（火）		×	○	
50	3歳児クラス	美術教育	コダーア研究所	コダーア 芸術教育研究所	7月26日（火）		×	○	
51	3歳児クラス	美術教育	コダーア研究所	コダーア 芸術教育研究所	8月7日（日）		×	○	
52	3歳児クラス	美術教育	コダーア研究所	コダーア 芸術教育研究所	9月27日（火）		×	○	
53	3歳児クラス	気になる子どもの発達支援	練馬区保育研究会	ココネリホール	7月7日（木）	気になる子どもの発達支援	×	○	
54	4歳児クラス	障害児保育研究会	東京経営懇	オンライン	6月21日（火）	障害の理解	○	×	
55	4歳児クラス	障害児保育研究会	東京経営懇	オンライン	7月26日（火）	障害児保育の環境	○	×	
56	4歳児クラス	障害児保育研究会	東京経営懇	オンライン	9月20日（火）	障害児の発達の援助	○	×	
57	4歳児クラス	障害児保育研究会	東京経営懇	オンライン	10月18日（火）	家庭及び関係機関との連携	○	×	

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリア パス 該当	自主研修 対象	備考
58	4歳児クラス	障害児保育研究会	東京経営懇	オンライン	11月15日（火）	就学に向けて	○	×	
59	4歳児クラス	立川体育	コダーア研究所	三多摩労働会館 第一会議室（立川）	6月7日（火）	体育課業	×	○	
60	4歳児クラス	立川体育	コダーア研究所	三多摩労働会館 第一会議室（立川）	7月5日（火）	体育課業	×	○	
61	4歳児クラス	立川体育	コダーア研究所	三多摩労働会館 第一会議室（立川）	9月13日（火）	体育課業	×	○	
62	4歳児クラス	立川体育	コダーア研究所	三多摩労働会館 第一会議室（立川）	10月18日（火）	体育課業	×	○	
63	4歳児クラス	立川体育	コダーア研究所	三多摩労働会館 第一会議室（立川）	11月15日（火）	体育課業	×	○	
64	4歳児クラス	子育て支援者の学習会	コダーア研究所	コダーア 芸術教育研究所	4月25日（月）		×	○	
65	4歳児クラス	子育て支援者の学習会	コダーア研究所	コダーア 芸術教育研究所	5月23日（月）		×	○	
66	4歳児クラス	子育て支援者の学習会	コダーア研究所	コダーア 芸術教育研究所	6月27日（月）		×	○	
67	4歳児クラス	子育て支援者の学習会	コダーア研究所	コダーア 芸術教育研究所	10月24日（月）		×	○	
68	4歳児クラス	練馬区保育所等職員研修計画	練馬区	オンライン	7月5日（火）	障害児の行動理解とその対応	×	×	
69	4歳児クラス	自分らしく子育てするために私と子どもはどんな色？	星山 麻木	ココネリホール	7月23日（土）	発達障害について	×	○	
70	5歳児クラス	練馬区実践交流会	練馬区	ココネリホール	7月4日（月）	認定児の保育・統合保育について	×	×	
71	5歳児クラス	練馬区実践交流会	練馬区	ココネリホール	7月5日（火）	認定児の保育・統合保育について	×	○	
72	5歳児クラス	特別支援学級実務研修	練馬区保育課保育支援係	豊玉第二小学校	9月30日（金）		×	×	
73	5歳児クラス	繊細で敏感で素敵なHSP・HSCの世界	練馬区教育委員会 子育て学習講座	練馬区役所 多目的室	11月8日（火）		×	○	
74	5歳児クラス	美術教育	コダーア研究所	コダーア 芸術教育研究所	4月26日（火）		×	○	
75	5歳児クラス	美術教育	コダーア研究所	コダーア 芸術教育研究所	5月24日（火）		×	○	
76	5歳児クラス	美術教育	コダーア研究所	コダーア 芸術教育研究所	8月7日（日）		×	○	
77	5歳児クラス	美術教育	コダーア研究所	コダーア 芸術教育研究所	10月25日（火）		×	○	
78	5歳児クラス	練馬区保育所等職員研修計画	練馬区	オンライン	7月5日（火）	障害児の行動理解とその対応	×	×	
79	5歳児クラス	幼児保育研究会	東京経営懇	オンライン	6月22日（水）	幼児教育の意義	○	×	
80	5歳児クラス	幼児保育研究会	東京経営懇	オンライン	7月20日（水）	幼児教育の環境	○	×	
81	5歳児クラス	幼児保育研究会	東京経営懇	オンライン	9月21日（水）	幼児の発達に応じた保育内容	○	×	
82	5歳児クラス	幼児保育研究会	東京経営懇	オンライン	10月19日（水）	幼児教育の指導計画、記録及び評価	○	×	
83	5歳児クラス	幼児保育研究会	東京経営懇	オンライン	11月16日（水）	小学校との接続	○	×	
84	5歳児クラス	わらべうた（課業）	コダーア研究所	コダーア 芸術教育研究所	5月8日（日）		×	×	
85	5歳児クラス	わらべうた（課業）	コダーア研究所	コダーア 芸術教育研究所	6月5日（日）		×	×	
86	5歳児クラス	わらべうた（課業）	コダーア研究所	コダーア 芸術教育研究所	7月3日（日）		×	×	

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリア パス 該当	自主研修 対象	備考
87	5歳児クラス	わらべうた（課業）	コダ一イ研究所	コダ一イ 芸術教育研究所	10月2日（日）		×	×	
88	5歳児クラス	わらべうた（課業）	コダ一イ研究所	コダ一イ 芸術教育研究所	11月13日（日）		×	×	
89	5歳児クラス	練馬区保育所等職員研修計画	練馬区	練馬区立区民 ・産業プラザ ココネリホール	8月30日（火）	発達障害の理解と支援	×	×	
90	給食主任	摂食機能の発達と食事介助の ポイント	保育プラザ	オンライン	6月28日（火）		×	○	
91	給食	ゼロ歳児の発達と保育	保育プラザ	オンライン	7月14日（木）		×	○	
92	環境衛生	保育の基本講座	保育プラザ	オンライン	7月16日（土）	なぜ起きる？保育園での乳児の死亡事故 保育園における事故防止と安全管理のポイント	×	○	
93	副園長	法人中堅層研修	2022年度法人研修委員会	オンライン	7月2日（土）	施設紹介・実践提案	×	×	
94	保育主任	法人中堅層研修	2022年度法人研修委員会	オンライン	7月2日（土）	施設紹介・実践提案	×	×	
95	3歳児クラス	法人中堅層研修	2022年度法人研修委員会	オンライン	7月2日（土）	施設紹介・実践提案	×	×	
96	2歳児クラス	法人中堅層研修	2022年度法人研修委員会	オンライン	7月2日（土）	施設紹介・実践提案	×	×	
97	副園長	法人中堅層研修	2022年度法人研修委員会	オンライン	10月15日（土）	講師による講座・分散会 (講師：平松知子)	×	×	
98	保育主任	法人中堅層研修	2022年度法人研修委員会	オンライン	10月15日（土）	講師による講座・分散会 (講師：平松知子)	×	×	
99	保育主任	法人中堅層研修	2022年度法人研修委員会	オンライン	10月15日（土）	講師による講座・分散会 (講師：平松知子)	×	×	
100	3歳児クラス	法人中堅層研修	2022年度法人研修委員会	オンライン	10月15日（土）	講師による講座・分散会 (講師：平松知子)	×	×	
101	2歳児クラス	法人中堅層研修	2022年度法人研修委員会	オンライン	10月15日（土）	講師による講座・分散会 (講師：平松知子)	×	×	
102	副園長	法人中堅層研修	2022年度法人研修委員会	オンライン	1月19日（木）	研修のまとめ 次年度の研修内容の検討	×	×	
103	保育主任	法人中堅層研修	2022年度法人研修委員会	オンライン	1月19日（木）	研修のまとめ 次年度の研修内容の検討	×	×	
104	保育主任	法人中堅層研修	2022年度法人研修委員会	オンライン	1月19日（木）	研修のまとめ 次年度の研修内容の検討	×	×	
105	3歳児クラス	法人中堅層研修	2022年度法人研修委員会	オンライン	1月19日（木）	研修のまとめ 次年度の研修内容の検討	×	×	
106	2歳児クラス	法人中堅層研修	2022年度法人研修委員会	オンライン	1月19日（木）	研修のまとめ 次年度の研修内容の検討	×	×	
107	副園長	法人1年目研修	新入職員研修部会	オンライン	7月14日（土）	職場の立場での保育との関わり	×	×	
108	園長	全国保育団体合同研究集会 in 高知	全国保育団体合同研究集会 in 高知	オンライン	8月20日（土）	全体会	×	○	
109	園長	全国保育団体合同研究集会 in 高知	全国保育団体合同研究集会 in 高知	オンライン	8月21日（日）		×	○	
110	副園長	全国保育団体合同研究集会 in 高知	全国保育団体合同研究集会 in 高知	オンライン	8月20日（土）	全体会	×	○	
111	副園長	全国保育団体合同研究集会 in 高知	全国保育団体合同研究集会 in 高知	オンライン	8月21日（日）	子育て講座	×	○	
112	保育主任	全国保育団体合同研究集会 in 高知	全国保育団体合同研究集会 in 高知	オンライン	9月18日（日）	保育・子育てのノロイを ちょっとほどく	×	○	
113	保育主任	全国保育団体合同研究集会 in 高知	全国保育団体合同研究集会 in 高知	オンライン	8月7日（日）	5歳児の保育B	×	○	
114	0歳児クラス	全国保育団体合同研究集会 in 高知	全国保育団体合同研究集会 in 高知	オンライン	8月20日（土）	学ぼう語ろうつながろう 子どもの命と育ちと平和のために	×	○	
115	1歳児クラス	全国保育団体合同研究集会 in 高知	全国保育団体合同研究集会 in 高知	オンライン		じょうずに食べる 食べさせる	×	○	

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリア パス 該当	自主研修 対象	備考
116	4歳児クラス	全国保育団体合同研究集会 in 高知	全国保育団体合同研究集会 in 高知	オンライン	8月7日（日）	障害のある子どもの保育A	×	○	
117	4歳児クラス	全国保育団体合同研究集会 in 高知	全国保育団体合同研究集会 in 高知	オンライン	8月11日（木）	4歳児の保育A	×	○	
118	5歳児クラス	全国保育団体合同研究集会 in 高知	全国保育団体合同研究集会 in 高知	オンライン	8月7日（日）	乳幼児期の性と保育	×	○	
119	給食	全国保育団体合同研究集会 in 高知	全国保育団体合同研究集会 in 高知	オンライン		子どもの発達と給食B	×	○	
120	3歳児クラス	東社協保育部会 保育講座②	東社協保育部会	オンライン	11月7日（月）	スマホ社会と乳幼児の育ち	×	○	
121	保育主任	東社協保育部会 保育講座②	東社協保育部会	オンライン	11月7日（月）	スマホ社会と乳幼児の育ち	×	○	
122	5歳児クラス	東社協保育部会 保育講座②	東社協保育部会	オンライン	11月7日（月）	スマホ社会と乳幼児の育ち	×	○	
123	2歳児クラス	東社協保育部会 保育講座②	東社協保育部会	オンライン	11月15日（火）	スマホ社会と乳幼児の育ち	×	○	
124									
125									
集計									

砧保育園 2022 年度 事業報告

1. 児童状況

- (1) 認可定員 76 名
- (2) 利用定員 82 名
- (3) 保育年齢 産休明け～就学前
- (4) 保育時間 7：15～22：15
- (5) 年齢別定員・入所状況（2022 年 4 月 1 日現在）

年齢	0 才	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	合計
認可定員	6	12	12	14	16	16	76
利用定員	6	13	15	15	16	17	82
新入園児	6	8	2	0	0	1	17
定員割れ	0	0	0	0	0	0	0

- (6) 新入園児状況 17 名 16 世帯 （2022 年 4 月 1 日現在）

- ① 認定 全員 標準時間認定
- ② 入園経過 産・育児休業 14 名、認可保育所 2 名、認可外保育所 1 名
- ③ きょうだい関係 1 世帯
- ④ 延長対象児 0 家庭（年度当初状況）
- ⑤ 困難・配慮家庭 1 家庭
- ⑥ 障がい児 1 名
- ⑦ 発達要観察配慮児 0 名
- ⑧ アレルギー対応児 2 名（0 歳児 1 名、1 歳児 1 名）
- ⑨ 健康面配慮児 0 名

- (7) 児童状況（新入園家庭分を含む）

- ① 世帯数 69 世帯
- ② 保育時間認定 全員 標準時間認定
- ③ きょうだい関係 10 組
- ④ 延長対象児 1 時間延長 17 名、2 時間延長 5 名
- ⑤ 困難・配慮家庭 4 家庭
- ⑥ 障がい児 1 名
- ⑦ 発達要観察配慮児 6 名
- ⑧ アレルギー対応児 7 名

⑨ 健康面配慮児 0名

(8) 日祝保育状況

① 登録人数 39名

② 利用児数 1日平均5名程度

③ 利用時間 7:15~18:15

④ 保育体制 常勤3名（保育士2名、調理1名）有期雇用職員2名

2. 職員状況

(1) 正職員 (2022年4月1日現在)

職種	園長	副園長	事務員	保育主任	給食主任	看護師	保育士	栄養士	調理師	育休	合計
人員	1	1	1	3	1	1	16	2	1	1	28

(2) 正職員状況

① 新規採用者 0名

② 法人内異動者 1名

③ 産休・育休者 1名 (4月11日より復帰。6月24日より1名)

④ 育児のための時間短縮勤務 2名

⑤ 育児時間取得 0名 (4月11日より1名)

⑥ その他時間短縮勤務 1名

⑦ 退職者 3名 (3月31日付3名)

(3) 有期契約職員 (2022年4月1日現在)

	にじ	乳児	幼児	給食	環境衛生	土日祝	全体	合計
人員	2	2	1	1	1	5	0	12
週5		1	1		1			3
週4								0
週3	1	1		1				3
週2	1							1
不定期								0
土日祝						5		5

① 新規採用者3名 (4月1日1名、年度途中2名)

② 退職者3名 (3月31日1名、年度途中2名)

(4) 嘱託医、講師

- ① 嘱託医 橋本 倫太郎小児科医、三上 直一郎歯科医
② 講師 ウラベイク（造形）、西山 裕子（わらべうた）
pilchard astrid（異文化交流）、永田 裕美子（言語聴覚士）
守屋 明徳（公認心理師・臨床心理士）

3. 新型コロナウイルス感染症関連報告

(1) 休園状況

- ・全面休園なし
- ・登園自粛期間（陽性者発生クラスのみ）

セクション	対象期間
乳児	<ul style="list-style-type: none">・ 5月25日～5月27日・ 7月22日～7月27日・ 8月20日～8月24日・ 11月9日～11月12日・ 11月12日～11月14日・ 11月12日～11月15日
幼児	<ul style="list-style-type: none">・ 8月13日～8月17日・ 8月25日～8月29日・ 8月26日～8月29日・ 8月26日～8月30日・ 9月7日～9月10日・ 11月12日～11月14日・ 2月10日～2月14日・ 2月11日～2月15日

(2) 主な対策内容

〈基本対策〉

- ・受け入れ時に児童の体温確認と家族の体調確認
- ・職員の休憩場所をセクション毎に分ける

〈感染拡大が生じている時期〉

- ・セクションを越えた会議についてはzoomで実施
- ・懇談会をzoomで実施

〈行事の主な対策内容〉

- ・入園式 : 2部制で実施
- ・お泊り保育 : クッキング中止。おうち毎に就寝。おうち毎に懇談
- ・夕涼み会 : 日中園児のみで実施
- ・運動会 : 3歳児以上のみ参加とし、おうち毎に入れ替え制で実施
- ・卒園式 : 来賓の参加見送り
- ・新年度説明会 : リアルと zoom のハイブリッド型で実施

〈その他〉

- ・日祝保育利用家庭へ毎週末の体調確認連絡

4. 2022年度 重点課題

(1) 子どもにとって最善の保育を追求することを目標としました。

① コロナ禍等、どのような状況においても「子どもにとって最善の保育」を追求してきました。

世田谷区からの発信もあり、子どもの人権チェックシートを活用して自分達が行っている保育は子どもの人権を尊重できているのかを振り返る機会となりました。例えば、苦手な食材を本人の意思を確認する前に減らしておくこと等、「これも不適切になるのか」と、今まで無意識に、又は配慮として良かれと思ってしてきたことも捉えようによつては不適切となり得るという気付きもあり有意義でした。

保育士との愛着についても学びを深める一年となりました。この点については、素晴らしい実践が生まれたのでどこかの機会で共有させていただければと考えています。目標としていた、個々の子どもの特性を理解し、子どもの気持ちに寄り添う中で築かれる信頼関係を土台に安心して過ごせる生活を築けたのだと考えています。

また、「今までやってきたから」に疑問を持ち、目の前の子どもにとって本当にそのまま行なうことがいいことなのかどうかについて真摯に向き合うことで子ども理解が深まり、自分達が納得できる保育実践を追求する姿もありました。引き続きそのような視点を大切にしていきたいと考えています。

② 乳児を含めた異年齢保育を深め発展させることを目標としました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、セクションを越えた異年齢交流が困難な状況が続いていましたが、2022年度は十分とは言えないまでも一定実施することができました。それにより、進級前から子ども同士の関係が生まれたりと、新たな環境に移る際に少しでも安心できる生活保障となったのではな

いかと感じています。

また、グループ編成について、2020年度より1歳児・2歳児から進級先の異年齢クラスを見通したグループ編成を検討するようにしてきており、職員の中にも大切にしたい視点が浸透してきているように感じています。

③ 多様性を認め合う社会を形成する担い手が育つ保育環境を目指してきました。

LGBTQ+等の性について、在園保護者と共に学ぼうということで講師を招いて学習会を行いました。その中で保護者の方から率直な悩みも出され、どのように受け止めればいいのか等、有意義な意見交換の場となりました。社会的な価値観が急激に変化していく中で、保護者としても戸惑うことが多くあると感じています。そのような不安に寄り添えるよう、引き続き学び続けていきたいです。

様々なケースがありますが、どんなケースでもただ必要な知識を得て必要な配慮をすることに大きな違いはなく、いい意味で淡淡と誠実に子ども理解・保護者理解を深めながら気負い過ぎず向き合っていくことが大切だと考えています。

「普通」という概念が果たして必要なのか、問い合わせ一年となりました。引き続き「違ってもいい」ではなく、「違うからいい」という価値観を園全体で共通認識とし、真に個性が尊重される保育の実現に努めていきたいです。

④ 卒園後も居場所となる保育園を目指しました。

小中高生の育児体験に沢山の卒園児が希望して遊びにきてくれています。中には年間に3度も遊びに来てくれる子もあり、「帰ってきたい場所」になっているのだと実感できました。他にも、サッカーボール片手にふらっと遊びに来る子もあり、保護者の方に連絡をし、所在確認をして受け入れることもありました。その後にその子のお兄ちゃんも来て、予期せぬ再会に職員も嬉しくなると共に、地域の中で自分達で生活している姿に成長を感じました。

事前に連絡をもらうことが基本ではありますが、来たいと思ったときに受け入れられることも大切ではないかと考え、保護者の承諾を得て受け入れるようにしています。できるだけ間口を広げ、地域に開かれた園にしていくためにも、まずは卒園児が気軽に立ち寄れる場所でありたいです。

また、在園児にアイドル並みの歓迎をされることで、自分の存在丸ごとに価値があると確かめられる機会となっていると感じられます。不登校児や自殺する児童が増え続けている中、ただただありのままの自分を受け入れてくれる存在や場所があることの重要性が高まっていると共に、ますます保育園の価値が高まっているのではないでしょうか。

⑤ 保育内容を深め合うために、会議内容の精査を行うことを目標としました。

年度当初に会議内容の精査を掲げ、各担当者会議等で可能な限り回数を減らすことを検討しようと発信しましたが、結果的にはさらに増加してしまうこととなりました。コロナ禍では感染状況によって毎年行事内容の検討が必要となつたこともあり、目標に向けては壁が高かったです。

また、2022年度は運営責任者会議を1時間延長し、運営と現場の思いを擦り合わせながら、今まで以上に納得して進んでいける園運営を目指してきました。運営課題と保育内容として検討すべき課題を整理し、意見交換しながら進められたことで、一定目標に対しての成果があったのではないかと考えています。できるだけ運営会議内だけの論議で決定するのではなく、現場の意見を踏まえて判断することを意識しました。

その他、運営総括にて、職員会議がほぼ報告の場となってしまっており一方的に感じるということや、より職員間で話し合える場にできるといいという意見が出されました。主体的に参加したいという意識が高まってきたからこそその意見であり、今後真摯に向き合い、「参加して有意義だった」と感じられる職員会議とできるよう努めていきたいと考えています。

⑥ 児童定数について地域状況を把握しながら改めて検討することを目標としました。

2022年度に続き、2023年度についても第一次入所内定の時点で82名の定員が満たされる状況となりました。世田谷区の「令和5年4月（一次）入園申込者数」を見ても、現状では一定の地域ニーズがある状況です。その反面、3歳児のニーズに対して受け入れ枠がないことや、4、5歳児はニーズとしては低いものの毎年1名ずつ新入園児を迎える定数となっていることは今後の課題となります。

2027年度以降に近隣の祖師谷中央住宅建替工事の計画もあるので、引き続き児童定数について慎重に検討していきます。

⑦ 世田谷区休日保育事業利用者の確保に努めました。

2020年度より新型コロナウイルスの影響を受け、実績人数が激減しています。財源確保の観点からも一定の定員確保が求められます。そのため、これまで実施してこなかった0歳児の受け入れを開始しました。ただ、初めての受け入れであり0歳児経験者が限られているという点で職員内での不安が大きかったため、まずは1歳の誕生日を迎えておりMRの定期接種を終えているお子さんに関してはお預かりするという、条件付での受け入れとしました。2022年度中は1名の登録があり、無事大きな混乱なく保育を行うことができました。

2023年度に向けては、これまで長く日祝保育を利用しててきたご家庭のきょう

だい児が 0 歳児ということもあり、ニーズに応えられるよう体制や必要な条件の検討を進めてきました。当面 1 歳の誕生日を迎えるまでの間は 1 : 1 対応ができるよう体制を確保し、5 月の連休から受け入れを開始したところです。0 歳児保育を経験していない職員は不安を感じている状況もあり、事前に園内研修で 0 歳児保育を体験する等、安心して受け入れられるよう進めていきたいと考えています。

(2) 職員一人ひとりが自分らしくありのままであっていいと感じられ、安心できることを土台に、多様な職員集団が意欲的に高まり合える職場作りを目指しました。

① 法人理念を土台としつつも、その中で具体的に自分達がどのような園にしていきたいのか職員間でイメージを出し合い、一致した目標に向かって努力し合う意識の形成を目指しました。

この点については、法人綱領策定委員会の発足が重なったこともあり、一旦保留としました。まずは法人理念が固まってからそれを土台に砧の中でより具体的な論議に繋げる見通しです。

② これまでの砧保育園の歴史を引き継ぎつつ、多様な価値観を踏まえてより発展的な保育実践を模索することを目標としました。

2022 年度は法人設立 50 周年ということで、法人合研に砧保育園初代園長であり現法人顧問の伊藤亮子先生をお招きしてお話をいただくことを計画しました。伊藤先生から、異年齢移行のきっかけや職員・保護者の理解を得るまでの経過、移行後の子どもの姿や保護者の反応等を詳細に語っていただけたことは、砧の職員にとって異年齢保育の本質理解に繋がる大きな学びとなりました。加えて、当日は 50 周年記念レセプションに参加されていた日黒元副園長、永田元副園長、梅澤元事務長にも急遽参加していただけたこととなり、大変貴重な機会となりました。

また、職員自ら学び、深めていく姿勢の土台形成を運営課題とし、園全体で学び合う雰囲気の醸成を目指してきました。運営メンバー中心におススメの書籍や研修を紹介し合い職員にも広げたりと、とても積極的に学ぶ姿勢が感じられて嬉しい限りです。自主研修に書籍購入が認められたことや、リモート研修の充実が進んだことがきっかけとなっており、学びの多様性が保障されてきたことは、コロナ禍となったからこそだと捉えています。

自主学習会については、地域学習会で性についてや木のおもちゃについて学べたこともあります、絵本の学習会を一回実施するに留まりました。園全体としては随時学習資料を提供したり考え方の視点を共有しているので、形に捉われずに学びを進めたいと考えています。

③ 職員一人ひとりが自分の思いを安心して発信でき、認め合う雰囲気作りを大切にす

るよう努めました。

この点についての象徴的な出来事として、幼児クラスの責任者達が新型コロナウイルス対策への疑問や意見について自ら発信し、幼児主任を介して急遽運営と検討の場を持つということがありました。具体的には、クラス別保育を4月以降も継続していたことにより、子どもたちへの活動保障や働く環境への率直な思いが語られ、園運営を新型コロナウイルス対策重視から子どもの育ち重視へ大転換するきっかけとなりました。運営と現場が納得できるように意見を擦り合わせて園運営を進めるという理想に一步近づけた瞬間でもあり、率直に思いを語ってくれた職員に感謝しています。

また、お泊り保育の直前に職員内でコロナの感染拡大が生じたことで、緊急で検討会議を持ち、それぞれの不安やお泊り保育にかける思いを出し合いました。当初意見の相違はあったものの、最終的には納得し合って実施を決めるという過程を経ることができました。民主的に決定する過程を踏むことの大切さを改めて実感すると共に、職員がそれぞれの思いを主体的に発信するようになってきたことを嬉しく感じています。

- ④ 他セクションへの園内研修や法人内他施設への見学を通して、子どもを捉える視野を広げられる機会を設けることを目標としました。

この点については、コロナの影響で思うように進められず、継続課題となります。職員の中では他施設への見学希望が出されているので、2023年度は積極的に進めている状況です。

- ⑤ 保育園運営を推進する幹部の担い手の経験積み上げに長期的な視野で取り組むことを目標としました。

砧保育園は2022年度以降園長1名、副園長1名の2名の管理者体制で運営しています。様々な判断や対応が個人に集中してしまうこともあり、改善が求められる状況であると認識しています。しかしながら、次期管理者の候補として期待される世代が、まさに結婚出産する世代となっており、計画は持つものの、現場とのバランスや各自の事情が重なる等して状況の打開に至っておりません。

そのような状況の中でも、2022年度新たに主任や責任者となった職員を中心に、実際に真摯に保育と向き合っている姿があり、若い職員が子どもに学びながら成長していることを実感する一年となりました。引き続き焦り過ぎず、職員の意欲の芽生えを丁寧に掴みながら、成長に繋がる適切な役割分担を意識していきます。

- ⑥ ここで働きつづけたいと感じられる労働環境作りを皆で検討し実践していくことを目標としました。

2022年度は育休復帰者2名が育児時短を取りながら担当を持つこととなり、新た

なチャレンジとなりました。現実的には勤務が固定的になることで生じる難しさが語られました。各セクションで主任を中心にフォローに入りながらバランスを取りつつ、完璧には行かない状況を受け入れ合いながら過ごしてきたという状況です。また、コロナ禍ということもあり、家族の体調不良があるだけでも余計に休まなければならぬ状況でしたが、当該クラス職員中心にセクション内でも支え合える体制を常時検討しながら何とか「踏ん張ってきた」という表現が適切かと感じられます。

しかしながら、やはり現場に経験豊かで子育て真っ只中の職員がいるからこそ、若い職員の悩みに寄り添ってくれたり、子どもや保護者理解が深まったりと、多くの学びを還してくれていると感じています。休むことが少なく体制的に安定する世代と、経験豊富で保育実践で安定する世代とが、お互いの状況を尊重し合い支え合うことで、園全体の安定感を高めていけたらとイメージしています。そのためにも、お互いがゆとりをもって支え合える職員配置が絶対に必要です。今後も行政に声を上げると共に、園内でも人件費の財源確保に向けて努めていきたいです。

また、職員理解を深め人財定着に繋げるための取り組みとして、園長面談を年3回実施しました。その中で、実施しなかったら把握できなかつたであろう内容や自分自身を省みるきっかけとなる話も聞けたりと、大変有意義に感じられました。しかし、実際には若い世代3名が退職することとなり、十分に人財定着に活かしきれていない状況ではあるので、引き続き「ここで働き続けたい」と感じられるような園運営を目指していきたいと考えています。ただ、子育て世代から退職者が出ていないというところでは、一定「子育てしながらでも働きやすい職場」と感じられているのではないかと、前向きに捉えています。

- ⑦ 財源的な課題解決のため、総合的な視点を元に多角的な検討を進めることを目標としました。(児童定数については、(1) ⑥を参照。)

一時保育事業実施に向けて園内では必要な環境が用意できないため、園外にアパートを借りて行うことも検討しましたが、世田谷区とのやり取りの中でそれでは対象とならないとのことで断念しました。

日祝保育で1歳の誕生日を迎えた0歳児の受け入れを開始しました。1名受け入れるとその月に87,500円の加算がつくということもあり、地域貢献と併せて財源確保としても大きな意義があります。区内で日祝保育を実施している園では、砧以外全ての園で0歳児の受け入れを行っていることもあり、2023年度は日祝保育の利用人数確保の観点からも1歳未満の0歳児受け入れも進めているところです。

(3) 保護者自身が砧保育園を選んだことを誇りに感じられるような信頼関係の形成を目指しました。

① 子どもを真ん中にして、保護者と園が共に子育ての主体として力を発揮できる運営を目指しました。

主に計画していた、芝生や植栽の剪定、テラスのメンテナンス協力や木育活動への参加等については、予定していた日程近くでコロナの感染拡大が生じてしまい残念ながら中止となりました。しかしながら、芋掘りや餅つき等には参加していただくことができました。餅つきでは、毎年のように参加してくださっていたお父さんが最後の年となりましたが、「卒園してからもつきにきますよ」と言ってくださり心強い限りです。また、清掃業をされている年長児のお母さんが「保育園に恩返しさせてください」とボランティアで窓の清掃をしてくださいました。この方も「毎年やりにくるでいつでも呼んでください」と言ってくださり、本当に嬉しく受け止めました。

また、お泊り保育では保護者の方にも主体として参加していただきたいと考え、子どもへの手紙を書いてもらうようお願いしました。それぞれに我が子への思いや励ましが綴られており、子どもたちにとっても夜寝る時のお守りのような存在となりました。ただ送り出すだけでなく、より我が子の成長に思いを馳せる機会となったのではないかと感じています。

② 保護者にとってもありのままの自分でいられる安心感を感じられる園を目指しました。

子どもの姿の共有はもちろんのこと、送迎の際の何気ない会話等を通して保護者の方の人となりを理解できるよう努めました。現場職員からも「お母さんからポケモンの話をしてくれました」ということや、家庭での育児に悩んでいることも率直に相談してもらったりと、職員の顔を見たらほっとできる関係を築けてきているように感じています。職員にとっても心の繋がりを感じられることが大きな喜びとなり、より一層保護者との信頼関係が強まることになるので、今後も引き続き園全体で意識していきたいと考えています。

③ 社会情勢を踏まえて保護者を理解する視点を大切にするよう努めました。

コロナ禍の中で、就労がままならない状況がある保護者の方の思いと、感染対策として線引きをしなければならないこととの狭間での葛藤がありました。じっくり話を聞いて共感しつつ、園として「子どもにとって」を最優先に考えることを伝えて理解していただけるよう都度丁寧に思いを伝えてきました。その努力の甲斐あってか、保護者の方から「まずは気持ちを受け止めてくれるんですよね。でも最後には絶対に譲らない。でもそれでよかったって今は思っています」と伝えてくださる方もいらっしゃいました。そのような保護者の反応も総括資料や日々の情報共有で職員にも伝

え、大切にしたいことが伝わっている実感を持てるよう意識してきました。

- ④ 引き続き保護者に保育内容が分かりやすく伝わるような工夫に努めました。

コロナ禍で保護者同士を繋ぐ取組みが思うようにできないというもどかしさがありました。その課題を少しでも解消できるよう、日常的な保護者とのやり取りをより大切にすることや、子ども同士が育ち合っている様子がよりリアルに伝わるよう、日々のおたよりや懇談会での姿の共有を大切にしてきました。

また、保護者が地域の中で砧保育園の自慢話をしたくなるようにと、園生活で大切にしている観点を分かりやすく発信するよう努めました。具体的には、毎月の園だよりに保育問題や子育て全般について感じていることを率直に述べたり、コドモンのインタビューで職員配置等についての課題を話し、保護者にも共有したりと積極的に発信してきました。園だよりについては「毎月楽しみにしています」と伝えてくださる方や、インターについても「記事読みました。すごくいい園に預けられていて嬉しいです」と話してくださる方もおり、反響があって嬉しかったです。行動し発信することの意義を改めて強く感じました。

- ⑤ 父母会と園の協議会を継続し、保育内容や保育情勢について意見交換を行い、共に育ち合う関係を作ることを目標としました。

園児虐待事件や不適切保育問題が立て続けに報道された際、「もしかしたら砧保育園でも同様のことがあるのではないか」と不安になる保護者の方もいらっしゃるのではないかと考え、臨時で父母協議会を行い意見交換の場を持ちました。参加された方々からは「信頼しているので不安はありませんでした」という声がほとんどで、取り越し苦労だったと安堵ましたが、改めて不適切保育問題の根底にある配置基準の貧しさについて共有する機会となり、より一層保育への理解を深めていただききっかけとできたことは有意義でした。「何かできることはないかと思って参加しました」という方もおり、大変嬉しかったです。今後も保育情勢について共有し、子どもを真ん中にして協力し合うパートナーであるよう努めていきます。

- ⑥ 引き続き新型コロナウイルス感染対策について、丁寧且つ迅速に説明を行うことで信頼関係の形成に繋げるよう努めました。

子どもも保護者も職員も、それぞれが納得できる感染対策と取組みを意識してきました。3月中旬にマスクについては個人判断でとなりましたが、5月8日に第5類となるまでは子どもがコロナ陽性となると当該クラスは登園自粛期間となってしまうということで、子どもに感染させないよう園内でのマスク着用をお願いしてきました。新入園家庭にも改めて登園自粛となることでのリスクが伝わる文章を作成し、納得していただけるよう努めました。

(4) 地域に必要とされ、異年齢保育という特色ある保育園として地域に根付くよう努力することを目標としました。

① 地域担当チームを中心に地域要求に応える活動を行うことを目標としました。

コロナの状況も落ち着き、色々なところで地域活動が再開されたことにより参加者が分散され、2022年度の地域活動の参加者は昨年度に比べ参加する方は減ってしまいました。しかしながら、保護者同士で交流できる場や、保育者、栄養士、園長に気軽に相談できる場を設けることができました。インターネットで悩みを調べても、どれが正解かわからないという声もありましたが、「子どもにとって」という視点で、何が一番良いのかを共に考えていくことを大事にしてきました。

また、2つの新たな取り組みも行いました。1つはおもちゃ作りです。どんな遊具が良いのかわからないという声があったので、園で使用している手作りおもちゃをいくつか紹介し、実際に作る時間を設けました。お子さんと離れて作業する時間もリフレッシュにつながったようで好評でした。もう1つは園長の育児相談です。相談の内容としては、メディアとの付き合い方についてや、育児をするにあたり大切にすべきこと、食事について等がありました。園で大切にしていることを丁寧に伝え、信頼していただけるよう努めると共に、いつでも相談できる場所があるという安心感を持っていただけるよう、リラックスして話すことを意識しました。今後も地域の方が気軽に集える場とできるよう継続していきたいと考えています。

② 地域住民の力を借りながら、子どもにとって必要な環境について考え合うことを目標としました。

この点についてはコロナ禍で進めることができませんでしたが、園内で園庭環境プロジェクト担当を置き、環境を整えてきました。金木犀等、季節毎に咲く樹木を植えることで、より身近に自然を感じられる環境作りに努めました。

③ ホームページや掲示板、児童館等への広報活動にも力を入れてきました。

ホームページを見て施設見学を希望される方も多く、砧保育園の良さを発信できていると感じています。その反面、実習生が0名となりました。今まで実習に来てくれていた大学に問い合わせたところ、小田急線沿いに住んでいる学生がいないということで、実習生の獲得にはつながりませんでしたが、今後も引き続き広報に力を入れていきたいと考えています。

中学生の職場体験は、コロナで中止になっていましたが、2022年度より再開され、卒園児が来てくれました。学校になじめず不登校になっていたようでしたが、職場体験後から学校に通えるようになったと保護者の方より連絡がありました。

「誰から頼りにされる喜び」「ありのままの自分を受け止めもらえる環境」がある保育園という場の大切さを改めて感じました。

(5) 施設整備を計画的に行うこと目標としました。

2022 年度に実施した主なものは、コロナ補助金を活用した天井扇風機の増設と換気扇の一部取替等です。計画していた LED 化については、世田谷区より 2027 年度の大規模修繕で予定しているとの情報があり見合わせました。ただ、実際に点灯しない箇所が複数ある状況となっているため、簡易修繕として一部 LED 化を園の財源で進めることを検討せざるを得ないと考えています。

(6) 新型コロナウイルス感染防止対策と、人間同士の関わり合いに必要なことのバランスを大切にするよう努めました。

- ① 世田谷区のガイドラインを遵守した感染対策をしつつ、子どもにとって必要な体験については可能な限り工夫を凝らして行ってきました。具体的には、クッキングや配膳活動の再開、異年齢交流やお泊り保育の実施等です。
- ② 感染状況によってはリモート会議をしつつ、可能であれば対策をしっかりと行った上でリアル会議を大切に位置付けてきました。園内研修等もできるだけ小人数で分散してリアルで行うよう追求しました。
- ③ 乳児クラスは透明マスクの常時使用を基本とする目標としました。しかし、現場職員からの声として、息苦しさや縁取りによって見えづらい角度があり危険が伴うこと等があげられ、食事場面のみの使用に留まりました。それでも、使用するようにした後から言葉が増えたという状況も報告され、乳児期に口元が見られることの影響の大きさを実感しました。

5. 職員研修

キャリアアップ研修受講を計画的に進めてきました。ただ、そこで得た学びを園内で共有する機会までは確保できておりません、今後の課題となります。

また、法人内の施設に見学に出かけたりする中で視野を広げ、砧保育園だからこそ可能な異年齢保育を目指して深め合うことを目標としましたが、コロナの影響により進められませんでした。

(1) 園内研修

- ① 全員研修－応急救護、防災、不審者対応、保育総括、荒馬、ドル平
- ② 講師による研修－わらべうた、陶芸、歯科医の講座
- ③ 新人研修－申請事務、保健研修、乳児研修、離乳食、他
- ④ ケース検討－配慮児を含む保育についておうちを中心に専門家と共に検討しました。これまで 18:30～20:00 の時間帯でもケース検討を行ってきましたが、2022 年

度は育児時短勤務の職員が参加しづらいということで、日中のケース検討の日の時間配分を工夫することで保障することができました。

- ⑤ 必要に応じて運営会議で検討し、講師による講座で研修を行いました。

地域学習会という位置付けとし、地域の方や在園保護者の方と共に性についての学習会や、木の遊具を取り扱っている業者を招いて研修を行いました。

(2) 専門機関の巡回指導など

世田谷区発達支援センター（げんき）、総合福祉センターの巡回指導を受け、支援が必要な児童の保育について深め、保護者への働きかけについて学びました。

(3) 出張研修

世田谷区、経営懇、東社協の研修に参加します。キャリアアップ研修に対応する世田谷区の研修、保育団体連絡会の研修などに参加しました。

処遇改善IIの支給対象者については、必須項目を網羅できるよう位置付けました。

(4) 見学研修

異年齢保育実践をより深めるため、法人内施設の保育を見学し研修を行いましたが、コロナの影響で参加者は数名に留まりました。

(5) 法人研修

法人合研、新入職員研修、中堅層研修、保健部会、給食部会等に取り組みました。

(6) 自主研修

- ① 職員一人ひとりに支給される研修費を積極的に活かし、個人目標に沿って個人計画をたて、目標をもって研修を行っていけるようにしました。

年3回実施した園長面談にて、毎回個人目標に対しての取組み状況を確認し、目標がより実際的に意義のあるものとなるよう努めました。

- ② 自主的に学ぶことによって、実践が深まっていくことを大切にしました。

(2) ②参照。

※研修受講詳細は、別紙「2022年度 砧保育園 参加研修一覧」参照。

2022 年度 実習生受入れ報告

2022 年度の実習生受入れで、申し込みは 1 校あったが、小田急線沿いに住んでいる学生がいないため配属できないと連絡があり受け入れ人数は 0 名となった。2021 年度はコロナで公立保育園が実習生の受入れを断っていたこともあり、実習生が一時的に増えたが、2022 年度は公立保育園も実習生の受入れが再開され減少してしまった。他の要因もあるか分析していく。実習生確保のため、保育士だけでなく栄養士・調理師の実習生の受入れも検討していく。

2022年度 砧保育園 参加研修一覧

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリア バス 該当	自主研修 対象	備考
1	乳児フリー (早専)	乳児保育C(あそび)	コダーイ芸術教育研究所	コダーイ芸術教育研究所	5/6,6/2,9/2, 10/7		×	○	
2	乳児主任	離乳食アドバイザー 養成講座	一般社団法人 母子栄養協会	オンライン	5/22、5/29		×	○	
3	ほし	わらべうた1	コダーイ芸術教育研究所	コダーイ芸術教育研究所	5/8、6/5、7/3、 9/4、10/18、11/6		×	○	
4	りす	保育プラザ研修 保育の 基本講座	一般社団法人保育 プラザJAPAN	オンライン	6/28.7/8.7/16	「摂食機能の発達と食事介助のポイント」 「2歳児の発達と保育」「なぜ起きる?保育園での乳児の死亡事故・保育園における事故防止と安全管理のポイント」	×	○	
5	乳児フリー (遅専)	連続講座2回ZOOMオンライン開催	保育士会	オンライン	7/1.9/9	「乳児のことばと心の育ちについて」 「幼児のことばと心の育ちについて」	×	○	
6	ほし	初任者研修 (保幼小中合 同)	佐々木掌子・小林幸子	教育総合センター	7月21日	世田谷区の人権教育について・いじめの対応について	×	○	
7	ひよこ	乳幼児研 夏の研究集会	乳幼児研	和光幼稚園	7/23.7/24	子どもの姿から生活を考える	×	○	
8	りす	乳幼児研 夏の研究集会	乳幼児研	和光幼稚園	7月24日	子どもの姿から生活を考える	×	○	
9	りす	保育プラザ研修 2022年 度 WEB講座	小川絢子	ZOOM	11月7日	1.2歳児の育ちに学ぶ 自我の育ちと人の関わり	×	○	
10	事務室	東京都保育士等キャリア アップ研修	公益財団法人社会教育 協会	ひの社会教育セ ンター	9/1.9/2	保健衛生・安全対策	○	×	
11	にじ	夏の芸術教育学校	芸術と遊び創造協会	中野サンプラザ	7月27日	0.1.2歳児のための簡単おもちゃ	×	○	
12	ひよこ	全国保育団体合同研究集 会	全国保育団体合同研究 集会実行委員会	オンライン	8月20日、8月21日	いやいや、泣きやまない、どうした らしい?	×	○	
13	0歳児フリー	全国保育団体合同研究集 会	全国保育団体合同研究 集会実行委員会	オンライン	8月20日、8月21日	ゼロ・1、2歳児の発達と保育	×	○	
14	事務所	全国保育団体合同研究集 会	全国保育団体合同研究 集会実行委員会	オンライン	8月20日	学ぼう、語ろう、つながろう 子どもの命 と育ちと平和のために!	×	○	
15	事務所	全国保育団体合同研究集 会	全国保育団体連絡会	オンライン	9月5日	保育子育て講座・録画配信限定講座	×	○	
16	ひよこ	芸術教育学校 子どもの主体性を引き出すお もちゃ遊びの環境作り	横尾 泉	オンライン	9月29日	なし	×	○	
17	りす	2022保育オンラインセミ ナー	フレーベル館・大沢愛 ナード	ZOOM	1月18日	わらべうたの世界に親しむ 0~2歳向けのわらべうた遊び	×	○	
18	ひよこ	キャリアアップ研修	神田 奈保子	AP東京八重洲	12月17日・18日	乳児保育	○	×	
19	給食	東京都保育士等キャリア アップ研修	ウェルフェアサービス	ZOOM	12月11日	食育・アレルギー対応	○	×	
20	フリー	世田谷区キャリアアップ 研修	西 智子	M・三茶しゃれな	8月19日・30日	乳児保育	○	×	
21	給食	世田谷区キャリアアップ 研修	日本educe食育総合研 究所	中野サンプラザ	2月22日	食育・アレルギー対応	○	×	
22	乳児	日本保育協会令和4年度セ ミナーインコール配信	日本保育協会	配信	2月27日	乳児期の丁寧な保育実践・子どもたちのた めによりよい保育を	×	○	
23	事務所	どうなる?年金	協同組合DDK	東京芸術劇場	1月26日	年金制度の理解	×	○	
24	遅番	荒馬座	荒馬座	狛江エコルマホール	2月23日		×	○	
25	太陽	荒馬座	荒馬座	狛江エコルマホール	2月23日		×	○	
26	星	荒馬座	荒馬座	狛江エコルマホール	2月23日		×	○	
29									

2022 年度 上北沢こぐま保育園 事業報告

1. 事業内容報告

(1) 認可定員 90 名

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	9	16	16	16	16	17	90

(2) 保育年齢 産休明け～就学前

(3) 開園時間 7時15分～20時15分

(4) 延長保育 18時15分～20時15分（児童状況報告参照）

(5) 1歳児～5歳児の異年齢保育

(6) 障害児保育（児童状況報告参照）

(7) アレルギー食対応（児童状況報告参照）

(8) 地域活動事業（子どもの貧困対策、体験保育、産前産後体験、ボランティア、実習生の受け入れ等）

	実施状況
体験保育	25回実施、3家庭が参加
産前産後体験	4回実施、14名が参加
職場体験	10回実施、4名が参加
実習生	2大学より3名受け入れ
インターン	受け入れなし
地域食堂	10月～2月に5回実施。毎回50食分用意し園前にて配布 近隣施設、東社協、児童館、株式会社ネッスターと連携

2. 児童状況報告

月	在籍児童数	新入園児	管外児童	退園児	配慮児	アレルギー児	外国人家庭	育児困難家庭	延長保育1H延べ	延長保育2H延べ
4	83	21			8	3	1	4	93	3
5	84	1			8	4	1	2	78	3
6	84		1		8	3	1	3	124	6
7	84		1		8	4	1	3	90	3
8	82		1	2	8	4	1	3	74	9

月	在籍児童数	新入園児	管外児童	退園児	配慮児	アレルギー児	外国人家庭	育児困難家庭	延長保育1H延べ	延長保育2H延べ
9	82		1		8	4	1	3	95	11
10	82		1		8	4	1	3	112	5
11	82	1	1	1	8	4	1	3	119	3
12	83	1	1		8	4	1	3	102	14
1	83		2		8	5	1	3	80	3
2	84	2	1	1	8	5	1	3	104	3
3	84		1		8	5	1	3	123	3

3. 職員状況

(1) 正職員 (2022年4月1日)

職種	園長	副園長	副園長兼事務長	看護師	保育士	栄養士	調理師	合計
人数	1	2	1	1	22	2	2	31

*主任 1名(保育士)

(2) 正職員状況

- *新規採用者 保育士4名
- *法人間異動者 栄養士1名 7月11日より向山保育園へ異動
- *産休育休取得者 栄養士1名(7月10日まで) 調理師1名(1月18日より)
保育士1名(1月15日より)
- *育休復帰者 保育士1名
- *育児短時間取得職員 保育士1名
- *退職者 保育士2名(2023年3月31日付)
- *休職職員 看護師1名(11月21日~12月末)
- *派遣職員 保育士1名(4月~6月10日) 看護師(11月7日~3月末)

(3) 有期契約職員

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	7	8	8	10	11	8	8	8	8	8	14	15

- *加配児の増加、常勤職員との勤務バランスや産休育休取得等で、有期雇用職員の求人を日々かけてきましたが、必要人数の採用ができませんでした。昨今派遣会社へ登録をする方が増えており、通常採用が困難となっている状況があります。
- *夏期間はプールや水遊びの監視要員で増加しておりますが、職員家族の助けを得て、乗り切ることができました。
- *副園長兼事務長が新園開設準備を担う為、事務補佐として2月20日より事務員を採

用しました。

* 2、3月増加は4月からの新入職員増加に伴うものです。

4. 特別保育事業

(1) 一時預かり事業 定員—7名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実人数	18	16	19	26	20	21	23	25	26	27	24	29	274
延べ	70	61	89	108	86	89	109	104	132	110	116	135	1209

*家庭環境を把握し、状況を受け止めながら家庭や子どもに合わせ個別対応、きめ細かい対応を行っていくため、慣らし保育も兼ねひろばへ来所して頂き、園の環境や職員に慣れる工夫を行ってきました。各家庭の状況に応じ入園案内も行い、その家庭の悩み、相談したい事に、的確な返答が出来たので利用者からの信頼関係が深まっていると感じます。引き続き保護者、子どもの安心につながるよう、継続した対応を心掛けながら、来年度はおたより発行頻度をあげる工夫もしていきます。

*子どもの様子から課題があると感じた家庭と個別に情報を共有し、おたより等で全体に必要な情報を伝えるなど丁寧な関わりを持ち関係を築いてきました。今年度は一時保育から他機関とつながったケースはありませんでしたが、身体的な配慮が必要な子を預かる機会があり、行政と共有、連携しながら必要な配慮を行ってきました。

*前期利用がとても少なかった為、きょうだい児1人のIDで複数のきょうだい児の受け入れ（前期のみ）を行い、定員を7名に増やし後期の登録者数を増やしました。又、育児困難家庭の受け入れを積極的に行い、0歳児（1歳以上）の受け入れも行いました。リフレッシュ利用、幼稚園の長期休みの利用も増え、登録数、利用率の向上に繋がり、12月末をもって新規登録を終了しました。

*利用の用途が就労だけでなくリフレッシュによる利用が増加しています。秋からは次年度入園に向けて集団を経験させたいという理由も増加しています。また、幼稚園の預かり保育が利用できず、保育園を利用したいという相談も増加しています。利用目的が就労から変化しており、次年度も行政と連携しながら地域のニーズに応えていく努力を行う必要があります。

(2) 定期利用保育

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1歳児	2	3	3	2	2	2	3	4	4	4	4	4	37
2歳児	1	3	3	1	2	2	2	2	2	2	1	1	22
3歳児	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

*年度当初は空きがありましたが、年度途中での育休復帰家庭の利用申し込みが増加、1歳児は11月より充足し、問い合わせも増加しました。

* 2歳児は在園児の転園退園が2件あり、待機していた定期利用児が在園児へ繰り上がり、空いた2歳児の枠に新たな定期利用児が入り変動がありました。一定期間、園に在籍している家庭は当園に在籍したいと願う方が多く、日々の保育の頑張りが定員割れを防いでいます。必要な事業を開園から行なってきている努力が定員安定へ繋がっています。

* コロナの影響で復職できず、定期利用保育の要件に合わず契約を解除し一時預かりを利用する家庭がおられました。事業を複数行う事はとても大変ですが、保育の提供を継続できることは子どもや保護者にとって利点であると感じます。

(3) おでかけひろば事業 週3日（火・水・金）5時間（10時～15時）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ	15	19	26	40	45	21	45	56	77	87	121	153	705

* 担当を常勤職員で分担し実施することで、地域の方のニーズやひろば事業への理解を園全体で深めることができになりました。また、保育の専門性を活かし利用者の相談に応えることが出来ました。一方で、いつ来てもこの人がいる、この人の顔がわかる安心感をというひろばの研修や地域コーディネーターからの意見に対し、今年度の利点を生かした方法の検討をする必要があると考えます。次年度も認可園としての役割意識を持ち、引き続き園全体で目を地域に向け職員の誰でもが地域の方へ声をかけられる関係作りを意識して活動していきます。

* ひろば担当職員をクラス配属とし、ひろば運営と同時に園の全体状況をこまめに共有し発信することで閉鎖的にならない関係作り、運営が出来ました。年4回の総括会議では担当者からの報告も実施し、常勤職員間で共有を行ってきました。

* コロナ禍より定着していた予約制に対し、区からの利用者数増加の要請を受け、感染状況も下火であったことから予約制を解除しました。また、利用者増加に向けのぼり旗や掲示を設け地域へアピールしてきました。予約なしの気楽さで訪れる人も多く、秋以降の利用者増へつながってきたと感じます。

* 常勤職員で実施する利点を活かし、入園見学も兼ねて来園して頂きました。異年齢保育へ好感を抱いて下さる方が多く、入所へと複数の方がつながりました。

* HP の更新回数を増やし情報発信を行う事で子育ての参考、園理解へつながるよう努力してきました。今後も継続的に HP の更新を行い、地域の方へ貢献していきたいと考えます。

(4) 緊急保育 定員1～2名

- ・ 3月に家族の入院により、3歳児1名1日の利用がありました。
- ・多くの利用はありませんでしたが、困っている家庭が事業を知り、連絡してくださることが多くありました。園が地域の財産として存在してきている事が伺えます。

・利用希望者や行政からの問い合わせがあり丁寧な対応を行ってきました。家庭の状況に親身になり利用できる事業案内を行うとともに、園で行っている他事業への利用案内を行うことで継続的な支援ができるよう今後も努力していきたいと思います。

* 研修報告（別紙）

- * 保育の実践を集団で考え、「子ども一人ひとりにあった具体的な対応を検討し合う。」という目標に向かい、総括や各種会議等で集団論議を繰り返し行うことができました。
- * キャリアアップ研修に重点を置き取得を促した結果、予定以上の取得が出来ました。
- * 子どもの育ちへつなげていく為に外部の機関「げんき」の力を借りて研修を行いました。子どもの見方を外部の先生に助言を受けたことで気が付くことが多くありました。また、園内でも共有し振り返る力を持つことができました。
- * 職員それぞれが保育につながる課題を学びへつなげ、自主研修の機会が増えました。特に課業研究会はそれに意見交流や実践交流が盛んに行われ互いに学び合うことが出来ました。荒馬や民舞については外部研修にも出かけていく等、自分たちで学ぶ機会を作った1年となりました。
- * 各研修や課業研究会の中で得たことを日々の保育実践に繋げようと努力する姿がありました。引き続き得たことを互いに発信しあい、全体のものに出来るよう努めていきたいと考えます。今年度予定していた経験年数の短い職員が集う、研修の場を園内では作ることが出来なかったのでこちらも次年度も課題とします。
- * 子どもの姿を保護者と共有していく力をつける為に、子どもの姿から各会議や各おうちで機会をとらえ、発達を学びあってきました。伝え方も意識して取り組んできた結果、お便りの書き方に工夫がみられるようになりました。保護者からの反応を受け、職員は共についたことの喜びを実感し、更なるおたよりの充実につながりました。次年度も引き続き子どもの姿を伝えながら、保護者と職員が共に育っていく意識づくりへつなげていきます。

5. 新型コロナ感染症対策報告

- ・園全体が一度も休園することなく、3年間開園し続けてきました。保護者理解、職員それぞれの感染対策、消毒の徹底、感染拡大時の合同保育の判断など、細かい対応の結果だと確信しています。コロナ流行当初は、行政から異年齢保育への感染拡大を不安視する声もありました。しかし、実態はそうではないことを証明できました。
- ・今年度は7月から8月、12月から1月に家族感染が増えました。連絡は欠かさず、電話が困難な家庭とはコドモンでやり取りを継続し繋がりをきらさないように努力してきました。又、園独自支援として早急に抗原キット、非常食、遊具の配達、給食弁当を手分けし家庭まで届け、園児や家族の安否確認も行ってきました。
- * 送迎方法
- ・登降園場所については昨年度に引き続き、異年齢は園庭、0歳児は玄関、一時保育児は

外階段より行ってきました。感染が落ち着いてきた7月より、0歳児はクラスへの直接送迎を開始しましたが、感染拡大がみられ早々に玄関登園へ変更となりました。

・保護者からの声もあり、10月3日より全園児通常登園に戻し3年ぶりに園内に活気が戻ってきました。今まで保育側で行ってきた登降園の準備も保護者に戻り、「今まで大変な作業を先生たちがやってくれた事に、有難い気持ちでいっぱいです。」という、感謝の声が多数寄せられました。一番は事務室も含めコミュニケーションが圧倒的に増えたことに大きな違いを感じ、「やっと戻ってこられた。」という、安堵感が溢れました。

*行事等の対応

感染対策の為、入れ替え制や戸外実施の行事もありましたが園内行事も保護者参加行事も通常に近い形で実施することができました。卒園式は3年ぶりに室内に戻し、短縮せずに行う事ができました。子どもたちは保護者が園に入ること自体が初めての子も多く、人の多さに戸惑う姿もありました。自分の親が園にいる感覚を不思議に感じる年長の姿もあり、早く通常に戻したいと思う大人の思いだけが先行せず、日常がコロナ禍だった子どもたちの育ちにあわせ、今後も実施内容等を検討していきます。

*登園自肃要請

- ① 7月29日～ 8月2日 当該クラスのみ
- ② 7月30日～ 8月2日 当該クラスのみ
- ③ 7月31日～ 8月4日 当該クラスのみ
- ④ 8月3日～ 8月4日 当該クラスのみ
- ⑤ 8月12日～ 8月16日 当該クラスのみ
- ⑥ 8月14日～ 8月18日 当該クラスのみ
- ⑦ 12月16日～ 12月20日 当該クラスのみ
- ⑧ 1月15日～ 1月19日 当該クラスのみ

6. 重点課題

(1) 課題を解決できるまで寄り添った運営を目指し、点から線へつながる運営へ。

・職員自ら考え、実践していくことが増え保育実践、保育計画、連絡帳、お便りなどを通し保護者からの信頼も得てきています。運営陣をはじめ責任者や先輩の職員それぞれの細かい援助や指導があるとともに、開園時からの積み重ねからくるものだと感じます。

・職員それぞれが担当している、行事や課業は職員自ら主導し準備から運営まで行う姿がみられるようになり、職員の満足感はとても高く働き甲斐にもつながっています。「一緒につくっていくよ！」という、運営側の姿勢や困ったら相談できるような体制を意識してきた結果だと感じます。

・職員に寄り添いながら、具体的な問い合わせを行うことを意識し運営を行ってきました。

しかし、運営側の思いと現場の思いが合わない時や、お互いの言葉の捉え違いも発生し、信頼関係を構築していく難しさがありました。又、運営側が現場に寄り添えるよう保育に入る機会を増やしてきましたが、何を見たらいいのかわからない職員の姿や、見る余裕もない職員の状況がありました。現場にもっと近い形で寄り添っていけるよう、経験層の体制変更も行い、豊かな保育の充実や職員が保育の楽しさを深められるようになってほしいと思っています。

- ・保護者対応を含め継続的な事案について、単発対応になってしまう事が多かったのですが、面談や日々の連絡などで担任が継続的に関わろうとする姿が増えてきました。若い職員が経験を重ねる事ももちろんですが、寄り添い指導する各クラスの経験層や責任者の努力や関係性もとても大きいと実感しています。
- ・不適切な保育報道があり、現場の保育にも不安が広がりました。職員会議で率直な思いを語り合い、保育士の配置基準にも触れ学習しました。又、実際の職員の声、保育情勢も園便りで保護者へ配信してきました。保護者代表者会の懇談時には保護者がどう思っているのか率直に聞く機会を設けました。「マイナスな事もきちんと伝えてくれているから、心配していない。」、「異年齢だから、大きい子たちが何かあれば話してくれるで安心している。」等、率直な意見を聞くことができました。

(2) 職員が他の職員とともに保育を作り合い、子どもを真ん中に集団で考えられるようになります。

- ・職員それぞれが支え合い働きあっている事を理解しあっていく為に、話し合いの中で率直に意見を伝え合うことを意識して力をつけてきました。自分のクラスだけではなく総括の中でも積極的に発言する姿も増えました。責任者や各係りの代表は各行事の際に職員間の連携を進んではかり、会議の場でクラスの意見を持ち寄る力もつけてきました。時間の確保に課題でしたが、月一回セクション毎に行う有期雇用職員会議を継続して行ってきました。子ども理解、保護者理解を行うとともに、子どもとの関り方を一致させています。
- ・職員それぞれが園全体に目を向け助け合い、学び合える職員集団を目指し行動してきました。ひろば事業への参加や各課業研の会議や実践、各おうちの保育実践を通して学びを深めている様子がありました。しかし、会議数の多さから各クラスでの話し合いの時間の確保が課題となっています。
- ・子どもの姿や保護者との関りを共有し、保育内容の充実に向け、おたよりやノートでの発信の仕方に工夫がみられ内容が向上しました。同時に大きい子から小さい子へ遊びが伝承し充実していく姿も見られました。しかし、職員自身の異年齢保育に対する悩みや迷いが見られ学年別の活動の増加や大人主導の活動に傾倒する場面がありました。その度に各会議等で検討を重ねてきています。今後も異年齢保育を実践する上で必要な事を各クラスでしっかりと検討し計画に反映し実践していくことが課題と考えます。

(3) 乳児から異年齢での生活を通して、子どもたち一人ひとりが生き生きと育ちあう保育を目指します。

- *子どもたちは異年齢の生活が定着し、大きい子は小さい子に求められ頼られることで大きくなつたことへの喜びを感じています。また、小さい子は大きい子たちにお世話をされることを喜びとし、大きい子たちの真似をし「大きくなつたらあんな事が出来るようになる」と期待と見通しを持ち生活していく姿が見られ、異年齢の生活が当たり前の生活として根付いています。人間関係や異年齢の育ちの中で、互いの心地良さを知り、異年齢の生活が自然に流れています。
- *職員が経験を重ねることで子どもたちの関係性を掴むことは出来るようになっています。しかし、コロナ禍で保護者と直接お話しする機会が減り、家庭との細やかなやり取りにつながっていないところが見られます。普段の何気ないやり取りや話が不足し、適切な援助も含め伝えられなかつたことで、不安やご意見が出されました。
- *まだまだ課題はありますが、遊具や環境を子どもの様子や発達に合わせて先取りで考えていく設定していくことで、一人ひとりの“やりたい”という気持ちを引き出し、その“やりたい”事を実現していくことが出来ました。特に5歳児は話し合いの機会を多く持つていったことで、自分以外の人の気持ちを知り、互いの意見を調整していく中で「みんなで一つの事をやりたい」という気持ちが自然に芽生え、それを実現させていくことが出来ました。
- *子どもたちが主体的な遊びや活動の中で自然と声を掛け合って、必ず大人が仲介をしなくとも伝え合い関わっていく姿がありました。生活行為では大きい子たちが率先して小さい子に関わり、お手伝いをし、手を差し伸べていく中で出来たことを互いに喜び合う姿や、周りの子に発信し共有していく姿も見られました。また遊びの中でも、異年齢の関わりの中でどのようにしたら小さい子と大きい子が楽しんで関わって遊べるか考える姿も見られ、実際に遊んで「楽しかったね」という声も聞かれました。
- *体を動かす遊びを積極的に子どもたちも行っていますが、距離感、速さなど調和が出来ないことでの怪我がありました。走っていて衝突する、狭い所に入つてしまふ怪我もありました。反射的に避けるという事が年々難しくなつてきていて感じます。
- *それぞれの子の得意な事や好きな事を自然と関わりの中で知り、子どもたちが生活や遊びややり取りの中で積み上げてきたものを認め合える関係性を築けていました。「○○が出来てすごいね」や「僕(私)より○○の方がよく知っているから聞きに行こう」「虫博士は○○だよ」など友達の得意な事、出来た事を周りに自分事のように喜び伝える姿も見られました。
- *配慮児も含めて全体的に子どもに対しての職員間での関わり方や園内での共有、発信が少なかったように思います。対象クラスでは把握されているものも、全体での確認が少なく、把握に時間がかかることがありました。会議の時間が限られていることもあります。

周知することの難しさが課題になっているように感じます。

(4) 子どもの豊かな育ちを真ん中にし、保護者と連携しあっていいく関係を目指します。

- ・保護者より行事の際に駐輪希望の声が寄せられ、秋の親子行事の際に保護者代表者を中心、駐輪場の誘導を行ってもらう事で希望を叶えることができました。行事の係り当番についても職員と一緒に取り組み、保護者同士の関係作り、職員とのコミュニケーションの場ともなりました。
- ・園だよりや懇談会で保育情勢を保護者にも伝えてきました。子どもや保育園を取り巻く状況を保護者にも知ってもらえるよう努めてきました。その成果か、年末に集めた保育署名は多くの家庭が賛同し協力をしてくれました。
- ・コロナ禍以降中止となっていた保育参加は、保護者代表者に保護者の意見を取りまとめてもらい、どのようにすると保護者も保育参加しやすいのか等、保護者の声も取り入れながら再開することができました。実際に保育者として参加して頂いた保護者からは、毎日の職員の苦労を労う言葉や、報道で知り得た保育現場の実態を体験してもらうことで、「保育士もう1人！」という意味が理解できた等、保育情勢への理解にもつながりました。
- ・昨年度に引き続き、我が子だけでなく、クラスや園全体の子どもたちの様子も保護者に伝わるようにお便りや懇談会の内容は工夫をしてきました。クラス懇談会は感染状況に合わせながらリアル実施を行い、その中で保護者からのリアルな悩みも出されました。習い事はいくつしているか？気持ちに寄り添うとは全部を聞くことなのか？等の意見も出され、職員だけではなく上に兄姉のいる保護者が経験談を交えながら話してくれることで、保護者も見通しを持ちやすかったように感じました。長く在籍している保護者がそういった役割を担ってくれているようになってきています。

(5) 地域との関わりを大事にし、地域に必要とされる保育園を目指します。

- ・地域活動事業加算を活用して「こぐま食堂」を開催し保育園の味を配布してきました。また、「子どもの学び場スタートアップ事業補助金」を活用して「こぐまのまなびば」を月1回開催し地域の小学生の居場所づくりへ挑戦しました。貧困問題や子どもの居場所づくりにスポットを当て地域ニーズの把握に努めるよう運営してきました。食堂では日々の食事に困っている世帯が多いことがわかりました。学び場では、「〇〇をして遊びたい！」という子どもの思いがわかりました。次年度は利用者の声を運営に反映し展開していきます。
- ・地域の財産として、ある資源を活かしながら園全体で新しい一歩を踏み出していく事ができました。地域活動を園全体の取り組みとしてきた事で地域の方と園とお互いの顔がわかる関係をつくることができ、園の風通しの良い関係構築にもつながってきたように思います。園のミモザが満開時は、「分けてくれませんか？」という、近所の方が

多数来園されました。こぐま食堂の際は地域の方のご協力も頂き運営することができました。保育園の虐待問題や事件が度々報道され、地域からの目は温かいものだけではありません。しかし、お互いが大事にし、大事にされる関係性こそ困難な時に支えになると思っています。

- ・地域に向けて HP などへの配信のほかに、園舎外壁のポスター掲示も定期的に実施してきました。宣伝効果が高く、「掲示を見たよ！」と話して下さる方も増え、「次はいつ？ 何かな？」と続きを期待して待ってくださっています。
- ・こぐまのまなびばには卒園児や在園児のきょうだいが参加しています。親子ともに心待ちにしている家庭が多く、来園するとほっとしている様子がみられます。「こぐまのまなびば」という名称ですが、「集いの場、遊びの場、ほつとする場」という名称の方がしっくりくる状況です。迎えに来た保護者も学童児をみて、自分の子が大きくなる姿を想像し、まなびばの先輩保護者は園児をみて、小さかった我が子を振り返っています。道端で小学生にあうと、「あしたさ～、こぐまいくね！ ともだちもいっしょに！」と、居場所になっていることがわかります。
- ・地域への取り組みについては地域を一番理解している、保護者代表者と実施に向け会議や相談を行ってきました。園が悩んだときに保護者の力が得られ活発な活動ができてきました。

(6) 保護者が安心して預ける事ができ、職員も働きやすい環境を整えていきます。

- ・保護者からの声もあり、今年度より在園児保護者はネックストラップ、一時保育保護者は色付きカードなど送迎する保護者間でも安全に注意できるよう着用して頂いてきました。私たちでは気が付かない事でしたが、保護者からの目線で実用化できたことについては、園運営とともにに行っているという保護者の意識変化が大きいと感じます。
- ・近年施設単位での危機管理の徹底が求められる中、園に必要な事を整理し、職員への意識付け、保護者への徹底を園だよりや職員会議等で行ってきました。緊急性がある危険個所、破損や工事がある場合は、コドモンの連絡機能で周知してきました。
- ・BCP（事業継続計画）については、運営会議で反省、課題の抽出を行い実際に災害が起こった際に事業継続が可能ないようにバージョンアップしています。
- ・感染症対策により園庭登園が続き、園庭門扉のセキュリティへの意見が第三者評価保護者アンケートで寄せられました。こちらについては早急にチーンロックの取り付けを行いました。
- ・不審者訓練をより実態に近い形で2回実施することができました。不審者接近に気が付かず、侵入を許してしまうという結果となり、私たち大人の危機意識の甘さがわかりました。ネットランチャーの発射も交え、より実際に近い形で実施することで課題が見えてきました。あってはいけない事ですが、事案発生時に子どもの命を守り職員それぞれが守りあえるよう訓練を重ねていきます。

2022年度 上北沢こぐま保育園 参加研修一覧

正職員							
NO.	キャリアパス 該当	自主研修対象	日程	研修名	テーマ・分科会名	主催者	場所
1	○	×	5月31日（火）	世田谷区保育課キャリアアップ研修	幼児教育研修	保育課	zoom
2	○	×	6月28日（火）	世田谷区保育課キャリアアップ研修	幼児教育研修	保育課	zoom
3	○	×	7月26日（火）	世田谷区保育課キャリアアップ研修	幼児教育研修	保育課	zoom
4	○	×	9月9月（金）	世田谷区保育課キャリアアップ研修	幼児教育研修	保育課	zoom
5	○	×	10月14日（金）	世田谷区保育課キャリアアップ研修	幼児教育研修	保育課	三茶しゃれなーどオリオン
6	○	×	6月1日（水）～7月31日（日）	世田谷区保育課キャリアアップ研修	乳児保育研修	保育課	eラーニング受講
7	○	×	8月26日（金）	世田谷区保育課キャリアアップ研修	乳児保育研修	保育課	zoom
8	○	×	9月8日（木）	世田谷区保育課キャリアアップ研修	乳児保育研修	保育課	三茶しゃれなーどオリオン
9	○	×	6月30日（木）～8月31日（水）	世田谷区保育課キャリアアップ研修	障害児保育研修	保育課	eラーニング受講
10	○	×	9月29日（木）	世田谷区保育課キャリアアップ研修	障害児保育研修	保育課	zoom
11	○	×	10月25日（火）	世田谷区保育課キャリアアップ研修	障害児保育研修	保育課	北沢タウンホール
12	○	×	8月1日（月）～9月30日（金）	世田谷区保育課キャリアアップ研修	保護者支援・子育て支援研修	保育課	eラーニング受講
13	○	×	10月17日（月）	世田谷区保育課キャリアアップ研修	保護者支援・子育て支援研修	保育課	zoom
14	○	×	11月14日（月）	世田谷区保育課キャリアアップ研修	保護者支援・子育て支援研修	保育課	北沢タウンホール
15	○	×	6月15日（水）	東京経営懇キャリアアップ研修	乳児保育研究会	東京経営懇	zoom
16	○	×	7月13日（水）	東京経営懇キャリアアップ研修	乳児保育研究会	東京経営懇	zoom
17	○	×	9月14日（水）	東京経営懇キャリアアップ研修	乳児保育研究会	東京経営懇	zoom
18	○	×	10月12日（水）	東京経営懇キャリアアップ研修	乳児保育研究会	東京経営懇	zoom
19	○	×	11月9日（水）	東京経営懇キャリアアップ研修	乳児保育研究会	東京経営懇	zoom
20	○	×	6月22日（水）	東京経営懇キャリアアップ研修	幼児保育研究会	東京経営懇	zoom
21	○	×	7月20日（水）	東京経営懇キャリアアップ研修	幼児保育研究会	東京経営懇	zoom
22	○	×	9月21日（水）	東京経営懇キャリアアップ研修	幼児保育研究会	東京経営懇	zoom
23	○	×	10月19日（水）	東京経営懇キャリアアップ研修	幼児保育研究会	東京経営懇	zoom
24	○	×	11月16日（水）	東京経営懇キャリアアップ研修	幼児保育研究会	東京経営懇	zoom
25	○	×	6月21日（火）	東京経営懇キャリアアップ研修	障害児保育研究会	東京経営懇	zoom
26	○	×	7月26日（火）	東京経営懇キャリアアップ研修	障害児保育研究会	東京経営懇	zoom
27	○	×	9月20日（火）	東京経営懇キャリアアップ研修	障害児保育研究会	東京経営懇	zoom
28	○	×	10月18日（火）	東京経営懇キャリアアップ研修	障害児保育研究会	東京経営懇	zoom
29	○	×	11月15日（火）	東京経営懇キャリアアップ研修	障害児保育研究会	東京経営懇	zoom
30	×	×	4月26日（火）	保育課ミドル研修2年次		保育課	セミナールーム
31	×	×	5月20日（金）	保育課ミドル研修2年次		保育課	三茶しゃれなーどオリオン
32	×	×	6月7日（火）	保育課ミドル研修2年次		保育課	三茶しゃれなーどオリオン
33	×	×	7月6日（水）	保育課ミドル研修2年次		保育課	三茶しゃれなーどオリオン
34	×	×	8月1日（月）	保育課ミドル研修2年次		保育課	三茶しゃれなーどオリオン
35	×	×	9月14日（水）	保育課ミドル研修2年次		保育課	セミナールーム
36	×	×	1月10日（火）	保育課ミドル研修2年次	自園内研修	保育課	教育総合センター研修室
37	×	×	2月20日（月）	保育課ミドル研修2年次		保育課	玉川区民会館集会室
38	×	○	8月20日（土）21日（日）	荒馬座夏の太鼓民舞教室	獅子舞	荒馬座	荒馬民族芸能センター
39	×	○	6月4日（土）～6月6日（月）	東京都キャリアアップ研修	保護者支援・子育て支援研修	繭の糸	zoom
40	×	○	6月12日（日）	食と健康を考えるシンポジウム		食べもの文化研究会	浅草橋ヒューリックカンファレンス
41	×	○	8月20日（土）21日（日）	荒馬座夏の太鼓民舞教室	獅子舞	荒馬座	荒馬民族芸能センター
42	×	○	6月11日（土）～6月12日（日）	保育問題研究会 全国集会	異年齢分科会	京都保問研	zoom
43	×	○	8月1日（月）～8月2日（火）	荒馬座夏の太鼓民舞教室	荒馬踊り	荒馬座	荒馬民族芸能センター
44	×	○	8月3日（水）～8月4日（木）	荒馬座夏の太鼓民舞教室	荒馬踊りの太鼓	荒馬座	荒馬民族芸能センター
45	×	○	8月30日（火）31日（水）	荒馬座夏の太鼓民舞教室	荒馬踊り	荒馬座	荒馬民族芸能センター
46	×	○	6月17日（金）	このままでは働き続けることがつい保育の仲間たちへ		平松 知子	書籍
47	×	○	7月17日（日）	子ども専門家アカデミーセたがや ～子ども基本法、子ども家庭を地域のみんなで考える～		こども専門家アカデミーセたがや	zoom
48	×	○	8月21日（日）	赤ちゃんからの食物アレルギー正しい対処		食べ物文化研究所	zoom
49	×	×	7月8日（金）	烏山地区・給食会	除去食、食育活動、離乳食、ぎゅじゅについて		zoom
50	×	○	8月30日（火）～8月31日（水）	荒馬座夏の太鼓民舞教室	荒馬踊り	荒馬座	荒馬民族芸能センター
51	×	×	7月13日（水）	社会福祉経営全国会議 北海道・東北ブロック学習会	BCPの作成と対応、これからの課題	社会福祉経営全国会議	zoom
52	○	×	8月15日（月）～16日（火）	東京都社会福祉協議会キャリアアップ研修	保護者支援・子育て支援研修	東京都社会福祉協議会	zoom
53	×	○	8月20日（土）、21日（日）	第54回全国保育団体合同研究集会		第54回全国保育団体合同研究集会実行委員会	zoom
54	×	○	8月6日（土）7日（日）	第54回全国保育団体合同研究集会	子どもの生活と異年齢保育	第54回全国保育団体合同研究集会実行委員会	zoom
55	×	○	8月6日（土）7日（日）	第54回全国保育団体合同研究集会		第54回全国保育団体合同研究集会実行委員会	zoom

正職員							
NO.	キャリアパス 該当	自主研修対象	日程	研修名	テーマ・分科会名	主催者	場所
56	×	○	8月20日（土）、21日（日）	第54回全国保育団体合同研究集会	保育子育て講座 実技講座	第54回全国保育団体合同研究集会実行委員会	zoom
57	×	○	8月20日（土）、21日（日）	第54回全国保育団体合同研究集会	基礎講座	第54回全国保育団体合同研究集会実行委員会	zoom
58	×	○	8月20日（土）、21日（日）	第54回全国保育団体合同研究集会	基礎講座	第54回全国保育団体合同研究集会実行委員会	zoom
59	×	○	8月20日（土）、21日（日）	第54回全国保育団体合同研究集会	基礎講座	第54回全国保育団体合同研究集会実行委員会	zoom
60	×	○	8月20日（土）、21日（日）	第54回全国保育団体合同研究集会	基礎講座	第54回全国保育団体合同研究集会実行委員会	zoom
61	×	○	8月20日（土）、21日（日）	第54回全国保育団体合同研究集会	基礎講座	第54回全国保育団体合同研究集会実行委員会	zoom
62	×	○	8月20日（土）、21日（日）	第54回全国保育団体合同研究集会		第54回全国保育団体合同研究集会実行委員会	zoom
63	×	○	8月20日（土）、21日（日）	第54回全国保育団体合同研究集会			
64	○	○	7月9日・10月1日	東京都保育士等キャリアアップ研修「障害児保育」		日本社会福祉マネジメント学会	AIAChildCare株式会社
65	×	×	10月28日（金）	令和4年度要保護児童支援鳥山地域協議会 「子どもと保護者の居場所があるあたらしい地域づくり」		世田谷区子ども家庭支援課	烏山区民会館ホール
66	×	○	書籍	・子どもが心の葛藤を超えるとき		平松 知子先生	
67	×	○	書籍	・大人だってわかってもらえて安心したい		平松 知子先生	
68	×	○	書籍	縄文人がなかなか稻作を始めない件		笛木 あみ	
69	×	○	書籍	あそびが語る 保育と発達		川崎 道夫	
70	×	○	書籍	フィンランドの子育てと保育：安心・平等・社会の育み			
71	×	○	書籍	子どもが遊べる木と草花		廣瀬泰士・林由加里	
72	×	○	書籍	子どもの庭		仙田 満	
73	×	○	書籍	トトロの住む家		宮崎 駿	
74	×	○	書籍	虫目とアニ眼		養老孟子・宮崎駿	
75	×	○	書籍	テーブルマナーの絵本		高野紀子	
76							

2022年度 上北沢こぐま保育園 参加研修一覧

園全体の研修他						
NO.	日程	研修名	テーマ・分科会名	主催者	場所	対象者
1	3月26日（土）	職員会議研修	保育情勢・各規定について・世田谷区保育の質のガイドライン・法人で大切にしていること・年間計画及び方針書確認			
2	4月1日（金）	園新人研修	「保育関係」	園		2022年度新入職員
3	4月9日（土）	職員会議研修	他者への伝え方～散歩の行き方を	園		常勤職員
4	5月21日（土）	職員会議研修	2回寝の子の日課、活動について			
5	7月2日（土）	第1回中堅層研修		法人研修委員会中堅層研修部会	zoom	小田桐、長谷川、高際、三輪
6	7月14日（木）	2022年度1年目職員研修		法人研修委員会中堅層研修部会	zoom	飯島、高山、鈴木、其田、橋本
7	6月9日（木）	アデノウィルスによる感染性胃腸炎の蔓延に伴い、感染防止対策について		園		全職員
8	6月18日（土）	職員会議研修	救命救急、プール水質検査実習	園		常勤職員
9	6月20日（月）	ドル平講習①		園	2階テラス、プール	2022年度新入職員、他
10	7月20日（金）	ドル平講習②		園	2階テラス、プール	5歳児
11	8月27日（土）	職員会議研修	わたしたちの異年齢保育の中の乳児保育	園		常勤職員
12	9月17日（土）	職員会議研修	保育情勢学習～子どもたちにもう一人保育士を～	園		常勤職員
13	10月29日（土）	職員会議研修	嘔吐処理・不審者対応訓練反省	園		常勤職員
14	10月15日（土）	第2回中堅層研修		法人研修委員会中堅層研修部会	zoom	小田桐、長谷川、高際、三輪
15	11月19日（土）	職員会議研修	冬期の感染症対策について	園		常勤職員
16	12月17日（土）	職員会議研修	不適切保育について	園		常勤職員
17	1月7日（土）	職員会議研修	主体性とは？	園		常勤職員
18	1月13日（金）	3法人主任交流会			zoom	田代・井原
19	1月19日（木）	第3回中堅層研修		法人研修委員会中堅層研修部会	zoom	小田桐、長谷川、高際、三輪
20	2月18日（土）	職員会議研修	保育情勢・危険予測の立て方について	園		常勤職員
21						
集計						18

2022 年度 永山小学童クラブ事業報告

1. 児童状況

- (1) 定員：70 名
- (2) 育成年齢：6 歳～12 歳（小学校 1 年生～6 年生）
- (3) 育成時間：学校下校時～19：00、学校休業時 8：00～19：00
- (4) 学年別状況：(2022 年 4 月 1 日現在)

学年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	合計
人数	20 名	25 名	20 名	2 名	1 名	1 名	69 名

※ 3 月に取り下げ、入所先変更があったため。

2. 職員状況

- (1) 正職員 (2022 年 4 月 1 日現在)

職種	施設長	放課後児童支援員	合計
人数	1 名	4 名	5 名

- (2) 正職員状況

* 1 名 4 月 15 日から産休、育休

- (3) 有期契約職員

勤務時間	4 h × 週 4 日	4 h × 週 5 日	5 h × 週 5 日	6 h × 週 5 日	不定期 (学生)	計
人数	4 名	1 名	1 名	1 名	4 名	11 名

- (4) 有期契約職員状況

* 無期転換職員 3 名

- (5) * 事務職員 (4 h × 週 2 日) 3 学童クラブ分の事務処理担当 (賃金は案分)

- (6) 資格取得状況

保有資格	放課後児童支援員	保育士	教員免許
人数	12 名	5 名	9 名 (中・高 6、養護 1、幼 3)

3. 2022年度に取り組んだこと

(1) こどもたちとの話し合い

大人の定例会議のような、決まった日時を設けて話し合うのではなく、グループ内でそろそろ席替えをしたいというタイミングや、行事の話し合い、日常の遊びのなかでのトラブルからどうしたらよいかの話し合いなど、日常的にまずこどもたちとのやりとりから、一緒に着地点を見つけていくようにした。行事の話し合いは、以前から3年生を中心に当たり前のように行っていたので、後述の行事等でも報告したい。この1年振り返ってみて、仰々しく会議と銘打たなくとも、常にこどもたちとのやりとりをしていくことが広がってきたといえる。

(2) インクルーシブ

4月スタートから、3年生が自発的に新入所の1年生の遊び相手になったり、日常の面倒を見るということが見られた。同じ保育園出身というのもあったが、その枠を超えて1年生を中心として3年生男子に広がっていった。また、そのことで今まで、特別支援学級の児童に対して積極的に関わるにいくことがそれほど見られなかったのが（だからといって、排他的ではなかった）、大人がお世話するのではなく、自分たちで援助していくという関係性の変化がかなり早い段階でみられた。そもそものきっかけは、同じ保育園で縦割り保育のかかわりをしていた実体験が2年間のブランクがあっても、解消するのではなく新たなメンバーを巻き込んで発展していく姿に大人も力をもらえた。ただ、みんながこぞって援助していくことで、1年生が自分でできることも援助してしまうこともあった。2学期の終わりごろからそこが課題となってきたが、3年生に1年生も自分でできることができてきていること、援助することもいいことだが、できることを援助するのは援助となるのかということを話し合い、3年生も理解し年が明けて3学期になると少し距離を置く姿もみられた。

(3) アレルギー対応と食育

卵、乳、小麦、大豆、ナッツ、果物、と食物アレルギーの児童が増えたため、おやつのメニューも個別対応ではなく、それらを除去したもので対応することにした。食材が限られて、バリエーションをつけるのも大変ではあるが、生協などを利用してメニューを作成している。食育については、学期末にぶんぶんおにぎりや防災クッキングを行ったり、テラスのプランターで野菜を育てるなどで、食についての関心を生活のなかで深めることができたと思う。ただし、プランター栽培では、行事と収穫の時期などが重なり、収穫したものをみんなでおやつのスープなどに利用するところまでできないものもあったのが、今後の課題である。時間の関係で一緒に作れなかった豚汁の時は、ごはんを炊くのにお米の銘柄を子どもたちと決めたり、豚汁の具材クイズをするなど、ただ食べるだけに終わらないようにした。ぶんぶんおにぎりは、コロナ禍で2年間できず、3年ぶりに実施した。コロナ以前は毎年行っていたため2年生以上は経験済みで、子ども同士の教え合いができていたが、4年生2名

以外、全員初心者という状況だった。子どもだけでなく職員も初めて経験する人もいて、コロナ禍で、それまで築いてきた文化のようなものも簡単に途切れてしまうということを実感した。

(4) 月案会議

昨年度以上に有期職員の発言も増えてきて、児童理解やグループ内の悩みも対等な意見交換により、より深く共有できるようになった。報告よりも話し合うことが増え時間が足らないくらいである。グループ内の話し合いも週1回やりたかったが、全員揃う日を確保するのがやはり難しかった。限られた時間でどのように会議の時間を保障していくかという課題が解決できていない。

(5) コロナ感染防止対策

今年度も、一番配慮し、何度も見直したのが、おやつなどの飲食の場面である。アレルギー対応もあり、年度当初は、学年別時差式おやつにしたが、おかわりが出しにくかったり、あそびを優先して食べない日が続く子がでてくるなどの問題がでてきた。さらに、狭い育成室の一角が常に飲食コーナーとなるため、遊ぶ場所や宿題をやる時間と場所の確保の問題もでてきた。そのため、一斉おやつに戻すことにしたが、狭い机で対面で飲食することになるために、パーテーションを軽くて扱いやすいプラスチック段ボールに買い替えた。

保護者会は、対面とzoom併用のハイブリッドで2日に分けるなどの対応をしたことで、保護者も無理なく参加できたようだ。

東京都が実施していた集中的検査の抗原検査キットを全職員に配布し週2回の検査を3月末まで行った。検査することで、一定の安心を得ることはできた。

コロナ感染の流行の波が何度かあったが、第8波までは施設内での感染は確認できず、なかつたと思われるが、第8波の終わりごろ職員や児童の感染があり施設として、一時的に厳しい状況になったが、大きな拡大にはならず、ぎりぎりのところで食い止めることができたと思われる。

(6) グループ担当制

グループごとに課題や悩みは違うが、月案会議で報告したように施設全体で共有やアドバイスしあったりできるようになった。また、法人学童クラブの研修「たま研」で他施設の育成を相互に交流し意見やアドバイスをもらえ、各グループで実践に反映することができたのは、大きな成果だといえる。

以下は各グループの報告となる。

● こぐまグループ

1年生：8名 2年生：7名 3年生：6名 計21名

昨年度のグループ活動では、1年生から積極的に「お当番をもっとやりたい」という

声があがった為、どのようなお当番をしたいかを子どもと一緒に話し合い、お当番の数と人数を増やした。お当番を増やしたことで、それまで切り替えの場面で、何をしたら良いか分からなかった子もお当番の準備をするようになり、楽しそうに活動する様子がみられた。環境的な面では、宿題やおやつの際に子ども同士の距離が近く、互いにちょっとかいを出したりする様子が見られたが、床に敷いているマットを購入し、1人ひとりがゆとりのある空間を保持できるように配慮を行った。子ども同士の適度な距離が保たれたことで、集合した際に子ども同士のトラブルが減った。

今年度のグループの課題として、片付けや帰りの会等で次の活動への準備が終わらずに活動に移っている事があった為、活動に移りやすいようなアプローチをしていくと思う。

● パークグループ

1年生：7名 2年生：12名 3年生：6名 4年生：1名 5年生：1名 計27名

- ・ 22年度より人数が増加したため、テーブルの台数を4→5へ変更。1つのテーブルにつき最大で6名の座席間隔にする。
- ・ グループの進行は主に2・3年生が担当。降所のリーダーは3年生が担当。
- ・ おやつ時は、パーテーションを置くため、最大で6名となるが、欠席で座席が空く場所があるため、そこへ移動してもらい、最大でも5名になるように調整する。
- ・ 席替えでは、主に3年生が配置を考えられるように提案する。その際に、子ども達同士で「○○と○○は一緒になると騒がしくなる」等考えつつ、座席を考えた当人たちが快適になるように考えていた。※席替えは、3回実施。
- ・ 集団降所の人数が多くなった。1グループでの降所をしていたが、出発が遅くなることや人数が多くリーダーの負担が大きいこと等があったため、「パークA・パークB」の2班に分ける。A・Bについては、分散させることが目的だったため、特に誰がとは固定していない。
- ・ 2月ごろから1年生が進行を2年生はリーダーを担当するようになる。

● 永1・永2・さくらグループ

1年生：5名 2年生：6名 3年生：8名 4年生：1名 6年生：1名 計21名

- ・ 今年度からグループ担当の常勤職員や有期職員が代わったが、子どもたちに大きな混乱はなく新年度をスタートすることができた。新年度の子どもたちの様子を見た時に、おやつや帰りの会の時の挨拶をしっかりとる、進行役や大人など誰かが話す時間になったら前を向いて話に耳を傾けるなどの当たり前に感じられるようなことをどの場面でも、子どもたちが自らできるようになっていけたら良いと感じた。そのため、まず各生活の場面の中で今は何をする時間なのか、なぜ静かに話を聞いたり、しっかりと挨拶をした方が良いのかを子どもたちに改めて問い合わせ、繰り返しその意味を伝えていった。月日を追うごとに子どもたち自らがその場面にあった行動を取れるようになってきていた。

- 今まで進行役が1人であったが、特に下級生が上級生に対して注意をしたり、大勢の前に立って話をしたりすることに抵抗が見られる様子もあった為、子どもたちと相談して進行役を2人体制にした。そのことで下級生と上級生がペアになった時は上級生が率先して行動したり、おやつの配膳なども子ども達で概ね行えるようになった。
- グループ全体で特別支援学級で強度のアレルギーを持つ子どものことを気にかけたり、助け合って生活している様子がみられた。
- 今年度は新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたこともあり、子ども達と相談しながらグループでの活動としてお当番を復活させることができた。来年度は担当グループでの活動に加えて、他のグループを巻き込んだ活動を子ども達と一緒に考えていけたら良いと思う。

4.行事

コロナ感染対応もしながら、計画したものはほぼ実施できた。コロナ対策よりも熱中症や光化学スモッグ対策など夏の行事がそれらに左右されることが、近年多い。暑さ対策をしながら、いかに夏を楽しみさらに非日常的なことも味わえるかが今後も課題である。

3年生遠足は、年間計画の段階で、例年2月に行っていたのを11月の最終土曜日に前倒しにした。学校も2学期は行事が多く学童クラブとしても親子交流会などイベントが多い中ではあったが、3年ぶりに動物園に行くことができた。コロナ感染やインフルエンザの流行の波のはざまともいえた時期で気候的にも丁度遠足に適していてコロナ以前のような遠足が実施できた。遠足にあたっても、子どもたちとの話し合いでメンバーとコースを決めて実施した。話し合いの段階から様々なドラマがあり、当日まで決まらないことを抱えたグループもあったが、こどもたちが主体となり大人に連れて行ってもらうのではない遠足が、今回も実現できた。

詳細については、別紙参照。

5. 保護者との関係

コロナ禍で保護者同士のやりとりが非常に難しくなり、2021年度の父母会では役員さん同士のやりとりがないままで非常にやり辛かったという反省から、学期に1回は定例会を行うということで、行事についても学童クラブから保護者に相談することもできるようになり、保護者の意見も反映できるようになった。また、保護者同士もお互いの顔が見えにくい状況がかなり改善できたと思われる。

父母会共催の親子交流会も2021年度同様、コロナ感染防止対策として分散してスタンプラリーを実施した。2021年度は分散という形式でも、交流できて良かったという意見が多くかったが、2022年度は、分散ではなく、一同に会してもっと交流したいという意見も出てくるようになった。

6.育成室及びテラスなどの環境面

育成室は、新年度に合わせてグループの配置を変えたため子どもたちの動線と遊具の配置が合わなくなったり、遊具の買い替えでサイズが変わり収納の棚と合わなくなるなど何度も配置や収納を見直した。また、降所のネームプレートについても子どもたちが自分で管理できるように1年かけて見直し作り変えた。

テラスとプランターは、昨年からの積み重ねでテラス委員を中心に、プランターの栽培や水やり収穫など子どもたちとやりとりしながら進めた。苗や種も子どもたちのほうからじぶんたちで買いに行きたいという意見が出た。学童クラブから育成時間内に行けるところとして、市役所に隣接するJAまで職員と買い出しに行くことも実現できた。テラスのプランターについては、季節に応じて活動できたが、室内と地続きのちょっと外の空気に当たれるところとしてのテラスとしては、夏の暑さなどで活用できなかった。今後、どのように活用していくか、子どもたちと話し合いながらきめていきたい。

施設ができて14年たち、設備面で不具合や破損なども出てきている。市ともやりとりしながら、今後の補修につないでいきたい。

7.学校や地域との連携

学校内にあり、日々校庭や体育館などの施設を利用していることからも、日常的に風通しよく、連携できてきた。子ども同士の関係や行動面でも共有したり学校と意見交換などができる。子どもや保護者にとってもプラスになるよう引き続き良好な関係を築いていきたい。地域の方々、特に青少協の会議で顔が見える関係にもなっていて日々の降所路や防犯、交通安全面などの情報共有も学校と合わせて共有できている。コロナ対応も変わっていくことから、地域の行事にも可能な範囲で参加したい。今年度も地域清掃は参加することができた。

8.職員関係

会議で立場に關係なく意見が言えるようになってきたのは、前述のとおりである。グループを超えて協力することもでき、チームとして支え合えるようにもなってきた。

有給休暇は、繰越の消化もできていない職員もいて、消化率は若干上がってはいるが、コロナ感染拡大もあり、取りたいときに誰でもいつでもとはいかない。

健康診断や細菌検査、また、都のコロナ感染集中的検査など実施することができた。

9.研修関係

別紙参照。

		子どもたち・遊びの様子	行事	特記事項
4月	遊びの様子としては天気の良い日には第一公園に出かけ、遊具で遊んだり、プラスチックのソリを持っていきます。ペリ台を滑ったり、靴飛ばしをしたり、男女学年関係なく大人数で鬼ごっこやドロケイをしたりと額に汗を滲ませながら思い思いに遊ぶ子どもたちの様子が見られた。 校庭遊びでは久しぶりにサッカーができるようになり、楽しそうに友だちとボールをバスし合っている子達や、学校の体育で習った十字オニを友だちとしたり、手に豆ができるほど雲梯や鉄棒の練習を頑張ったり、昆虫採集をしたりとそれぞれがやりたい遊びを時間いっぱいに楽しんでいた。 室内遊びではレゴやLego、ボードゲーム、シルバニアやおままごとセットを使ってごっこ遊びをしたり工作をしたりして過ごしていた。上級生の子たちが遊び方の分からない1年生に優しく遊び方を教えてくれたり、一年生のしたい遊びに付き合ってくれる姿も見られ、より一層お兄さんやお姉さんになった子どもたちの様子も見ることができた。 4月上旬から下旬まで児童の感染が続いていた。そんな中で特別支援学級の一クラスが学級閉鎖になった。当該クラスの子はいたが自施設の児童に感染者はいなかった。昨年度に引き続き施設の消毒の徹底やおやつの時座席の時差式おやつにして人数を分散して食べるようになった。	6・12日：避難訓練 13日：新入所歓迎会 21・22日：保護者会	新入所児に主要3品目（乳・小麦・卵）のアレルギー配慮児がいるため、おやつをアレルギーフリーの物へ統一。 新しい物を出す際に事前に保護者に確認	
5月	月初の連休が明け、初めは久しぶりの登所どころでもあり落ち着かない様子の子どもが多数いたが、学童クラブでの生活に慣れてきたのか宿題や本読みなど落ち着いて取り組めるようになってきた。 天気が悪く校庭には行かずに体育館や室内で過ごす日が多くなったが、それぞれドッヂボールや大縄跳び、バトミントンやランボリンをして体を動かして遊んだ。また晴れている際には玄関前でコマ遊びを行っており、日々の練習だけでなく検定にチャレンジし、級や段が上がっていくと嬉しそうに職員に報告する姿も多くなっている。 友達の気を引くために嫌がらせの様な紙を他児の名をかたって書き、目につくところに貼るということがあつた。全体には他人を傷つけるようなことはしないと話し、本児にはやつたことはおふざけされることではないことを話し、それぞれに謝るよう促した。各家庭と学校とも共有している。 25日からおやつが時差式から一斉へ変更になった。以前まではシールドを2つ置いて1テーブルに3人座り、多いときは4回入れ替えをして食べていたが、現在は5つのシールドを置いて6人まで座れる状態になつたため、育成室のみで同時に食べられるようになった。また、外遊び前の3時30分からおやつにしたことで子どもたちの気持ちの切り替えとなり、遊びに行きたからおやつを食べないという子どもが減ったことで同時に食品のロスも減らすことができた。	11日：引き渡し訓練（避難訓練） 17日～：個人面談（1年生） 随時：テラスプランター係		
6月	1年生の授業が5時程まで増え、子どもたちは14時以降に登所することが多くなつた。その為職員同士の打合せ時間が増えたので全体での出来事の共有ができるようになつた。5月から雨天の日が続いていた為室内遊びをする時間が増え、レゴやカードゲーム、ボードゲームで遊んでいる姿がよく見られた。またダンボール工作が人気でテープやペンを使って色を塗つたりと、オリジナルのハウスを作制作している子どももいた。 不適切な言葉を書いてある紙を再度発見したため、自分の気持ちを言葉で伝えようというテーマで全体に向けて劇を行う。その中で子どもたちはモヤモヤした気持ちをどのように伝えられたら良かったのかということを自分たちで考えてもら、共有をした。 育成室のレイアウトを大幅に変更し、家具の廃棄や玩具の入れ替えを行つたことで遊べるスペースは増えた。しかし元々置いていた玩具を仕舞う場所が無くなつてしまつたりなどまだ改善の余地がある為、職員で話し合いながら変えていくことと思う。またレイアウトを変更した際に家具やグループの場所の移動で不安になつてしまつた子どももいたが、数日経つと慣れたのか普段通りに過ごすことが出来ていた。 小学校からメダカを頂き、子どもたちと一緒に水槽の準備などを一緒に環境を整えた。事前に子どもたちはメダカを飼育していくかどうかの声を聞いており、半数以上が学童クラブでメダカを飼育したいと声をあげていて、興味を示していた。積極的に飼育準備や清掃を手伝う子どももあり、これからも継続して行っていく。 1年生同士の不適切なやりとりがあつたことが分かった為、自分で考えてみよう②をテーマに『いいタッチ悪いタッチ』という話を全体に向けて、絵本を使って読み聞かせを行つた。またバーソナルスペースとはどの部分なのかを水着を着ているイラストを使って確認した。いいタッチ悪いタッチには触るだけではなく言葉で伝えるのもいけない事だよねと子どもたちには伝え、言われた際にはどのように対応したら良いのかをロールプレイをしながら子どもたちの意見を聞きながら確認をした。	10～29日：個人面談（希望家庭） 6～10日：工作週間 11日：保護者向けCAPワークショップ 30日：避難訓練（火災対応）		
7月	毎日気温が30度超えの熱中症指数が高い日が続く中、外遊びを行えない日が多かった。その為室内遊びを充実させたり体育館や室内でランボリンを出して遊ぶなど少しでも身体を動かして遊べるように過ごしていた。またトータスやオートリオなど頭を使って遊ぶ玩具が人気で学年を超えて遊んでいる姿がよくみられる。子どもたちの中でもカラムが大人気で男女関係なく自分たちでトーナメント表をつくつたりと積極的に遊びに参加している。レゴやLegoではパーズを増やしたこと以前はレゴのパーズの取り合いになっていたが、現在はLegoと分散して遊ぶようになつた。Legoやカラフルなど友だちと時間を作つて遊ぶことが多かった。 小学校から学童クラブへの登所中に児童2名がライターで火遊びをしている件があった。今回の件を受けて、登所の時間が遅い児童がいる場合は学校とも密にやりとりをすることを職員同士で共有した。 先月、子ども同士の不適切なやりとりがあつた件で、類似したやりとりがあつた。相手の子どもには『良いタッチ悪いタッチ』『プレイペートゾーン』について個別で話をやつた。また被害のあった子どもには自分の身を守る為にはどうしたらしいのかをあらためて確認をした。 21日からは学校の夏季休業が開始した。コロナウイルス感染拡大の影響もあり予定より登所人数が減り、毎日30人～40人台を推移している。今年度から週2～3回程度、食休みの時間にDVDを鑑賞している。子どもたちは初めは短編集を観ていたが段々と長編の映画も集中して観られるようになってきている。	1～7日：七夕工作 11日：避難訓練 13日：お留守番シアター 14・15日：保護者会（対面・ZOOM同時開催） 20・21日：子ども向けCAPワークショップ 22日：昼食会（ぶんぶんおにぎり）+映画会		
8月	今年度は在籍児童の保護者がコロナウイルス陽性となる家庭が増え、夏休み前半は比較的少ない登所人数であった。また、厳しい暑さが続き外遊びに行けない中、室内遊びでのカラムは学年・性別関係なく熱中していた。他にもアイロンビーズやオリジナルメモ帳を作ったり、ランボリンを学年ごとに時間を作つて遊んだりなど少しでも身体を動かして過ごす。また今年度から月・金曜日の食休み時間にDVDを観て静かに過ごせるように、玩具を分けたりと環境を整えた。その為DVDに集中して観れる子どもが多く、比較的穏やかに過ごすことができた。学童クラブのDVDのレビュー通りが少なかった為、購入や児童室に借りて補つた。夏休み後半からは少しずつ登所人�数が戻り50名～60名を推移する中で、熱中症指数が厳重警戒ではあったが外遊びに出られる日も増えていった。 その為激しい運動はできないが虫取りや遊具のみ等の制約をつけて校庭での遊びを楽しむ。子どもたちはセミ捕りが人気で元々触れなかつた子どもも何度も触れてチャレンジをして触れるようになり嬉しそうにしている子もいた。 熱中症指数の高さで予定していた行事が中止になることもあったが8月後半には後述にあるヨーヨーやスープーボールなどブチ緑色を行なうことができたりと夏を楽しむことができた。また1・2年生はお手伝いをしている上級生の姿をみて興味津々に見学しており、来年・再来年になつたら自分たちが主役となって行事を行なう。	18日：お菓子落とし 23日：ヨーヨーフィー 25日：スーパー博覧会 24日：避難訓練 30日：交通安全教室 31日：父母会共催昼食会（レトルト）		
9月	学校が始まるとなつた登所数も増え、懶やかさも倍増した感がある。学校の運動会の練習が始まるなど学校生活も濃いものになり疲れるのか、歯磨き教室やタフ延長で寝てしまう子も何人かいる。また、2年生になって先に1年生が帰ってきて遊び始めている状態のところへ2年生以上が帰つてくるが、育成室の懶やかさが耐え難り入室できれないという2年生の訴えもあつた。9月当初奇聲を発する児童もいたが、半ばごろから全般的に学校から学童クラブというリズムに慣れきたとの、奇声や問題行動についての職員間の共有と対応について模索しつつ共有できたことなどもあって、中旬ごろから騒々しさはあるが、一定の落ち着きを感じられるようになつた。学校はプールや、運動会の練習、遠足など秋になつて行事が目白押しとなつていて、学童クラブも親子講習会などの行事があるが、あまり負担にならないよう子どもたちの状態を見ながら準備を進めています。	14日：歯磨き教室 避難訓練 15日～個人面談（全家庭）	職場体験受け入れ（青陵中学校）	
10月	10月に入つても雨の日が多く、気温の日格差も大きくなり体調を崩す子も何人かいた。雨で体育館を利用することも多く校庭ではやらないドッヂボールなどで汗をかくほど楽しめた。昨年は勝ち負けでギスギスすることが多かつたが、今年はゲームそのものを楽しめている子が多く全体の空気も良い感じになっている。学校の運動会や学年によってはプールの日もあり、週末には夕方になると寝てしまう子もいた。中旬以降は秋晴れの気持ちのいい日も多くの校庭遊びに全員出ている日もあり、身体を動かすことを存分に楽しんだり、制作活動を納得できるまでやるなど充実した過ごしが方全としてできている。アレルギー対応として完全除去の食材で提供している事が、身体を動かす活動が増えたと気候が良いのも相まってか、おかげもあり増え食欲の秋らしく食べててくれて提供する側としても気持ちは良い。 下旬に入つてアタマジラミの発生が確認でき一斉メールで注意喚起をした。	~26日：個人面談（全家庭） 17日～：ハロウィン工作 29日：親子交流会 避難訓練	職場体験受け入れ（諏訪中学校/鶴牧中学校）	
11月	校庭でドロケイをして遊ぶ機会が多く、毎日のようにドロケイをして遊んでいた。最初は、警察と泥棒に分かれ警察が捕まえる普通のドロケイをして遊んでいたが、途中から警察の基地にある宝物を泥棒が持つて行つたら泥棒が勝ち、というルールで行つようになつた。そのルールが子どもたちの中でしきりきたのか、これまでのドロケイよりも参加者が多く、走り回つていて。それに伴つて走っている中の怪我がいくつかあった。少しずつ薄暗くなつてきているため、足元への注意が必要だと感じた。 永山学童クラブも外遊びで校庭に来ている。その中で在籍児とトラブルになることがあつたため、同じ遊びでもルールをすり合わせていく必要があると感じた。 児童の靴紐が切れていたと保護者から報告があった。保護者からは、誰かがハサミで切つたのではないかという主張だった。ただ、犯人探しをしてほしくない、他児に公開しないでほしいという保護者の意向もあり、仮に学童クラブで起こつたとしても、「いつ」「誰が」「なぜ」やつたかは見つけにくい。また、ハサミや紐の切られた状況からも学童クラブで起こつたかは考えにくい。保護者も理解している。今現在、学童クラブ内でも学校でも本児へのいじめはないが、学校・学童クラブ共にハサミの扱いとか今後の本児を巡る人間関係など気を付けていく事で保護者も納得している。	4・11・18・25日：3年生会議 26日：3年生遠足（多摩動物公園） 避難訓練	職場体験受け入れ（永山中学校）	

12月	<p>登所後すぐにコマ遊びに行こうとする子がいるため、宿題に取り組んでから参加するように声掛けをする。子ども同士で宿題について声掛けをしている姿もあった。</p> <p>外遊びでは、ワールドカップの影響もありサッカーをして遊ぶ子の姿が普段よりも多く見られた。他にも、道具を使って遊んだり、鬼ごっこをして遊ぶこともあった。また、校庭の真ん中にある小学校の授業で使用していた白線を活用してドッジボールを連日のように展開した。ドッジボールでは、10~14名の子が参加している。校庭が使えない時に一度、第一公園に行って遊んだが、久しぶりという点に加えて、落ち葉がたくさん積もっていた事と薄暗くなる事が早いということもあり、つまずいたりするなど怪我をする子が複数いた。そのため、公園を使って遊ぶタイミングを考える必要がある。</p>	<p>12日：避難訓練 23日：昼食会+映画会 26日：大掃除</p>	
1月	<p>勝ち負けのあるサッカーやドッジボールをしている時に負けたり、同じチームの子がミスをした時に相手に対して強い口調で自分の気持ちをぶつけたり、暴言をはいたりする様子が見られた。その際には職員が間に入って子どもたちの気持ちを聞き、その場にあった声掛けを提案した。また遊びが始まる前にも事前にルールの確認を行い、スムーズに遊びが展開されていくようにしました。</p> <p>これまで職員がおやつ時はシールドを設置したり、配膳していたがコロナ感染も比較的落ち込いてきているため、子どもたち自身で係活動ができるよう一部のグループ内で当番を決めておやつ前後のシールドの準備・片付け、おやつの配膳、台拭きなどの役割を作って、子どもたちが自分たちのことを自分でできるようにした。子どもたちは比較的スムーズに楽しみながら係活動を行っていました。</p>	<p>10日：避難訓練 12日～：3年生お留守番のお守り作成開始 16日：お留守番教室（1年生）</p>	
2月	<p>3月28日(火)に行われる法人内対抗のドッジボール大会に向けて毎日のように校庭でドッジボールが盛んに行われていた。それに伴ってサッカーをしている子どもの人数が以前よりも少なくなった。また、室内ではおみせやさんに向けて準備をしたり、友だちと一緒にオリジナルの路線図を書いたり、ごっこ遊びやレゴ・LaQなどをして思い思いに遊んでいた。</p> <p>女子トイレの壁紙を小さく剥がし、動物のシルエットを作り、セロハンテープで貼るということがあった。目撃証言もなく、発見した時間帯が当日の夕延長の時間に職員が使用した時であり、1日の内で不特定多数の児童が利用していたことからどの児童が貼ったのかは分からなかった。このことを受けて各グループで話をしたり、トイレに掲示物を貼ったりした。その後再発はない。</p>	<p>1日：お留守番教室（2年生） 3日：節分 8日：おみせやさん 10日：避難訓練</p>	
3月	<p>外遊びでは月末に開催予定のドッチボール大会に向け、ボールを投げる練習をしたり、永山学童クラブの子どもたちと一緒にドッチボールをして遊んでいる子が多かった。</p> <p>友だち同士の関係では、特定の1年生女子のトラブルが毎日のように続き、1つのトラブルが解決する前に別のトラブルが発生していた。その為、家庭と学校と連携しながら話し合いを行つた。</p> <p>集団降所の際、青信号で大通りを渡る際に信号無視の車とのニアミスがあった。ギリギリのところで大事に至らなかつたが、保護者や学校とも通学路の確認や、他の降所路も含め、安全確認をした。また、各降所グループに分かれ、自分たちの降所ルートの危険箇所や、注意すべき場所を模造紙に書きだし、安全マップを作成した。</p> <p>長期休みが始まり、朝延長等、育成の流れを見直し、若干変更したが、子どもたちは大きな混乱もなく過ごすことができた。また、新年度に向か、ロッカーや玩具の整理を行い、新1年生の受け入れ準備を進めて過ごした。</p>	<p>15日：進級お祝い会 24日：父母会共催昼食会（パッククッキング） 28日：法人内学童クラブドッジボール大会（たまふくカップ） 29日：永山・永山小学童クラブ合同避難訓練</p>	

2022年度 永山小学童クラブ 参加研修一覧

NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	オンライン アバランチ	自主研修対象
1	正職員	1年目研修	多摩福祉会	永山小学童クラブ (zoom)	7月14日		×	×
2	正職員	防火管理者講習	消防庁	立川防災センター	6月27日・28日	防火防災に関する法令、消防計画等について	×	×
3	正職員	島田療育センターティーチャートレーニング	島田療育センター	島田療育センター 厚生棟	7月25日・26日	発達障害の特性理解から行動分析やアセスメント、構造化などについて	×	○
4	正職員	救命救急講習	(児童青少年課) 消防署	愛宕児童館	9月6日	心肺蘇生、AEDの使用法	×	×
5	正職員	中堅層研修	多摩福祉会	zoom	10月15日 1月19日	中堅層の為の研修	×	×
6	正職員	ぜん息・食物アレルギー 緊急時対応研修	東京都保健福祉財団	日本教育会館 一橋ホール	11月4日	アナフィラキシーの基礎知識と 緊急時対応の実践	×	×
7	正職員	50周年記念事業 合同研修会	多摩福祉会	ハイアットリー ジェンシー 永山小学童クラブ	11月19日	法人の50周年の歩みの振り返り 保育、学童各拠点の実践の共有 と意見交換	×	×
8	正職員	学童クラブ担当者会議	多摩市児童青少年課	永山小学童クラブ (zoom)	12月9日	災害時対応	×	×
9	正職員	学童クラブ担当者会議	島田療育センター	永山小学童クラブ (zoom)	1月31日	作業療法の視点で子どもと関わる	×	×
10	正職員	学童クラブ担当者会議	多摩市児童青少年課	永山小学童クラブ (zoom)	2月3日	多摩市における児童家庭相談の現状	×	×
11	正職員	学童クラブ担当者会議	多摩市児童青少年課	永山小学童クラブ (zoom)	2月24日	救急処置について	×	×
12	正職員	たま研	たま研委員	各学童クラブ施設	7月5日・12月 13日・2月14日	施設見学を通して他施設を知り、自施設の育成に活かせるようになる。行事と育成の2つの	×	×
13	正職員	中級学担	多摩市児童青少年課	市内学童クラブ	10月～1月	全5回 配慮児について	×	×
14	正職員	日本学童保育学会 第12回研究大会	日本学童保育学会	中国学園大学 zoom	6月25日 26日	25日：学童保育と地域社会の関係を問う 26日：第3分科会3.1.2弁	×	○
15	正職員	安全衛生推進者	厚生労働省	FORECAST新宿 AVENUE	7月6日	衛生推進者に必要な知識を学ぶ	×	×
16	有期契約職員	放課後児童支援員認定研修	東京都	ルミエール府中	9月26日～9月29日	放課後支援員資格認定	/	×
17	有期契約職員	放課後児童支援員認定研修	東京都	大田区産業プラザPiO	6月20日・30日 7月1日	放課後支援員資格認定	/	×
18	全職員	法人合研	多摩福祉会	ハイアットリー ジェンシー ZOOM	11月19日	法人の50周年の歩みの振り返り 保育、学童各拠点の実践の共有 と意見交換	/	
19	全職員	島田巡回相談	多摩市・島田療育園	永山小学童クラブ	7月19日	相談した児童への支援の仕方や 環境面について話を聞き、今後の育成に活かす。	/	

貝取学童クラブ 2022 年度 事業報告

1. 定員 70 名

2. 育成年齢 6 歳～10 歳（小学 1 年生～4 年生）

8 月一時入所は 6 年生まで

特別支援学校、特別支援学級に通う 5, 6 年生は申請可

3. 育成時間 学校下校時～19:00、学校休業日 8:00～19:00

4. 児童状況（4 月 1 日在籍数）

	計
1 年生	14 名
2 年生	22 名
3 年生	11 名
4 年生	6 名
計	53 名

・ 年度途中入所

0 名

・ 年度途中退所

5 月：2 名 7 月：1 名 8 月：2 名 9 月：2 名 10 月 2 名

12 月：1 名 1 月：1 名

・ 8 月一時入所：3 名

5. 職員体制

正職員 4 名 うち 1 名 12 月末に退職

有期契約職員 8 名

〈おやつ担当〉 4.5 時間×週 4 日：1 名

〈要配慮児対応〉 4.5 時間×週 4 日：1 名 4.5 時間×週 3 日：1 名

4.5 時間×週 2 日：2 名 4 時間×週 2 日：1 名（7 月末退職）

4 時間 × 週 4 日：1 名

7 月途中より学生 2 名を土曜、長期休暇要因として採用

〈事務員〉 6 時間 × 週 3 日：1 名

6. 2022 年度取り組んだこと

（1）育成全体の中で

異動により職員体制が変わり、一つのグループは特に担当の常勤職員が変わっ

た事で、困惑する子もいたが、学童クラブでの経験豊富な職員だったため、子どもたちとの関係はすぐにできていった。遊びも昔ながらの遊びも取り入れつつ子どもたちの興味や関心もみながら、それぞれ意見を出し合いながら育成を行った1年だった。また新型コロナウイルスから3年目の年となり、在籍のほとんどの児童がコロナ禍での生活に慣れている状況で、施設での発生状況での変更点にすぐに子どもが慣れていく順応性にそれが考えさせられた1年だった。

地域の公園に子どもたちを連れていった時には、普段見られない遊具を使ってのそれぞれの遊び方や身体の使い方の不得意を見ることができた。子ども達からも「こここの公園来た事なかった」や「また来たいな」という声を聞くこともできた。

工作は子どもたちも様々な作品を作っていたが、片付けや管理についても課題が見えてきた。

(2) 行事について

前年度に続き、コロナ禍で何ができるか、どのようにできるかが課題となった。特に大きな行事の父母会との共催で行っている夏の親子交流会では、星空映画会を親子で参加できるようにと準備してきたが、当日は天候に恵まれず、室内で児童のみの観賞となってしまった。一方で子ども・保護者以上に職員が「今年こそ親子での参加ができると思ったのに」と悔しい思いをしたので、次年度に向けては夕食も縁日みたいにできないか、お店屋さんと一緒にできないかとそれぞれがやりたい事の意見を出し合う機会ともなった。

秋の親子交流会は昨年度中止したが、今年度はお店屋さんを父母会と共に催行った。例年、お店屋さんは児童のみで、育成時間で行っていたが、職員から「子どもたちの活動をみてもらいたい」「親子で縁日を楽しんでもらいたい」との意見があり、初の試みとして親子での開催を行った。準備こそ職員も子どもも大変だったが、当日は予定より20名以上多くの家族での参加があり、大盛況だった。会が終了後もそれぞれ家庭にアンケートをとり、「子どもたちの活動が見られてよかったです」「来年も同じように企画してほしい」といった意見を得られた。

親子交流会からの経験を通し、職員の行事への力の入れ方にも拍車がかかり、法人内学童クラブ4施設対抗のドッジボール大会を開催したり、貝取大運動会も前年度に続き2回目の開催を行うことにしたりした。また、どの行事も子どもたちそれぞれが活躍する事ができ、またスポーツマンシップについても学ぶ機会となつた。

(3) グループ担当制について

3つのグループがあり、それぞれ有期契約職員と正職員でグループ内の打ち合わせを行っている事が多く、グループへの意識が子どもも職員も高まっているのは積み重ねの成果だと思われる。しかし、グループ意識が高いことで、子どもが他の

グループの職員の話をきかない様子や、担当職員とそうでない職員との間で子どもへの指示等に関する情報共有や確認が互いにうまくいかなくなってしまう事があった点が課題となった。

また課題としては 1 つのグループが異動してきた職員が担当していたが、その職員が都合により年度途中で退職をしたため、途中からは施設長が担当していた。

(4) 保護者との関係

面談を通して、子どもの状況の共有を行うだけでなく、お迎え時や電話で時に共有を行うように職員それぞれが心がけていた。

また父母会での打ち合わせなど、父母の集まりの際にも施設で行えるように調整を行い、父母会総会も例年通り保護者会後に行えるように調整をした。

怪我やトラブルも職員間で共有し、保護者に丁寧に伝えていけるようにしていた。

(5) 環境整備について

事務室は不定期にきれいに片付けるようにしていた。特に行事等の前後は散らかったままになってしまないので、職員それぞれの整理については意識をしていくのが、今後も課題である。

また、育成室の遊具の紛失から、おもちゃ棚の整理を行い、きれいに片付けられるようにした。その結果子どもも大人も見やすい形となり、片付けもできるようになった。

(6) 関係機関との連携について

学校とは日々怪我やトラブルの事で連絡を取り情報共有をしてきた。またこれまで学校からの行事や学校公開もコロナ禍で参加が難しかったが、学校公開は見に行くことができた。

家庭の事情で子ども家庭支援センターと学校と密に連絡を取り合う事があり、夏休みにも毎日学校との電話でのやりとりが必要なケースがあった。

(7) 職場として

職員の異動でメンバーが変わったので、情報共有を特に大切にしつつ、異動してきた職員には他施設での経験を活かせるように職員集団づくりを行ってきた。また日々の育成や行事などでは職員それぞれが力を発揮しながら取り組んできた 1 年間だった。しかし施設長としてはそれぞれの考え方や捉え方をうまくまとめてこられなかったところに課題があった。職員面談を受けて、統括施設長や理事に相談し、職員面談をしてもらい、対応をしてもらう事もあった。

(8) 災害対応について

異動してきた職員が東日本大震災の経験から、施設の防災について見直しをし、非常時に必要な物の購入や対応について、検討をする機会となった。

(9) 職員研修について

今年度は外部への研修参加は、行事やコロナの感染などで参加ができてこられなかつた事が多かつた。しかし法人内で行つてゐる研修にはそれぞれが参加し、法人内の学童クラブ間での職員が自主的に学ぶ機会を作り、積極的に施設見学や意見交換を行つてゐた。

また法人 50 年誌をそれぞれ読み込んだり、レセプションに参加したり、法人に関わる研修や学習が特に多い 1 年だつた。

7. 新型コロナウイルス感染症の感染状況について

罹患状況としては職員が 3 名、児童が 32 名の感染が判明した。状況に伴い、育成のあり方の見直しをし、児童のコップ使用を水筒に変更を行うなどの対策を行つた。

管理職の感染に伴い、他施設とも連携をとり、統括施設長に対応依頼をして、夏の体制変更に苦慮した。

	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
4月	<p>4月1日より新1年生が14名新2年生が2名入所。在籍児たちが新入所の子たちに学童クラブでの生活について教えている場面や、一緒に遊びに入るよう声をかけている姿が見られた。春休み中は天候が落ち着いている日は外で桜を見ながらお昼ご飯や、おやつを食べ、子どもたちは「今日も外で食べられるかな」と楽しそうにしていた。学校が始まり、新生活が始まつたが新入生、在籍児ともに大きな戸惑いはなく落ち着いて過ごしている。</p> <p>新型コロナウイルスの感染者も落ち着いていたように感じていたが、保護者兄弟関係での発症が相次いたため、子どもたちは、今の状況を踏まえた上で自分や相手の身を守るために対策を取るよう話をし、おやつの黙食や手洗いうがいの徹底を促した。</p>	<p>4月13日(水)新入生歓迎会 自己紹介をし、庭でグループ対抗で王様ドッヂボールを行った。チーム内で作戦を立て、王様や偽の王様を立てた。話し合いの中でグループの仲間意識が高まった。</p> <p>4月15日(金)第1回保護者会 対面で保護者会を行った。保護者会の後に父母会の総会があつた為48名と大人数の参加となつた。</p> <p>4月27日(水)誕生会 4月の誕生会を行つた。おやつにチョコバナナサンドを提供したところとても好評だった。</p>	
5月	<p>連休あけの週は「お家の人と○○に行ってきました」と嬉しいように話す子が多かったが、疲れ気味の子も少ないので、その子のペースを大事に過ごした。またコロナ感染症に本人や家族がかかり、お休みする子が複数名いたが、集団全体には影響なくおさまつた。</p> <p>先月学校から学童クラブへ登所する途中で寄り道をする子や、転ぶ子がいたので、職員がハートホールに行つた。5月9日には「○○ちゃんが転んで泣いていた。」という報告を受けて職員が見に行ってみると、大きなたんこぶができる児童がいた。学童クラブでしばらく冷やして様子を見ていたが、夕方になって嘔吐したので、救急車で病院へ連れていくことがあつた。幸い大事には至らなかつたが、下校中の怪我でもあり、その過程ではこまめに保護者や小学校にも連絡をとりあうようにした。</p> <p>室内遊びでは大きなトラブルはなく、自分たちで遊びを見つけるながら、困ったときにはそばの大人に聞いてくる、という場面が見られた。</p> <p>戸外では、1・2年生だけドッジボールをやっている時はほんわかしているが、3・4年生が入ってくると急に空気感がビリッと変わるものを見られた。1年生などドッジボールのルールがよくわかつっていない子への確認や、上級生とも今後楽しくやるにはどうしたら良いかを、職員も交えて話した。</p>	<p>11日(水) 引き渡し訓練 当日は地震発生後に火災が起る想定で、多摩市一斉の引き渡し訓練を行つた。参加したのは44人。室内にいた子は「地震で建物が大きく揺れています、ダンゴムシのポーズだよ。」と声を掛けると、先月練習したポーズを速やかにとつたり、テープの下に潜ったりしていた。外に避難するときも騒いだりせず、大人の話を聞いて指示にしたがつて行動することができた。</p> <p>18日(水) 誕生会 5月生まれの誕生会を行つた。今回のメニューはパフェで好評だった。</p>	5月末退所2名
6月	<p>雨や猛暑日と外で遊べない日が続き、子どもたちは手持無沙汰になっている様子が多く見られた。室内で体を十分に動かすことが出来ない奇跡からか、子どもたち同士のトラブルが多く発生した。そのため職員間で話し合いを行い、室内でも楽しく過ごせるよう新しく漫画用の用紙を提供した。その結果多くの子どもたちが絵を描くことで夢中になり、室内の時間を有意義に使うことが出来ていた。今後も外遊びが出来ない日が続くと思われるため、室内の遊びの充実を図りたい。</p> <p>学童クラブのおもちゃが無くなることが起きた。特定の子どもが持つて帰っている可能性があるため、子どもたち全體に周知し、職員間でもおもちゃの管理を徹底することとした。</p> <p>学校帰りのトラブルや怪我が多く、毎日のように職員がハートホールにて対応した。学校とも連携を図つたが、距離が離れているからどうしても時間差が生まれてしまい、なかなか迅速に解決することが難しかつた。</p>	<p>1日(金)～梅雨工作 今年はプラバンアクセサリー作りを行つた。キーホルダー、パッジ、イヤリング、ピン留め、マグネットの中から好きなもの選び、子どもたちは各自好きな絵を描いた。焼き上がり形となって出来上がるとき、それがとても嬉しかつたようで、友だち同士見せ合つて喜んでいた。</p> <p>6日(月)～21日(火)1・4年生面談 23日(水) 誕生会</p>	
7月	<p>不安定な天候が続き、外で遊べない日が多くあつた。子どもたちも思うように遊べず、手持無沙汰になり室内を走り回る子が多いいたが、注意する機会が頻繁にあつた。今後の猛暑に向けて室内遊びの充実を図り、漫画を描く道具やミサンガ作り、エクササイズDVD、ごろごろ等の長く集中して遊べるものを使つて用意し提供した。結果、以前よりも走り回る子は減り、子どもたちも落ちついて過ごしている姿が見られた。</p> <p>児童・家庭内の体調不良者による欠席の連絡が7月半ばから増え、感染症に罹つたという連絡も先月に比べ急増しており、職員も4名感染した。また検査を受けると陰性であったが、高熱や体調不良が数日続いている児童も複数いた。熱中症の危険からマスクを外す場面が増えたが、今一度、手洗いや消毒、検温など基本の感染症対策を行つていいよう話をした。また、新たに感染症対策として、今まで行つてお弁当の残飯処理をやめ、子どもたちもマイコップの使用から、水筒持参へと変更を行つた。</p>	<p>7月15日 星空映画会 1日中雨だった為、当日は室内で行った。在籍児のみの参加と大きな変更があつたが、児童・保護者と大きな戸惑いはなく、トラブルもなく開催することができた。夕飯に父母会から唐揚げハンバーグ弁当の提供があり、みんな美味しいに食べていていた。</p> <p>7月20日 昼食会 牛丼の提供を行つた。とても好評で、おかわりをする子が多くいた。</p> <p>7月27日 誕生会 7月生まれの子の誕生会を行つたが夏休みで休みの子が多く、対象者が1名のみの参加だったため、いつもとは違い全体会を行つた。</p>	7月末退所1名
8月	<p>・7月下旬からコロナ感染症がにわかに流行り始め、8月中旬まで、罹患した子や濃厚接触者でお休みをする子どもが多かつた。また職員も數名感染したため、毎日の健康管理や手指の消毒など徹底した。さらに個人コップの使用を控え、各自水筒を持参するよう家庭に協力のお願いをした。</p> <p>・今年も猛暑が続き、室内遊びの日が多かつた。たまに虫捕りやホッピング、バスケットボールなどを楽しんだが、ほとんどは室内で過ごした。そのため子どもたちに人気のプラバン作りやミサンガ編みなど、室内で自分のペースでじっくりできるものを準備し、工作と併行して各々取り組んでいた。</p> <p>・昼食後は、横になって壁に映したDVDをみられるよう、テーブルやロッカーを動かした。準備が整い室内を暗くして、毎日替わりで映画を鑑賞しながら食休みをした。東寺方児童館でたくさんDVDを借りてきたので、子どもたちも見たことのない映画がたくさんあり、静かに鑑賞できた。</p>	<p>・夏の工作「動くうちわ作り」 猛暑で外遊びができない季節のため室内でできる取り組みをへといふことで、動くうちわ作りを行つた。画用紙に自分で好きな絵を数枚描き、切り込みを入れたうちわに数箇所に貼つていくもの。(あおぐと描いた絵が動き楽しい)どの子も2日間から数日かけて完成させた。絵もその子なりの個性が出て、ユニークなものが出来た。この工作は上旬に感染症でお休みする子や職員もいたため、中旬頃より取り組み始めた。完成した物を廊下に貼りだすと、「はじめは『面倒くさい』と言っていた子も刺激をうけて作りだすきっかけとなつた。</p> <p>・交通安全教室 8月18日(木) 道路交通課の方に来てもらい、自転車の安全な乗り方や正しい法規などの話を聞いた。ヘルメット着用のことやブレーキの安全なかけ方、標識の見方、歩行者と接触事故を起こしてしまつた後の損害賠償のことなど、普段は意識せずに乗りがちな自転車について学ぶことができた。</p> <p>・誕生会 8月24日(水) 7・8月生まれの子のお祝いを各グループで行つた。</p> <p>・映画会 &お楽しみ会 8月26日(金) 夏休み最後の日に、3・4年生で決めた「バケモノの子」の映画を見た。上映後は、あらかじめ役割を決めていた担当の3・4年生を中心に、クイズ・じゃんけん勝ち抜き大会・くじ引きなどを楽しんだ。おやつはくじ引きで引いた番号の袋つめお菓子を食べた。</p>	8月一時入所3名 8月末退所2名

9月	<ul style="list-style-type: none"> ・9月前半は暑い日が続き、なかなか外で遊べない日が多くかった。後半に入ると暑さも和らいできたため、外遊びをする子が多くなった。大人数でドッジボールやドロケイを楽しむ姿がよく見られた。 ・新型コロナウイルスによる感染がだいぶ落ちていた。引き続き感染症対策としておもちゃの消毒、食事時のシールド設置、手洗いマスクの声掛けを行った。 ・10月に行うお店屋さんの準備を始めた。子どもたちは同じお店の子たちと話し合いを重ね、準備を進めていた。 	<p>9月5日(月)～9日(金) 実習生受け入れ 明星大学より、5日間実習生を受け入れた。</p> <p>9月28日(水) 避難訓練・誕生会 避難訓練と9月生まれの誕生会を同日に行った。</p>	9月末退所2名
10月	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いた気候になり、庭で遊ぶ子が増えた。10月15日に豊ヶ丘小学校で運動会があつたこともあり、ダンスの練習をする子や走る練習をする子等、運動会に向けて盛り上がっている様子が見られた。また月末のお店屋さんに向けて、2・3年生は準備に勤しんでいた。遊ぶ時間を惜しみ、ルール作りや装飾など、お客様に楽しんでもらえるよう一生懸命考えていた。 10月中旬より冬時間降所が始まった。帰り方が変更する子や、3・4年生は遊ぶ時間が短いことなど初めは戸惑う姿が見られたが、1週間もしないうちに子どもたちは新しいタイムスケジュールに慣れていた。 	<p>10月3日～21日 個人面談 2・3年生と希望者の個人面談を行った。今年度に入ってから学童クラブでの様子を伝え、家庭からは、学校での面談後の話等を詳しく聞くことが出来た。</p> <p>10月4日/5日 お留守番講座 各学年でお留守番講座を行った。1年生はお留守番ノートの使い方について、2年生はノートに書き込みをしながら、3年生は実際に4月からの生活を想像しながらと、それぞれに合わせて話をした。</p> <p>19日 10月誕生会</p> <p>25日 冬時間降所開始 すべてのグループが16:30で降所することになった</p> <p>29日 おみせやさん(父母会共催行事) 3年ぶりとなる父母会共催行事を行った。子どもたちだけでなく父母も楽しく過ごしており、138名参加の大規模な会となった。</p>	10月末退所2名
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・先月のお店屋さん以降、子どもたち同士の関わりが濃くなつて、大きなトラブルなく過ごした一ヶ月だった。季節も過ごしやすいため、毎日のように外遊びに出て、ドロケイやドッジボール、リレー競争など、チームを組んで全体で遊ぶ姿がみられた。また砂場を深く掘る遊びを毎日のように楽しみにやっていた。ただ掘り出した囲いの土から出た破片が、手を傷つけることがあつたため、穴を掘るのは大人が許可をした場所のみにした。 ・12月のお楽しみ会に向けた呼びかけとして、11月に入つて1～3年生に実行委員を募った。また昨年のダンスが好評だったので、動画を見せて「今年も一緒に踊りたい人は掲示板に書き込んでね。」と声をかけると、1～3年生の女子がたくさん参加表明をしていた。(練習は12月より始める予定) 	<ul style="list-style-type: none"> ・11日(金)避難訓練 地震を想定した避難訓練を行った。声掛けによりスムーズに避難することができた。 ・16日(水)誕生会 11月生まれのお誕生日のお祝いを、おやつの時間前に行った。 ・28日(月)3年生遠足 豊ヶ丘小学校の振替休業日で、朝8時から開所した。3年生は登所してからよみうりランドに向かい、ほぼ計画通りのスケジュールで、怪我することなく遊ぶことが出来た。当日までに約6回の打ち合わせを行つた。 	
12月	<p>お楽しみ会に向けて頑張る子どもたちの姿が目立つた。実行委員の子たちは、何をすれば楽しめるか、どんなものが食べたいのか等、みんなのことを考えながら頭を悩ませていた。ダンスを踊る子たちは、発表に向けて一致団結して毎日練習に取り組む姿が見られた。しかし、コロナウイルスへの感染が猛威を振るいお楽しみ会は延期となり、子どもたちはモチベーションを失い、気持ちが宙に浮いてしまつた。(お楽しみ会は1月へと延期となつた。)</p> <p>感染者が日に日に増え、2年生は学級閉鎖にもなつた。3年生も年末に向けて感染者が増える様子が見られた為、おやつや昼食は学年・クラス別にとるように対応した。その結果、夏のようになに学童クラブで感染が広がることはなかった。</p>	<p>14日(水)避難訓練 地震を想定した避難訓練を行つた。3年生がふざけて参加したため、避難訓練をする意味を今一度子どもたちと確認した。</p> <p>21日(水)誕生会 12月生まれの誕生会を行つた。フルーツサンドが好評だった。</p> <p>23日(金)映画会 お楽しみ会の代替行事として、クリスマス映画会を行つた。</p> <p>26日(月)大掃除 グループごとにエリアに分かれ、大掃除を行つた。子どもたちは手慣れた様子で、迅速に大掃除を行つてた。</p>	12月末退所1名
1月	<p>新年の目標を絵馬に書き、玄関に掲示した。みんな思い思い装飾し、楽しそうに書いていた。</p> <p>冬休み開始前に多く見られた感染症は落ち着き、延期していつたお楽しみ会を行うことが出来た。子どもたちで企画したグループ対抗のドッジボールとリレーを行つた。欠席者の都合で前日にリレーの順番が変わること、小さなトラブルは相次いたが、無事にけが人などは出ることなく会を執り行つた。会の中で、今まで負けてばかりだったチームが全勝し喜ぶ姿や、負けたグループの子が悔し泣きする等、みんな本氣で勝負に挑んでいる様子が見られた。会終了後から、ドッジボールやリレーが流行り、みんな「次のお楽しみ会では、自分のグループが勝つんだ！」と一生懸命練習している。</p>	<p>1月18日 お楽しみ会 延期していたお楽しみ会を行つた。子どもたちが企画したグループ対抗のドッジボールとリレーを行つた。</p> <p>25日 誕生会 昨日の誕生会で好評だったチョコバナナサンドをおやつで提供した。みんな美味しそうに食べていた。</p>	1月末退所 1名

2月	<ul style="list-style-type: none"> ・先月に引き続き外遊びを楽しむ子が多くいた。特に来月行われるドッジボール大会に向けて、今までドッジボールに取り組んでいなかった子も周囲に触発され、練習に励む様子が見られた。 ・感染症の影響で延期していたダンスの発表を行った。2ヶ月半ほど練習を重ねた子どもたちは、緊張した面持ちではあったが自信をもってお客様の前で発表することが出来た。 ・新型コロナウイルスの流行は収まったが、インフルエンザによる休みは何件かあった。また、月の後半からは気温の変化が大きく、体調を崩す子が多くいた。 	<p>8日(水)お留守番教室 全学年を対象にお留守番教室を行った。いかのおすしについて漫画を用いながら学んだ。</p> <p>15日(水)誕生会、ダンス発表会 1月生まれの誕生会を行った。 先月行なったダンスの発表会を行った。子どもたちは練習の成果を見せることができ、達成感に満ちた表情を浮かべていた。</p>	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・今月も外で遊ぶ子が多く、3月28日(火)に法人4施設で行うドッヂボール大会に向けて練習に熱を上げている子や、進級お祝い会(運動会)に向けてリレーの練習をする子など、部活ながらの真剣さでこどもたちは外遊びに励んでいた。また、大会後は優勝したこともあり、今までドッヂボールに参加していないかった子も「来年は出れるようになりたいなあ」と学年性別関係なくみんなでドッヂボールを行うようになった。 ・職員の異動の発表があり、涙を流す子が多くいた。また、その後職員に内緒でお別れ会をしようと計画し、メッセージの準備をしていた。 	<p>・3月4日(土)卒クラブ式 天気に恵まれ、無事式を執り行なうことが出来た</p> <p>・3月10日(金)避難訓練 地震を想定し訓練を行った。年度の最後ということもありみんなしっかりと訓練に参加できていた。</p> <p>・3月15日(水) 誕生会</p> <p>・3月23日(木)進級お祝い会 雨天のため、3月31日に延期した</p> <p>・3月28日 4施設対抗ドッヂボール大会 貝取学童クラブ、貝取小学童クラブ、永山学童クラブ、永山小学童クラブの4施設対抗でドッヂボール大会を行った。各施設この試合に向け練習を繰り返したため白熱した試合となり、横断幕を準備する等応援にも熱が入っていた。結果は貝取学童クラブの優勝となった。</p> <p>・3月31日(金)進級お祝い会 雨で延期していた進級お祝い会を行った。競技は綱引き、玉入れ、借り物競争、リレーを行った。みんな真剣に勝負しており、負けた組の子は涙を流す場面があった。また、進級お祝い会後には異動職員のお別れ会として、職員対子どものドッヂボールを行った。欠席児童も1名のみで年度の最後にみんなで楽しい時間を過ごすことが出来た。</p>	

2022年度 貝取学童クラブ 参加研修一覧

正職員										
NO.	役職・クラス	参加人数	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリア パス 該当	自主研修 対象	備考
1		2名	中堅層研修 第1回	法人研修委員会 中堅層部会	ZOOM	7月2日(土) 9:00~12:00	施設紹介 職員集団づくりについて	×	×	
2		2名	中堅層研修 第2回	法人研修委員会 中堅層部会	ZOOM	10月15日(土) 9:00~12:00	職員集団づくりと中堅職員の 役割	×	×	
3		2名	法人合研 50周年記念セレブレーション	多摩福祉会	ハイアットリー ジエンシー東京	11月19日(土) 9:00~15:00	50周年記念セレブレーション 現地での参加、手伝い	×	×	
4		2名	法人合研 50周年記念セレブレーション	多摩福祉会	ZOOM	11月19日(土) 11:30~14:15	50周年記念セレブレーション	×	×	
5		4名	合研学童クラブ分科会	法人研修委員会 合研部会	ZOOM	12月6日(火) 10:00~12:00	法人の歴史を振り返り、これからの保 育・育成を考えよう	×	×	
6		1名	学童クラブ担当者会議	多摩市児童青少年課	ZOOM	12月9日(火) 10:30~12:00	地震・風水害への対応	×	×	
7		1名	中堅層研修 第3回	法人研修委員会 中堅層部会	ZOOM	1月19日(木) 13:00~15:00	職員集団づくりと中堅職員の役割 次年度の中堅層研修について	×	×	
8		3名	学童クラブ担当者会議	多摩市児童青少年課	ZOOM	1月31日(火) 10:00~12:00	島田療育センター OTについて	×	×	
9		3名	学童クラブ担当者会議	多摩市児童青少年課	ZOOM	2月3日(金) 10:30~12:00	子ども家庭支援センター 多摩市における児童家庭相談の現状	×	×	
10		1名	学童クラブ担当者会議	多摩市児童青少年課	ZOOM	2月24日(金) 10:00~12:00	ケガ対応について	×	×	
11		3名	たま研	法人家童クラブ職員	ZOOMまたは 対面	2月14日(火) 10:00~12:00	職員総括報告会	×	×	
12										
13										
14										
15										
16										
17										
18										
19										
20										
21										
22										
23										
24										
25										
26										
27										
集計		延べ人数 24名	11件							

2022 年度 永山学童クラブ 事業報告

1. 児童状況

(1) 定員：70 名

(2) 育成年齢：6 歳～11 歳（小学 1 年生～4 年生）

および、特別支援学級、特別支援学校に通う児童は 5、6 年生まで対象

(3) 育成時間：学校下校時～19:00、学校休業時 8:00～19:00

(4) 学年別状況：(2023 年 3 月 31 日現在) 在籍数 47 名

※年度当初は 48 名在籍していた。年度途中の入所が 1 年生から 4 年生合計 7 名、退所が 1 年生から 4 年生合計 8 名いた。

1 年生：17 名 2 年生：14 名 3 年生：8 名 4 年生：6 名 6 年生：2 名

(5) 在籍児状況(2023 年 3 月 31 日現在)

*要配慮児：6 名

*モア利用者：月利用申請者 8 名（うち要配慮児 1 名）

一時利用 月平均 1 名利用

*夏一時利用：10 名（うち要配慮児 1 名）

内訳 1 年生：1 名 2 年生：1 名 3 年生：1 名 4 年生：1 名 5 年生：5 名

6 年生：1 名

利用の理由としては、他施設の待機児童をはじめ夏休み 1 日を子どもがひとりで過ごすことへの保護者の不安やコロナ禍で子どもが児童館や家庭で友だちと一日過ごすことが出来ない様子があった。

2. 職員状況

(1) 正職員(2022 年 4 月当初より 3 名)

職種	施設長	正職員
人数	1 名	2 名

※新規採用、途中入退職者なし

(2) ①有期契約職員(2022 年 4 月当初 6 名)

勤務時間	6 時間×週 5 日	4 時間×週 5 日	4 時間×週 3 日	4 時間×週 1～2 日及び土曜日	4 時間×不定期
人数	1 名	1 名	2 名	2 名	1 名

②有期契約職員状況

※中途採用者 2022年5月より5.5時間×週5日：1名 7月より4時間×週3日
1名

※退職者 2023年1月2名 2月1名 いずれも学生で就職等に伴い退職

※その他 コロナウイルスの感染状況により4時間×週3日勤務の職員1名が
本業が忙しくなり勤務日が不定期となった

(3) 職員研修・資格取得について（別紙参加研修一覧 参照）

- ・ 今年度もコロナ禍でリモートによる研修が多くあった。その中で職員体制や行事や会議の予定を考えながら各自出来るだけ参加するように努めた。
- ・ 在籍数が年度当初に予定より増え放課後児童支援員の資格を持つ職員を増員する必要があったため、受講資格のある有期契約職員3名に資格取得研修を受講し取得してもらった。
- ・ 正職員1名が保育士試験に合格、もう1名が実習と試験を経て社会福祉士の資格をそれぞれ取得した。

3. 新型コロナウイルス感染症対策及び感染状況

- ・ 前年度から、引き続き入室時の手洗い、手指消毒、検温、施設内やおもちゃなどの消毒、また、食事をする場面でのシールドを挟んで席に座り黙食などの感染予防対策は継続してきた。
- ・ 夏の一時入所者が多く、他の児童館から長机を借りて普段使用しないテラス前のスペースに置いて勉強をしたり昼食、おやつを食べたりするようにした。また、シールドが不足分だったのでプラスチック段ボールを追加発注して作成した。
- ・ 夏休み後半あたりから正職員と有期契約職員数名が感染経路不明の状況でほぼ同時期に感染した。そのため予定していた行事について内容や日程を変更した。その後も国内の感染者数増加に伴い、児童やその家族の感染や職員が家族の感染により濃厚接触者となるケースが散発した。いずれも施設内で感染が拡大することはなかったが常にそのリスクに緊張感をもって過ごしていた。一方で感染予防の対策をしながら出来ることを模索しながら行事などを実施していた。
- ・ 東京都の抗原検査キットによる集中検査を申し込み、週1から2回、全職員検査をおこなった。

4. 2022年度の課題についての取り組み

① グループ制における育成について

- ・ 正職員が2つのグループのそれぞれ担当となり、各グループ内で子どもの座席や帰りの会などの進行係について決めていたが、施設の在籍人数が少ないとためにど

ちらかの担当職員が不在の時は一人の職員がグループに関係なく全体に子どもたちと話をしたり意見を聞いたりすることは続いていた。また、有期契約職員も配慮児の状況により常にどちらかのグループを担当するわけではなく、子どもたち全体を全職員できめ細やかに見守るという形の育成が定着していた。さらに子どもたちの入退所が毎月のようにあり、また、学校生活から続くいじめの問題や配慮児童と他児との関りの問題などを解決する観点からグループのメンバーを変えることがしばしばあった。

- ・ 子どもたちの様子からは、グループに関係なく全体に話をする場合にグループの間に仕切りがあることで集中して聞ける環境のようだった。また、全職員が子どもひとり一人を細やかに見られることから子どもからの発言もしやすかったり安心して過ごせたりしていた。しかし、グループのメンバーがよく変わることやおやつの準備などがコロナの感染予防対策のために大人主導になりがちであったことなどで子どもたちが自分のグループを意識した活動をする機会は依然としてあまりなかった。
- ・ 以上の課題について、グループ制での活動をしてきた永山小学童クラブから今年度永山学童クラブに入所することになった4年生を中心に子どもたちで進行係の調整する場面があったり、正職員が研修の一環として他施設の見学・交流をした際に自施設のグループ活動をあらためて見直してコロナの感染状況が収まってきた機会に各グループ内で班を中心におやつの準備や片づけを子どもたち自身ですることから始めたり、少しずつグループ内の活動に取り組むようになってきた。

② 子ども達の主体的な活動について

- ・ コロナの感染状況をみて、あるいは、保健所に感染予防を相談しながら行事や日常の活動を職員で検討し、子どもたちのやりたいことをどう実現するか工夫した。
- ・ 日常の遊びでは、工作や編み物を出来る限り自由に出来るようにした。
その中で学年男女関係なくお化け屋敷を廊下で楽しんだり、ミッションをクリアしたら編んだマフラーを貰える「マフラー屋さん」を考えたり子どもたち自分で遊びや友だちの輪を広げていく活動につながった。
- ・ 行事においても子どもたちの発想を大切にしていった。
「おみせやさん」ではさまざまな店を子どもが考えて準備や当日の係を頑張り楽しんでいた。特に「ラーメン屋」では3年生を中心に話し合い、二つの味を提供する準備をすすめ、当日は欠席した子どもの分を他の子どもがカバーしたり、日頃上手に他児と協調することが苦手な子どもが頑張って店を切り盛りしたり、「おみせやさん」の終わった後の表情にはやり切った充実感に溢れていた。
- ・ 一方で職員側には限られた人数の中での担当の配置、細かい感染対策などに反省点が挙げられ、子どもたちの希望を叶えることと行事の企画運営をどう考えてい

くかさらに検討する必要があった。

③ 「食」に関する活動やお留守番講座など卒クラブ後の生活にむけての活動について

- ・ 「食」に関わる行事として例年続いているテラスのプランターでの野菜作りや「焼き芋パーティー」を 2022 年度もおこなった。

野菜作りでは、育ててみたい野菜を子どもたちから聞き、2022 年度は子どもたちに栽培の係を任せた。残念ながら、猛暑で小玉スイカやキュウリが育たなかつたり鳥や動物に収穫間近のトウモロコシを食べられてしまつたりしたが、唯一採れたトマトやキュウリを少しずつ分け合っておやつなどで食べることができた。

- ・ その他「お楽しみ会」で 4 年生中心に感染予防対策をしてケーキのデコレーションを考えてしてもらうなどコロナウィルスの流行前の活動に出来る限り戻しながら自分たちで作って食べる喜びや楽しさを知ってもらう機会を設けた。
- ・ おやつを初めて食べるものだったり気分で食べたくないと食べずに無駄にしてしまったりすることが多くあったので、「お試し制度」と「代替えおやつに月 3 回まで変えられる制度」を採り入れてなるべく色々なものを食べて食べられるものを増やすことや食べ物を無駄にしないようにした。
- ・ 2022 年度も「お留守番講座」を 1, 2 年生と 3 年生以上に内容を分けておこなつた。

卒クラブをした子どもが鍵の管理が出来なかつたり友だち同士の遊びの中でお金のトラブルが起きてしまつたりで放課後の過ごし方がうまく出来ずに 3, 4 年生になつて学童クラブに再び入所するケースがあった。これらの点からも今後も「お留守番講座」でしっかりと放課後の過ごし方を保護者も交えて子ども達に考えてもらうことの大切さと卒クラブまでに少しずつ練習の機会を設けていくことが大切であると考えた。

- ・ また、夏の一時入所の子どもたちのうち要配慮児童や他施設の待機児童を除いても 4 年生～6 年生までの利用者が多くいた。一人で一日を家で過ごす不安もあるだろうがコロナ禍で子どもたちが安心して一日を過ごすことのできる場所がなかつたことが原因の一つとも考えられる。今後もこのようない場合に定員の余裕という条件はあるが子どもの居場所として学童クラブの役割があると思われる。

④ 適切なコミュニケーションが取れるように考えることについて

- ・ 2022 年度も永山学童クラブの定番行事として、「気持ちの伝え方講座」をおこなつた。1 回目はいつも通り「スティグマ（誰かに悪いレッテルを貼り差別すること）について」の講座を、2 回目は子どもたちの中でトラブルになっているおもちゃのやり取りや遊ぶ約束をめぐる揉め事を取り上げて職員が演じた映像を見せて子ども達に客観的にどうすればよいかを考えさせた。また、適切な方法の一例を 4 年生

に考えてもらった映像も最後に流した。

- 外部の団体による CAP (Child Assault Prevention: 子どもの権利を基盤にした暴力防止プログラム) の講座を 3 年ぶりに保護者と子どもに分けて実施した。子どもたちは学年を分けてどの人にも安心・自信・自由の権利というものがあることを知り、その上で自分に対するあらゆる暴力（いじめや不審者、性的な暴力）から身を守る方法を学んだ。保護者は子どもたちの話の聴き方についてなどの講座を受けた。

保護者の参加者が少なく、内容も保護者のニーズにあっているものかと疑問があり、次年度からは CAP 講座に代わるもの永山小学童クラブと共に開催できるか検討していく。子どもたちには引き続き講座を受けなくても日常においてお互いに持っている権利や自分を守ることについては伝えていく。

- 学校でひとりの子どもに対して決まったメンバーの子どもが暴言や暴力、いじわるをすることが学童クラブでも続いた。副校長や担任の先生と保護者と情報を共有し、関係する子どもたちには何度も相手の気持ちを考えることや気になることがあるときに適切に気持ちを伝える方法を話したりした。また、関係する子どもとその保護者に顔を合わせてお互いの親と子の気持ちを伝え合う場を設けた。その際も互いを非難するのではなく、やられる方もやる方も親は悲しい気持ちでいることを話してもらい、上手にやりとりが出来るように話し合った。

また、この事例とは別に女子の中で 3 人以上になると上手に約束したり遊んだり出来ない事例も起きていた。ひとりの友だちを巡って二人の友だちがどちらと遊ぶかを揉めるといったことだったが、これも気持ちの伝え方講座で取り上げて相手の気持ちを考えることやきちんととした約束をすることを繰り返し伝え一緒に考えた。

これらはすぐには解決が難しく、今後も必要な時は大人が間に入りながら子どもたちがコミュニケーションをうまく図れるように見守っていく必要がある。

⑤ 全職員が共通認識をもって育成にあたることについて

- 異動してきた職員や新規に採用された有期契約職員の間でも職員専用の引継ぎノートやホワイトボードで情報や仕事内容を共有することが定着した。また、異動してきた職員の提案で有期契約職員が育成準備の方法の確認や日頃の育成における疑問などを記すノートも用意されて答えられる職員が返答を記したり直接伝えたりして職員間で気楽にコミュニケーションを図るツールとなった。
- 月の最終火曜日の全職員の会議日や日常の打合せの時間に職員間の意見交換が活発に行われるようになってきた。

そのため、育成準備や片づけなどの環境整備や子どもたちの育成支援が全職員の共通認識のもと行われるようになっていった。有期契約職員が正職員並みに子ど

もたちの降所方法などを理解しているということもあった。

- ・ ただ、課題として引き継ぎノートに書く時間が割かれることがあり書き方に工夫が必要な面もあった。

⑥ 職員の研修受講と資質向上について

(詳細は、別紙参加研修一覧を参照)

- ・ 研修計画を各自立てることは不十分であったが、それぞれ積極的に機会があれば研修に参加したり会議や研修で紹介された図書を購入して読んだりして学びを深めていた。

- ・ 新規採用の有期契約職員に対しては施設長から「基礎学担（学童担当者会議）」の内容のうち、守秘義務についてと育成の目標や育成において必要な「気づきの目」と職員の共通認識や余暇支援のポイントについて伝えた。

また、経営会議で施設長が学んだ内容を職員に伝えたり、回覧したりし共有したり意見交換をおこなった。

- ・ 「たま研」（法人家童クラブ常勤職員による研修）で各施設の見学と交流を行い互いに学んだことや指摘を受けたことを自施設に活かした。

- ・ 法人の 50 周年を迎えるこれまでの法人の歴史、法人の創設者である浦辺先生のおもいを学ぶ機会を得た。加えて、各学童クラブの受託からこれまでを振り返りこれからグループ制をはじめ学童クラブが取り組むことや地域に出来ることを考える機会をもった。

⑦ 保護者、学校、地域、専門機関と常に連携をはかり協力しながら子ども達を育ててくことについて

- ・ 課題がある子どもについて保護者の了解のもと島田療育センターの巡回相談を受けその内容を保護者や学校と共有し協力して子どもの育成を行うように努めた。

- ・ 学校とは夏休みの情報交換だけでなく、日常から副校長や担任と子どもや家庭の状況を共有する機会を持ち、問題を抱える保護者や子ども同士のいじめやトラブルの問題に協力して対応した。

- ・ 前年度に引き続き自立下校が困難と判断される要配慮児童の学校から学童クラブへの移動支援について 学校と連携して見守りをおこなった。

- ・ 子育てに悩んでいる保護者の気持ちに寄り添い出来るだけ時間を割いて気持ちを受け止めるように努め、常に保護者のサポーター、子育ての協力者であることを理解してもらうようにした。そして、必要に応じて子ども家庭センターや発達支援室に保護者を繋いで卒クラブ後も保護者が相談できるようにした。

- ・ 青少年問題協議会やエリア全大会、子育て拠点会議などに出来る限り出席し学童クラブでの子どもたちの様子や活動を伝え理解をしてもらうように努めるととも

に地域の情報を得て学童クラブとしての役割を考えるよう職員と共有した。

5. 子どもたちの様子

- ・ 新入所の一年生も多かったが 2 年生で保護者が仕事をはじめて入所してきた子どもも多かった。学童クラブで放課後を友だちと一緒に過ごせるということもあったようだ。
- ・ 永山小学童クラブでこれまで過ごしてきた 4 年生たちを中心に特別支援学級の 6 年生や 4 年生も下級生と一緒に遊んでくれたり、行事で活躍してみんなを引っ張ってくれていたりした。3 年生も後半になって学童クラブの行事に積極的に参加しリーダーとしての役割を徐々に果たすようになってきた。
- ・ 全体的に子どもたちはアイディアに満ちていて行事などの活動にそれぞれできることで参加する姿勢を見せていました。また、人前に出ることが恥ずかしく発言や発表が出来ないでいた子どもがピアノ演奏に挑戦したり、勇気をしぼってみんなの前に出て卒クラブの挨拶をしたりと昨年に比べて大きく成長した姿を見せていた。
- ・ 法人内 4 学童クラブ対抗のドッジボール大会では 3 年男子を中心によく練習をし、当日は全敗したがチーム内の声掛けなどのチームワークはとても素晴らしかった。試合会場に行けなかった子どもたちも応援グッズを作り声援をおくり帰ってきた仲間を労う言葉をかけている子どももいた。次は勝ちたいとすぐにまたみんなで練習を始める姿も見られ、この行事によってリーダーが生まれ、子どもたちがまとまり成長したようにみえた。
- ・ 2022 年度の課題と取り組みの項目にも記したが、子どもたちの間で適切な言葉によるコミュニケーションをとることが出来なかったり、自分の考えだけで相手の気持ちを考えず行動してしまったりすることが多く見られた。
これについては、「気持ちの伝え方講座」という行事で取り上げるだけでなく、日頃から職員が働きかけて適切な言葉や行動を示しながら子どもができるよう支援するようにしてきた。これは今後も課題となると思われる。
- ・ 学童クラブのおもちゃや本がなくなるということが続いた。子どもや保護者に呼びかけたところ、間違って持ち帰ったということも中にはあったが、意図的に欲しいで大量に家に持つて行った子どもがいた。保護者はこちらからの呼びかけがあるまで気づいておらず、日頃の持ち物の管理をお願いするとともにこの子どもがなぜそのようなことをしたかを見ていくように話をした。この先も何かあった場合は一緒に相談機関等に相談をしていく方向で見守っていく。
- ・ 外で走り回って怪我をするよりもただ歩いている時や室内で角に足をぶつけるなどして捻挫や骨折をする子どもが目立った。子どもたちの運動能力や骨にコロナ禍の生活で何らかの影響があるのか心配に思った。

6. 家庭との連絡について

- ・ 毎月のおたよりやホームページ内のアルバムの写真で普段の子ども達の様子を保護者に伝えたり、保護者会などでスライドを見せながら行事などの話をしたりして学童クラブの活動の理解をしてもらうようにした。
- ・ コロナ禍でも親子の交流が出来るようにと親子交流会を小学校の体育館で受付時間をずらしながら「ブース形式」でおこなった。例年、カレーを作っていたが飲食は無しにした。その代わりにスペースをとり少しでも保護者同士が交流を持てるようにした。子どもたちの様子も見ていただきながら保護者も知り合う機会となつた。
この行事の際に保護者の会の役員の方以外にボランティアを募ったところ多くの保護者や卒クラブした兄弟のみなさんに手伝っていただいた。役員の方々やボランティアの保護者の力によって久しぶりに親子みんなで楽しめた会となつた。
- ・ ご家庭には個人面談の折や日常は必要に応じて連絡帳、または、直接お迎え時や電話で子どもの様子を伝えたり家庭の状況を聞いたりしてきた。常に保護者と一緒に子育てをしていくという姿勢を示し信頼関係を築くことに努めている。

7. そのほかの関係機関、法人他施設との交流について

- ・ 青陵中学校や多摩永山中学校からの職場体験や学童クラブの仕事についての質問を受けたりした。
- ・ 研修のところにも記したが法人内学童クラブの研修の一環として各学童クラブの施設見学をおこなった。しかし、コロナの状況が落ち着かない為に2022年度も保育園とは職員も子どもも交流が出来ずに終わった。ただし、夏休みに夏の一時入所の子どもが多く入ってきたところでコロナの罹患等で職員の体制が悪く育成に困っていたところ、同じ法人内のこぐま保育園から学童クラブの経験がある職員が育成の応援に入ってくれたことは大変助かった。法人内の協力は心強かった。今後、互いに困ったことがあったときに出る範囲で協力できるように考えていきたい。
- ・ 年度末に行われた法人内4学童クラブによるドッジボール大会では一部の子どもたちだけだったが直接交流ができたのは子どもたちにはよい経験になった。

8. その他 環境整備について

- ・ 子ども達が金曜日に各自のロッカーを掃除したり年末の大掃除をしたり生活環境を自分たちでも整えるようにした。しかし、普段の遊びの中で片付けが出来ていない状況が特に1年生に見られたので早めに片付けの声掛けをしたりハサミなどのものの管理が出来るように使用の際にチェック表に記入するようにしたりした。

- ・ 外遊びでの怪我を防止するために、昨年に引き続き、隣接する永山第二公園では走り回る遊びはなしにして時間の余裕があるときには小学校の校庭や永山第五公園や永山南公園で思いっきり走って遊ぶようにした。
- ・ 施設内各所の必要なところは 2022 年度もトイレの換気扇の取り換えなど隨時多摩市に相談して修繕をしてもらった。2022 年度内では出来なかったが、次年度にはテラスの床に貼ってあるシートの取り換えと手すりの錆落とし及び塗り替えをしてもらうようにした。

	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
4月	<p>新入所児1年生15人を含む48人でスタートした。そのうち、永山小学童クラブに昨年度まで在籍していた子どもで永山学童クラブに入所することになった新4年生、新6年生がいたが待機児童はいなかった。</p> <p>新入所児や今年度から永山学童クラブに入所した子ども達は昨年度からいる子ども達に教えてもらいながら学童クラブの生活に慣れていった。また、学年隔てなく様々な遊びと一緒にしながら友だち関係を構築していく様子が見られた。</p> <p>遊びでは、昨年度から定番のサッカーや鬼ごっこ、野球、テニスなどの外遊びをしたり室内ではサッカー盤や野球盤、編み物、トランプ、塗り絵などを楽しんでいた。ルールの分からぬ子に知っている子が教えながら遊んでいた。</p>	<p>7日 避難訓練(地震) 新入所の子ども達が多くいるため講座形式で室内でスライドを見せながら地震発生時の身の守り方として「ダンゴムシのポーズ」を練習したり、5月の引き渡し訓練時には実際に避難と保護者への引き渡しをおこなうための前段階として子ども達に避難する場所などの確認などもおこなった。</p> <p>13日 新入生歓迎会 新入所児27名を歓迎しておこなった。新入所の子ども達の自己紹介後、昨年度から在籍児が折り紙でメッセージ入りのメダルを作ってプレゼントした。また、おやつのリクエストが出来るくじを探す「宝探しゲーム」を室内でおこなった。短い準備期間だったにもかかわらず当日は楽しい会となかった。</p> <p>22日 春の保護者会 zoomと対面両方を併用しておこなった。対面での参加2世帯2名を含む3世帯の参加があった。 年間の育成目標や入所のしおりをもとに学童クラブの生活についての説明や注意やお願いを伝えた。説明後は各降所班に分かれ交流をはかった。</p> <p>27日 誕生日会 4月生まれの子どもの誕生会をおこなった。今年度は、手形と友だちとの写真を貼ったカードを渡したい子どもからプレゼントしたり誕生会特別おやつを食べたりした。</p>	
5月	<p>連休が終わり学校や学童クラブでの生活に新入所児も慣れ、子ども達全体会の様子において、友だちや遊びに少しづつ広がりが見られた。外では、サッカーや鬼ごっこ、野球、テニス、室内では、サッカー盤、野球盤、編み物、トランプやレシピなどのカードゲームをそれぞれ学年隔てなく遊んでいた。1年生が「犯人は踊る」という互いに駆け引きをしながら遊ぶカードゲームをルールを覚えて夢中でしている様子が見られたり、2年生が廊下で始めたお化け屋敷に1年生も3年生も加わって楽しそうに遊んでいたりしていた。お化け屋敷では3年生の男の子が1年生の女の子達に付き添って一緒にに入ってあげる様子も見られた。また、テラスでは、例年のようにプランターで野菜を育てることにし、菜園係をしたい子を募って子ども達の希望の野菜や果物(イチゴ、かぼちゃ、きゅうり、トウモロコシ、ミニトマトなど)を植えて水やりなどを始めた。</p>	<p>11日(水)避難訓練と引き渡し訓練 多摩市内学童クラブで震度6弱の地震が発生したことを想定して避難訓練と保護者への引き渡し訓練をおこなった。児童館と合同で避難訓練をおこない隣接する公園に避難した。その後地震についての話を聞きビデオをみたりクイズをしたりしながら保護者の迎えを待つ訓練をおこなった。在籍49人中6名欠席43人が訓練に参加し、47世帯中43世帯が引き渡し訓練に参加した。</p> <p>16日(月)～20日(金)工作週間 缶バッヂづくりをおこなった。子ども達はそれぞれ好きな絵に色を塗りそれを缶バッヂにすることを楽しんだ。</p> <p>18日(水)誕生日会 5月生まれの4名をみんなで祝っておやつにシーアイスやフライドポテトを食べた。</p> <p>23日(月)～6月10日(金)個人面談 5月入所の子どもを除き、全員対象で保護者との面談をおこない、学童クラブでの様子を伝えたり家や学校での様子を保護者から聴いたりした。保護者から伺った内容は今後の育成に活かしていくように職員間で共有した。</p> <p>25日(水)歯科指導 歯科衛生士に来所していただき、1年生には第1大臼歯の大切さを2年生以上にはよく噛んで食べる意味や唾液の働きについてなど話をしていた。コロナの感染予防のために実際の歯磨き指導はなかった。</p>	当月入所 1年男子 1名
6月	<p>月の前半は、雨の日が多く、室内で過ごすことが多かった。雨の日専用のおもちゃを増やして遊ぶようにした。後半は、気温がかなり高く熱中症指数が危険を示す日が続き、外遊びがなかなかできなかつた。この期間も雨の日用のおもちゃで遊んでよいとした。</p> <p>子ども達は外遊びができる時にはサッカーや野球、おにぎりなどで遊び、雨の日の室内遊びでは先述の雨の日用おもちゃや卓球、将棋、レゴ、こま、おままごとなどをしたり段ボール工作やルームプレスでアクセサリー作りをしていた。遊びの様子では、学年や男女関係なく一緒に様々な遊びを楽しむ様子が見られたり、新入所の子どもに以前から在籍していた子どもが親切に教えている場面が見られたりした。一方で、サッカーを永山小学童クラブの子ども達としたり公園で地域の子ども達と遊び際にトラブルが起つたり、女の子同士が3人以上になると上手に遊べない様子があつた。職員が間にあって、子ども達とルールの確認をしたり、相手の気持ちに立ってどう伝え合えばよかつたのかと一緒に考えたりした。また、3、4年生の一部が集合時になかなか自席に座らなかつたりおとなの話の途中で発言をしたり、主に1年生だが片付けをきちんとしないでいたりで職員から注意をすることが多かつた。</p>	<p>11日(土)親子交流会 父母会共催行事 2年間できなかった親子交流会を永山小学校の体育館を借りておこなつた。当日は、新型コロナウイルス感染予防のために受付時間を2回に分けて「おみせやさん」のように各ブースで遊んだら帰るという形をとつた。親子で電流ライラック棒、スライム作り、時間制によるオセロやドッジボールにして参加して楽しい時間を過ごせた様子だった。また、保護者同士の交流をはかることができた。当日は、在籍児37名、保護者44名、在籍児の兄弟25名、合計100人以上が参加した。また、事前にボランティアを募集したところ18名以上の保護者が前日準備と当日の手伝いに参加した。</p> <p>15日(水)避難訓練 地震と火災を想定した訓練をおこなつた。子ども達は身を守るポーズやおとなとの話を聞くということがよく出来ていた。職員間であらためて発災時の動きについて確認した。今後もあらゆるケースを想定して確認をしていくこととした。</p> <p>17日(金)防犯・安全教室 「いかのおすし」の合言葉の内容を中心に危険な場所や不審な人とはどのようなものかを子ども達と一緒に考えた。また、困った時には児童館や学童クラブに頼ること、鍵の持ち方についての注意なども話した。</p> <p>22日(水)スティグマ講座 誰かを差別し、よくない印をつけること「スティグマ」について、具体的な例を出しながら子ども達に教え、子ども達にも日常でそのようなことがないかを聞いた。講座の最後には友だち同士で相手の良いところを褒め合うことをした。講座後、学校で嫌なおもいをした子どもが相談に来て保護者を通じて学校に伝え解決できたことがあった。</p> <p>29日(水)誕生日会 6月生まれの子どもを祝っておやつにアイスパフェを食べた。</p>	当月入所 1年男子 1名 2年生女子 1名 当月末退所 1年生女子 1名

	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
7月	<p>どの子ども達も学童クラブの生活やルールをしっかりと理解して過ごしている中に新入所の子どもが加わった。その子に対して職員はもとより元々在籍していた子ども達が教えながら一緒に行動することで新入所児が学童クラブの生活にすぐに馴染む様子が見られた。</p> <p>遊びの様子として、7月中旬まで梅雨に戻ったかのように雨が続いたり夏休みに入るころには猛暑で熱中症の危険があつたりで外遊びにならぬか出られずにいた。そういう時には、雨の日専用や新しいおもちゃで遊んだり工作したりする様子が見られた。外遊びに出られるときには永山小学校の校庭などで体を思いっきり動かす遊びをしていた。その際に水分をしっかりとすることや塩タブレットや経口補水液で塩分を補給し熱中症にならないよう気を付けた。</p> <p>登所途中や遊びの中などで相手の気持ちを考えず傷つけるような言葉を発したり、自分の考えだけで行動してしまったりトラブルになることが多かった。そのような場合は、職員が間に入り話し合って互いに適切な言葉や態度でやり取りができるように支援した。</p> <p>その他、テラスで栽培している野菜の水やりなどを子ども達がおこない、収穫できたトマトやキュウリ、とうもろこしを少しづつおやつなどで食べた。収穫目前のとうもろこしが鳥などに食べられてしまったことがあり栽培担当の子ども達が残念におもうこともあった。</p>	<p>9日(土)大人CAPワークショップ（父母会と共に） NPO法人「CAPユニット」という団体により子ども達がCAP講座受ける前に保護者向けの講座を実施した。保護者の方々には子ども達が実際に学ぶ内容を理解したり子どもの話に耳を傾ける時の手法を学んだりしていました。保護者の参加者は10人、職員は3名が受講した。</p> <p>13日(水)避難訓練（不審者対応） 玄関から不審者が侵入してきたという想定で事前に避難の仕方を話してから訓練をおこなった。子ども達のほとんどは真剣に取り組んでいた。</p> <p>20日(水)子どもCAPワークショップ 1.2年生と3年生以上のふたつに分けて実施した。子ども達には「安心・自信・自由」という権利がどの人にもあることを理解したり、自分が嫌なことをされたら不審者に遭遇したりした時にどのように自分の身を守るがなどをロールプレイを通じて学んだ。</p> <p>21日(木) 映画会 子ども達に希望を聞いた映画「ドラえもん」をみんなで鑑賞した。新型コロナの感染の危険がなければ映画を見ながら食べられた、ポップコーンとジュースを映画会の後のおやつの時間に食べたり飲んだりした。</p> <p>27日(水) 誕生日会 7月生まれの子どもの誕生日をみんなで祝った。おやつにはチュロッキーと牛乳をみんなで食べた。</p>	当月入所 4年女子1名
8月	<p>夏の一時入所で1~6年生の10名が入所し、在籍児童は62名となつたが、新型コロナの感染に伴い30名前後の登所だった。</p> <p>月初は、環境が夏入所の子どもを迎えることや、猛暑続きで外遊びができなかったことなどから、室内遊びで子どものトラブルもあったが、徐々に慣れてきて、学年問わらず一緒に遊ぶようになっていた。</p> <p>食休みの前に職員が読み聞かせを行うと、子どもたちからも読み聞かせをしたいとの声が上がり、3年生が紙芝居を読み聞かせた。</p> <p>熱中症指数の低い日は、第二公園や学童クラブのテラスで水遊びを行った。子どもたちを時間差で部屋に戻して着替えをさせ、三密を回避した。</p> <p>コロナの感染拡大により、職員体制に影響があり行事を中止するなどで、子どもたちに協力を要請せざるを得ない状況だったが、子どもたちは不平不満を言わずに過ごしていた。</p>	<p>8月4日～ 木製キーホルダーづくり 四種類の木の型から1つを選んで色を塗り、オリジナルのキーホルダーを作った。子どもたちは、思い思いの色や柄に塗って楽しんだ。</p> <p>8月27日(土) 夏のお楽しみ会(中止) 実施にむけて準備を進めていたが、感染拡大によって中止とした。実施予定だった千本くじの駄菓子屋・スーパー・ボール・くじ・折り紙屋は、育成時間中に数回に分けて行った。宝探しは9月に行うこととした。</p> <p>子ども達はそれぞれの店舗でルールを決め、ポスターを描いたり役割分担をして準備をしていた。</p> <p>8月31日(水) 屋食会(学童クラブ主催) 事前に子ども達からアンケートを取って唐揚げ弁当になった。子ども達はあまり残すことなく、美味しいに食べていた。</p>	<p>当月入所 1年女子1名</p> <p>8月一時入所10名以下内訳 1年男子1名 2年男子1名 3年男子1名 4年女子1名 5年男子3名・女子2名 6年女子1名</p> <p>当月末退所 8月一時入所者10名 4年男子2名・女子1名</p>
9月	<p>夏休み後学校が始まり、ようやく慣れたころに連休が入るなどで生活のリズムが崩れやすい月であったからか、週末に疲れた様子を見せる子どもがいたり学校に行き渋る子がいたり言動が落ち着かない子がいたりした。職員は、保護者に様子を聞きつつ、学童クラブで楽しく安心して過ごせるように遊びなどを通じて子ども達に関わるようにした。だいたいの子どもは学童クラブの生活を落ち着いて過ごしていた。</p> <p>遊びの様子では、まだ暑い日の続く中、永山小学校の校庭で永山小学校学童クラブの子ども達も加わって学年男女関わりなく、鬼ごっこや野球やサッカーをする様子が見られた。室内ではしゃべやプラレール、おままごとなどを楽しむ様子がみられた。その中で友だちとの遊びの約束やレゴのバーツのやり取りや遊び方でのトラブルがおこり、その都度職員が間にに入って一緒に問題を解決する場面があった。そのような場面を取り上げて気持ちを適切に言葉で伝え合うことを考える「気持ちの伝え方講座」を設けた。</p> <p>夏休みにできなかった「宝探し」をおこなった際には、準備や当日のヒント役などを3年生が中心になって努めたり、「気持ちの伝え方講座」の適切なやり取りの一例を4年生が演じてみせたりと子ども達が積極的に行事に参加する場面があった。</p>	<p>7日(水)避難訓練(地震) 夏休み後の全員揃っての訓練であり新入所の子どももいたので地震発生時の身の守り方や点呼の仕方などをおさらいすることを目標とし雨天のため室内で訓練を実施した。その場で身を守る姿勢をとることよりも机の下にもぐることに焦って室内を走り、むりやり机の下に入ろうとする子がいたので注意をした。</p> <p>13日(火)～15日(木)中学生職場体験 職場体験の為に鶴牧中学校の2年生3名が来所し児童の受け入れ準備や遊びの相手など学童クラブの仕事を体験した。子ども達は中学生と楽しそうに遊んでいた。</p> <p>14日(水)宝探し コロナの感染状況により夏に行えなかった宝探しゲームをおこなった。5つのチームに分かれぞれぞれ3年生の考えたミッションを解きながら最後に景品と引き換えることのできるメダルを探した。子ども達は3年生にヒントをもらいながら謎解きをして景品を獲得するゲームを楽しんでいた。</p> <p>21日(水)気持ちの伝え方講座 9月の概要及び考察にも記したが、子ども達の気になる様子からレゴのバーツのやりとりや遊ぶ約束についてのやりとりの場面を取り上げ、職員が演じた映像を子ども達に見せて客観的な立場でみることで適切なやり取りを一緒に考えた。子ども達はどうしたらよいかを考えて積極的に発言をしていた。</p>	当月入所 1年女子1名

	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
10月	<p>学校の運動会の練習が始まり、子ども達に少し疲れた様子が見られたので学童クラブでは少しゆったりとした時間を過ごすようにした。雨の日には室内でレゴやブラーール、編み物、折り紙、ボードゲームといった遊びをしたり、晴れた日には隣接する公園で爽やかな秋の日差しもとでのんびりとハンモックに揺られたり大繩跳びやフリースピードラングをしたりしていた。</p> <p>学年や男女関係なく一緒に大勢で遊ぶ様子が見られた一方で、友だちとの遊ぶ約束や遊びのルールなどについて上手くやり取りができる様子もみられた。そのような場面では職員が間に入っただけで子ども達の話を聞き、適切なコミュニケーションの方法と一緒に考えていくようにした。また、保護者にも面談やお迎えの折にその様子を伝え、家庭でも子どもの話を聞いていただけたり家庭での様子を職員に伝えていただきながら子ども達の成長の支援をしていった。</p> <p>月の後半からは11月におこなうおみせやさんについて話し合をし、子ども達はどんなお店にするかを考え準備に取り掛かり始めた。3年生はおみせやさんの準備と並行して卒クラブ遠足について行先などについての話し合いをおこなった。子ども達は様々な意見を互いに述べ合い、職員の助けも借りながら自分たちの力で行事に取り組もうとする姿が見られた。</p>	<p>5日(水)避難訓練(地震・火災) 地震が起きて火災が発生し外に避難するという訓練をおこなった。7月以降に入所した児童に避難の仕方を覚えてもらうことも目標にしていたので雨天であったが隣接する公園に避難し点呼をおこなった。訓練前に地震の時の身の守り方を復習したのでほとんどの子どもが出来ていたが火災時に避難する姿勢の取り方ができていない子どもがいて声をかける必要があった。</p> <p>12日(水)お留守番講座 事前に配った「あんしんノート」に保護者と子どもとで確認したことを記入してもらい、その内容をもとに子ども達と留守番や放課後の過ごし方を確認した。「あんしんノート」は1,2年生用と3年生以上用に分けて用意した。</p> <p>14日(金)～28日(金)個人面談週間 面談希望の保護者と7,8,9月入所児童の保護者と面談をおこなった。卒クラブに向けての話や子ども達の友達関係のことなどを保護者からうかがい、学童クラブでの様子や今後の育成についてを保護者に伝える機会となつた。</p> <p>17日(月)～冬時間降所開始(1月14日まで) 陽が落ちるのが早くなるこの期間において帰宅班ごとに降所の時間について保護者に事前アンケートを取りそれぞれの班で決まった時間に降所するようにした。ちょうど不審者情報も近隣で多発したこともあり、開始前後は降所バトロールを強化しておこなつた。</p> <p>26日(水)誕生日会 10月生まれの子ども達の誕生日をみんなで祝い、おやつにワッフルとアイスクリームを食べた。</p> <p>28日(金)3年生保護者交流会 卒クラブに向けて3年生の保護者会を対面方式とZOOMを併用しておこない、遠足や進級お祝い会、卒クラブ文集について話し合って決めていただいた。また、現在や卒クラブに向けて不安なことや確認したいことを事前アンケートをもとに話してもらい保護者同士の交流をはかった。7世帯中6世帯が参加した。そのうち対面では2世帯、2人の父親が参加した。</p>	当月末退所 3年男子1名・女子1名
11月	<p>学期末ということもあり疲れが溜まってきたのか、保護者から子どもが学校へ行き渋るという相談が増えたり、子ども同士が些細な原因でケンカになりやすくなっていた。</p> <p>懸命に行事の準備をする子や、外へ遊びに行き大人数で遊ぶ子が多く、学年男女問わず闘いあう場面が多くあった。</p> <p>そのなかで、上級生が下級生に対して強く当たったり、悪口を言ってしまうことが頻発し、保護者へ連絡することもあった。</p> <p>どろけいでは毎回のようにルールの食い違いから揉めごとになっていたので、遊び始める前に子どもたちと話し合って、永山学童クラブのどろけいのルールを決めた。</p> <p>また、子どもの突発的な動きで、自分や他児がケガがしてしまうことが多かつたので、外遊びの際に注意喚起を行い、室内でも延長時間の過ごし方にについてルールを改めた。</p> <p>室内では行事の名残からか、ダンボール工作や毛糸を使った手芸が盛んに行われていたが、はさみ等のかたづけが不十分であることが続いたので、はさみの使い方についてもルールを改めた。</p>	<p>9日(水)おみせやさん 「ラーメン屋A・B」「ヨーヨーすくい」「スライム」「プラバン」「しゃてき」の各店舗で子ども同士が景品づくりや看板づくりなどを協力して準備を重ね、当日を迎えた。当日はスタンプラリー形式で前半・後半に分かれてお店を回った。子どもたちはコロナ禍で以前の様に出来なかった事が出来たためか、おみせやさんやお客様の役を楽しんで参加していた。職員間では次年度に向けて動きや準備に関して振り返りをおこなつた。</p> <p>16日(水)焼き芋パーティー 児童館のテラススペースを借りて、焚火をおこし、さつまいもとマシュマロを焼いて食べた。非日常的な体験に、子どもたちは興奮していたが、やけどに気を付けるように話すと、火元では慎重に動いていた。</p> <p>24日(木)誕生日会 11月生まれの総勢10名の子ども達の誕生日をみんなで祝い、おやつにショートケーキを食べた。</p> <p>30日(水)島田療育センター巡回相談 心理士の高木先生を招き、特定児童の不適切な言動があつた時の職員の対応について相談をした。日ごろの育成においての実践に加え、該当児童の刺激となるものを減らすなど、児童が自力で気持ちを落ち着けられるように支援をしていく方法についてお話しをいただいた。</p> <p>30日(水)防災訓練(永山児童館と合同) 永山児童館と合同で、地震と火災が起きた時の逃げ方や身の守り方を訓練した。児童館の放送を使って発災を周知し、児童館の職員・児童もともに避難を行つた。</p>	当月末退所 4年女子1名
12月	<p>当月におこなわれた「おたのしみ会」では、子ども達が自分たちの出来ることやしたいこと、得意なことを披露し会を盛り上げ、それぞれが主体的に行事に関わり楽しい会を作り上げていた。中でも特別支援学級の子ども達が自分からピアノ演奏をしてみたいと挑戦したり、レクリエーション係としてドッジボール大会のチーム分けを工夫していた様子にこの一年の成長が見られた。また、年末の大掃除において子ども達が積極的に学童クラブの部屋の整頓や掃除をしている様子がみられた。</p> <p>3年生は1月の遠足に向けた話し合いをおこない、自分たちで遠足時の約束や当日グループごとに行動するルートを考えて決めた。</p> <p>遊びの様子でもそれぞれの子どもが自分のしたい遊びに参加し、部屋の中でも外でも男女学年関係なく一緒に様々な遊びをしている様子が見られた。</p> <p>ただ、一部の子ども達の中で登所時や学校の休み時間など大人の目が届かないところで1人の子どもに対して複数の子どもが悪ふざけや意地悪をすることがあり、保護者と学校の先生と状況を共有して対応することがあった。</p>	<p>19日(月) 避難訓練 降所の時に地震が発生したと想定して、各降所班ごとに職員の指示で降所中に身を守ることや危険箇所の確認をおこなつた。職員は事前に各降所ルートの土砂崩れ等の危険箇所をハザードマップで確認しておき、子ども達にも伝えて訓練をおこなつた。</p> <p>夕延長で施設に残っている子ども達も職員が少ない状況下で地震が起つたという設定で身を守る訓練をおこなつた。特に大きな問題や混乱はなかったが引き続き様々な状況を想定した訓練が必要であると思われる。</p> <p>21日(水) 誕生日会 12月生まれの子どもの誕生日をみんなで祝い、おやつにパフェを食べた。</p> <p>23日(金) おたのしみ会 これまで練習してきたピアノ演奏、歌、マジックを披露したり、ブラーールやレゴの作品を動画にして見せたりした。係の子どもが輪飾りや壁面装飾で作成したツリーで華やかに部屋を飾ったり進行役の子どもが会を盛り上げたりした。出し物の後は永山小学校の体育館でレクリエーション係によりしつば取りゲームやドッジボール大会をおこなつた。この日のおやつはイチゴやクリームでデコレーションしたパンケーキやジュースだった。子ども達にとっては楽しく充実した一日になつた。</p> <p>26日(月) 大掃除 本屋おもちゃの棚の整理、外階段や玄関、流しの掃除、窓拭きなど子ども達が積極的に学童クラブの大掃除をした。</p> <p>27日(火) 映画会・3年生遠足準備のおやつの買い物 映画会では子ども達のリクエストの映画をみんなで見た。 3年生は1月におこなう卒クラブ遠足の準備として、それぞれが小遣いの中から金額を決めてお菓子屋でおやつを買った。残金は当日、子どもの国で使う小遣いとなるのでそれぞれよく考えながら買い物をしていた。</p>	当月末退所 1年女子1名

	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
1月	<p>厳しい寒さの中であったが、子どもたちは月間目標にあるように、元気に遊んでいた。外遊びに行く先によって、ごっこ遊びや野球、フリスビードッジをしたり、なわとびやテニス、どろけいなどをして遊んでいた。</p> <p>永山小学校の校庭では、子どもたちが考案した「フリスビーどろけい」という遊びに大勢が参加していた。独自の遊びということもあり、ルールの思い違いからトラブルになることもあった。その都度、みんなで楽しく遊ぶにはどうすればいいか、どのように伝えたら相手にわかってもらえるかを3・4年生を中心に子どもたちと一緒に考え、友達関係がより一層深まる機会となった。</p> <p>1・2年生も、友達関係ができあがってきたことから、些細ないたずらがいきすぎて相手に嫌な気持ちをさせてしまったり、ルールを破ってしまったことがあった。友達同士であっても、自分と相手の気持ちがそれぞれ異なることや、改めて学童クラブでのルールや目的を説明し、進級に向けて意識をもつように話をした。</p>	<p>7日(土) 3年生遠足(こどもの国) 横浜市にある「こどもの国」へ、快晴のもと計6名(8名中1名体調不良のため欠席、1名入所間もなく不参加)で遠足へ行った。電車やバスは乗り慣れない様子であったが、自分たちで決めたルールのとおり、公共の場では静かに過ごしていた。</p> <p>始めは全員で鬼ごっこやすべり台をした後に、2グループに分かれ、それぞれ動物園やボート、ローラーサイクルなどを楽しんだ。グループ内で意見が分かれた時に、多数決だけで決めていくのではなく、話し合いをして、ときには譲り合う姿は、今まで友達関係を積み重ねてきた3年生ならではのやりとりであった。ソフトクリームを食べ、お土産の買い物をして、事故やケガなく遠足を終えた。</p> <p>14日(土) 冬時間降所終了</p> <p>18日(木) 避難訓練 永山小学校の校庭で遊んでいる際に、地震が発災した想定で行った。屋外で体感できるほどの大きな地震の際に、子どもたちがどのように身を守り、全体でどのような動きをするかを確認した。</p> <p>25日(水) 1月生まれの子どもの誕生日をみんなで祝い、おやつにもちもちリングドーナツにホイップを添えて食べた。</p>	当月入所 3年女子1名
2月	<p>冷たい風が吹き寒い日が多かったが子ども達は元気に外ではドロケイやフリスビー、サッカー、野球などで遊ぶ様子が見られ、部屋の中ではレゴ、編み物やボードゲーム、こまやけん玉などをして遊ぶ様子が見られた。</p> <p>また3月の進級お祝い会・卒クラブ式にむけて、1,2,4,6年生は自分たちの来年度の目標を決めたり、自分たちが“今”できるようになったことを進級お祝い会で披露するために練習をしたりしていた。3年生は3月4日(土)の進級お祝い会と卒クラブ式のために、歌の練習や賞状の受け取り方などを練習していた。歌の練習ではふざけたり、声が小さかったりする場面も見られたが、だんだんとうまく歌えるようになってきた。</p>	<p>17日(金) 高学年児童館見学 3年生以上の子ども達は卒クラブに向けて児童館の利用体験をしてみた。児童館では将棋やホッピングや卓球で遊んだり、ゲームをしている子の様子を傍で見たりと様々な利用の仕方をしていた。今まで一度も児童館利用をしていなかった子どもも行ってみたら楽しかったという感想を述べ、初めは行き渋っていた子どもも楽しく過ごせたようだった。</p> <p>20日(月) 避難訓練 今回の避難訓練は事前告知なしの地震の避難訓練だった。普段と違い、緊張感を持って訓練を行うことができた。</p> <p>22日(水) 誕生日会 1人の子どもの誕生日会をおこなった。みんなでお祝いをして、おやつにホットケーキにホイップクリームを乗せたものを食べた。</p>	
3月	<p>進級や卒クラブが迫り、寂しさや心細さから情緒が不安定になる子どもが多数いた。進級お祝い会など行事の準備や練習時のがんばりがめざましく、いつも以上に出来ていることを認める声掛けを心がけた。年度末ならではの全体会のまとめもあり、外遊びではドッジボールやどろけいなどの集団遊びが盛り上がった。上級生から下級生を励ましたり、ケンカを諒める言葉がけが多く、下級生の胸に響いている様子だった。</p>	<p>4日(土) 3年生進級お祝い会 3年生の保護者と父母の会会長、永山児童館館長を招き、3年間の節目となる会を執り行つた。3年生はそれぞれの文言の誓書を館長から受け取り、それぞれ進級に向けての決意を表明した。その後、3年生が練習してきた歌を三曲披露し、学童クラブ職員と保護者からも歌を2曲プレゼントした。</p> <p>8日(水) 進級お祝い会(3年生以外) 各学年の目標と、個人の決意表明、がんばってきたことを披露した。おやつには、4年生が考案しデコレーションをしたバシケーキを食べた。</p> <p>15日(水) 誕生日会 3月生まれの誕生日を祝い、白玉フルーツポンチを食べた。</p> <p>17日(金)新入所説明会 新年度に1年生となる子どもの保護者5世帯が参加した。</p> <p>23日(木) 交通安全 交通公園の先生を招き、自転車の乗り方や事故に遭ってしまったときの対処について学んだ。</p> <p>27日(月) 昼食会(父母会主催) 父母の会との共催で、昼食にしょうゆラーメンを提供した。</p> <p>28日(火) たまふくカップドッジボール大会 同法人運営の四学童クラブ対抗のドッジボール大会を貞取学童クラブで行った。永山学童クラブからは代表者15名が試合に出場し、出場しない児童も応援グッズを作り声援を送った。</p> <p>29日(水) 避難訓練 永山小学童クラブと合同で、地震の発災を想定した訓練を永山小学校の校庭にて行った。</p>	

2022年度永山学童クラブ 参加研修一覧

参加者	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名
施設長	メンタルヘルスケア研修	東京都	zoom	5月21日	管理監督者向け ラインケアについて・コロナ禍におけるラインケアについて
正職員	中堅層研修	法人	zoom	7/2・10/15・1 /19	施設紹介・職員集団の作り方・中堅層職員の役割
正職員	メンタルヘルスケア研修	東京都	zoom	8月27日	職員向けセルフケア・コロナ禍におけるセルフケアについて
正職員	救命救急講習	多摩市	愛宕児童館	9月2日	AEDの使用等救急時の対応
正職員	中級学担	多摩市	東寺方学童クラブ 多摩第一学童クラブ	10/6 10/17	市内学童の中堅職員がテーマごとに学習/職員関係
施設長 正職員	全国学童保育研究集会	全国学童保育連絡協議会	zoom	10/29・30	紛争地被災地に生きる子どもたち
施設長 正職員	学童クラブ担当者会議	多摩市	zoom	12月9日	地震・風水害への対応
正職員	支援員資質向上研修	東京都	早稲田	1月18日	放課後児童支援員の資質向上のための学習
正職員	支援員資質向上研修	東京都	町田文化センター	1月30日	放課後児童支援員の資質向上のための学習
施設長 正職員	学童クラブ担当者会議	多摩市	zoom	1月30日	発達障害の子どもの見立て
施設長 正職員	学童クラブ担当者会議	多摩市	zoom	2月3日	子ども家庭支援センターについて
正職員	学童クラブ担当者会議	多摩市	zoom	2月24日	救急処置について
正職員	たま研	法人4学童クラブ常勤職員	各施設	分科会2回・ 全体会1回	テーマごとに各施設の見学などを行い学びを深める
施設長	経営会議における学習会	多摩福祉会	zoom	経営会議にて	生活保護家庭の支援 不適切保育についてなどテーマに沿った学習会
有期契約職員	放課後児童支援員研修	東京都	大田区産業プラザ	6月13日・20日・ 30日・7月1日	放課後児童クラブ運営指針他 支援員資格認定研修
有期契約職員	放課後児童支援員研修	東京都	ルミエール府中	9月26日～29日	放課後児童クラブ運営指針他 支援員資格認定研修
有期契約職員	放課後児童支援員研修	東京都	大田区産業プラザ	1月31日・ 2月1日・6日・7 日	放課後児童クラブ運営指針他 支援員資格認定研修
有期契約職員	全国学童保育研究集会	全国学童保育連絡協議会	zoom	10月29日	紛争地被災地に生きる子どもたち
有期契約職員	北関東4県オンライン学習会	北関東4県学童保育連絡協議会	zoom	2月19日	子ども家庭庁設置・こども基本法でどうなる日本の学童保育
全職員	法人保育園・学童合同研修会	多摩福祉会	ハイアットリージェンシー東京・zoom	11月19日	法人の50年の歴史・理念・創立者の想い・実践報告
全職員	学童クラブ合研	多摩福祉会	zoom	12月6日	法人の歴史・学童クラブの受託からこれまでを振り返りこれからの方針を考える
全職員	島田巡回相談	島田療育センター	自施設	11月30日	施設の要配慮児の事例を基に育成について相談し学ぶ

2022 年度 貝取小学童クラブ事業報告

1. 児童状況

- (1) 定員：80 名
- (2) 育成年齢：6 歳～11 歳（小学 1 年生～4 年生）
〈8 月一時入所は 6 年生まで可
また特別支援学校、特別支援学級に通う児童は 6 年生まで通年入所可〉
- (3) 育成時間：学校下校時～19:00、学校休業時 8:00～19:00
- (4) 学年別状況（2022 年 4 月 1 日在籍児数）※途中入所 7 名、途中退所 9 名、夏入所 1 名

学年	人数
1 年生	23 名
2 年生	22 名
3 年生	18 名
4 年生	11 名
5 年生	2 名
6 年生	1 名
計	76 名

- (5) 在籍児童状況
 - * 要配慮児：24 名
 - * アレルギー児：2 名
 - * モアサービス利用者：11 名(途中 1 名減)

2. 職員状況

- (1) 正職員（2022 年 4 月 1 日現在）

職種	施設長	支援員
人数	1 名	4 名

- (2) 正職員状況
 - * 新規採用者 なし
 - * 異動者 1 名

- (3) 有期契約職員（10 名）

契約時間	7H×週5日	6H×週5日	5H×週4日	4.5H×週4日	4H×週4日	5H×週3日	3H×週4日	4H×週3日	5H×週2日
人数	1 名	1 名	1 名	1 名	1 名	2 名	1 名	1 名	1 名

(4) 職員研修：別紙参照

- ・リモート研修が定着し、対面での参加と併用することができた。
- ・職員の自主的な研修の場である「たま研」の活動が復活した。職員交流を中心に他施設見学なども頻繁に行っていた。感想や報告書などを冊子にまとめた。
- ・50周年誌を全職員に配付し法人の歴史を学んだ。有期契約職員の中には配付してすぐに全部読み切り感銘を受けたと言う職員もいた。
- ・コロナ禍のため特例で自主研修費により書籍の購入をして学んだ職員が2名いた。

(5) 資格取得について

正職員1名が保育士資格を取得した。

3. 新型コロナウイルス感染症について

- ・児童の罹患者が多くなった。職員も半数ほど罹患したが、それぞれの感染は関連がないと思われ、クラスターが起こることはなかった。
- ・感染対策については遊具の消毒、おやつや昼食前後のテーブル消毒、パーテーション設置、水筒持参（忘れた子には紙コップで麦茶を提供、水筒の中身がなくなったら補充）などを行った。
- ・消毒作業のため有期契約職員の勤務時間を1日2名1時間ずつ、計2時間増やした。

4. 2022年度に取り組んだこと

(1) グループ活動について

- ・職員1名が病休に入り、異動してきた職員がグループ担当をすることになった。担当した職員は貝取小学童クラブの会計事務を担当するため異動してきたのでグループを担当しながら慣れない事務作業するのは大変だったようだ。子どもたちや他の職員との関係を作っていくことから始め、年度当初は子どもたちの様子にいくらか不安定さが見られたが、グループ会議を行うことで課題と一つ一つ向き合い職員間の意思疎通ができるようになっていった。どのグループも子どもたち自身でおやつや帰りの会を進め、グループによって多少の違いはあるものの、それぞれ当番や日直などの活動をしてきた。
- ・はじめは職員の提案ではあったが図書委員会を設け、委員の立候補を募ると手を挙げる子が多くいた。読みたい本のアンケートを取ったり、図書館に本を借りに行ったり、また近くのリサイクルショップに本を買いに行くなど活動の幅が広がった。
一方で子どもたちが自発的に美化委員を作りたいと言い、玄関掃除を毎日進んで行うこともあった。子どもたちの発案を大事にし、なんとかかなえて形にしてあげたいと職員もよく考え実行に移すことができていた。
子どもたちも職員も積極的に意見を述べたり、行動したりすることができるようになった。

(2) 月1回の職員会議について

- ・ 月1回、全職員による会議を行った。児童の情報共有に多くの時間を割いたため、職員間の十分な論議に発展することがなかなか難しかった。そのため、全体では共有事項のみに絞り、細かい打ち合わせや子どもの対応などについては各グループで会議の時間を設けた。グループによって回数は違っていたが、グループノートを活用しながらその都度テーマを決め話し合っていた。しかし大学生など勤務が安定しない職員はグループに属していなかったので全職員での会議で情報を共有することも欠かせなかった。会議の内容は記録として残し、当日欠席していた職員にも共有できるようにした。
- ・ 施設長が他の会議のため不在となるときも職員会議は滞ることなく行い、職員一人一人の自立へもつながった。
- ・ 要配慮児の人数が4月直前に増えたため加配職員の人数が不足した状態でスタートした。そのため4月は職員も休みがなかなか取れない状態だったので急遽有期契約職員を増員した。学童クラブの経験がない職員もいたが、支援の必要な子に適切に職員を配置することができたので、全体的に落ち着いて過ごすことができた。
- ・ 消毒作業のため有期契約職員の勤務時間を増やしたことでの業務である子どもたちの様子を記録したり、対応を話し合ったりする時間を設けることができるようになった。

(3) 子どもたちの健康管理について

- ・ 今年度の後半にはコロナ対策もだいぶ緩和され、マスクの着用など厳しく求められることはなくなった。マスクを外した子どもたちの笑顔を見てこのまま続いている感じた。インフルエンザの流行も見られ、1クラスが学級閉鎖となった。学級閉鎖の際は学童クラブへの登所はできないということも定着し、登所の可否に関する問い合わせはほぼなくなった。
- ・ 学校休業日等学童クラブが朝から開所する際には検温表を連絡帳に貼り、毎日の体温を記入してもらった。
- ・ 年に1回、健康センターの歯科衛生士による歯科指導を行った。

(4) 行事について

- ・ 4月の新入生歓迎会を皮切りに子どもたち主導による行事を多く行うことができた。10月に行った「おみせやさん」ではコロナの感染状況を見ながら保護者にも声をかけ、参加を呼び掛けた。計画的に保護者との交流の場としていたわけではなく、来られる方はどの時間帯でもよいので来てくださいという形での呼びかけとなった。当日は保護者17名が見学に来られ上級生が店員さんとして頑張っている姿や、1年生が初めての「おみせやさん」を楽しんでいる様子を見てもらうことができた。次年度はさらに発展させ、親子での行事として位置づけていきたい。
- ・ 3年生遠足は子どもたちの力を発揮する機会となった。遠足で回るコースを自分たちで考え、時間の管理もできるだけ職員に頼らず行えるよう綿密に計画を立て

ていた。遊ぶ時間を削っての3年生会議では意欲的に取り組んでいた。

- ・ その他、今年度は12月のお楽しみ会、3月の進級お祝い会と3年生が力を発揮できる行事を予定通り行うことができた。
- ・ 春休みには多摩福祉会の4学童クラブで「ドッジボール大会」を行った。貝取学童クラブに戦うチームのみが行き、応援はリモートで行ったが、子どもたちの気持ちが一つになり、一生懸命応援していた。出場した選手は準優勝という立派な成績だったが、優勝できなかつことを大変悔しがっていた。涙を流す経験も、皆で一つのことに向かっていく経験もなかなかできないことなので、年度末によい思い出を作ることができた。
- ・ それぞれ行事の担当職員が子どもたちとの話し合いや練習を行い、本番を迎えてきたが事前準備が万全とはいがたく、打ち合わせの時間が多く取れなかった。昨年度の反省を生かすことができず、当日大慌てで打ち合わせを行うような行事もあった。

(5) 環境整備

- ・ 受託前から使用していたテーブルの角が角ばっており子どもたちや職員が足をぶつけてあざができてしまうことが何度かあった。まだ新しい座卓だったのですぐに買い替えることに躊躇していたが、大きなかがが起きてからでは遅いと考え、思い切って13台購入し、座卓をすべて交換した。
- ・ 玄関に子どもたちの作品が飾られ、自分が作ったものが置かれていることにとても満足そうだった。お迎えの保護者も目にとめ、そこから子どもたちの様子に話が広がることも多かった。中には学校では注意を受けることが多い子が、折り紙などで玄関の飾りを作り、褒められたことで自信につながったという保護者の声もあった
- ・ 各グループでは「今日のおとな」としてその日グループを担当する職員の写真を掲示した。子どもたちが今日のことはだれに相談すればよいのかわかるようにとの配慮で行ったが大人同士の確認にもなり好評だった。
- ・ ままごとのコーナーにチェーンリングや花おはじきを揃えたところ子どもたちが見立て遊びをするが増え、遊びが広がった。

(6) 防災・安全訓練

- ・ 年に1回多摩市一斉の災害時引き渡し訓練、総合防災訓練を行った。
- ・ 月に1回、避難訓練、防犯訓練、交通安全教室（多摩市道路交通課の職員による）等のいずれかを行った。

(7) 職員のスキルアップ

- ・ 職員一人一人が人任せにせず、自分で考え行動することが増えた。それだけ力をつけてきたことになるが、打ち合わせの時間が不足し、各自がその場で判断して実行するという場面も多かった。よく話し合ってから行動に移してほしかったと思われることもあったが、若い職員が自分で考えて行動したことをもう少し柔軟に受け止めてもよかったですかもしれない。経験の長い職員と若い職員とで考え方があ

違うのは当たり前かもしれないが、ディスカッションを重ねてよいものを作り上げていくという過程が少し不足していた。

- ・ 島田療育センターの巡回相談を受け、有期契約職員も心理の先生の話を聞くことができた。実際に子どもたちを見てもらうことはできなかったが、子どもたちの様子を伝え、対応を学ぶことができた。アドバイスを受け、実際に教えてもらった通りに対応すると、児童が困っていることが改善されたことがあった。
- ・ またWISC検査やその他の心理テストなどについてわかりやすく数値の見方を教えていただき大変勉強になった。

(8) アレルギー児の対応について

アレルギー対応も2年目となり、除去すべき食品を見極める力が職員全体に身についた。1年間、アレルギーに限らず、事故なくおやつや昼食を提供することができた。メーカーが製品の内容を変更した際、危うくアレルギーとなる物質が入ったお菓子を提供しそうになったことがあった。いつも食べているからと発注時に気づかず、製品を受け取ったときに食品成分が変更になっていることにおやつ担当の職員が気付き大事には至らなかった。安全のためにはおやつ専任職員は必要だと感じた。

5. 地域・学校・専門機関との連携について

- ・ 2023年10月より放課後子ども教室を運営受託することが決まった。貝取小学校の校長、副校長と市役所の職員を交えて何度か打ち合わせを行った。現在は父母会が行っているので見学にも行った。児童青少年課が手配をし他市の放課後子ども教室を見学することができた。
- ・ 子どもたちや家庭環境に関することなど随時学校の担任と連絡を取り合った。
- ・ 子ども家庭支援センターや児童相談所、発達支援室とは必要に応じて連絡を取り、児童や保護者との面談のために学童クラブの部屋を提供することもあった。

6. 保護者との関係について

- ・ 「おみせやさん」に保護者を招くことができた。今後の交流の第一歩として行きたい。
- ・ 50周年を祝う会に保護者代表を招待した。当日は都合が悪く不参加だったが招待したことをたいへん喜んでいただけた。

7. 職場として

正職員1名が6月から8月まで病休を取得し、その後11月から産休・育休に入った。正職員5名体制だが1名は事務を担当していたため体制的に厳しいこともあった。そのような中でも有給休暇ができるだけ取得できるようお互いに協力し合ってきた。施設長は不在、あるいはリモート会議なども多く、一人が休暇を取れば残った職員が大変になることは必至だったが、有期契約職員の力も借りながらなんとか乗り越えてきた。

職員の健康管理に留意し、新型コロナワクチン接種後には休めるよう配慮した。

2022年度

貝取小学童クラブ 月ごとの様子

	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
4月	<p>上級生が新入生のお世話をしている場面が多く見られた。そのためか新入生が学童クラブでの生活に馴染むのが早かった。</p> <p>サッカーには3年生以上の上級生が、鬼ごっこには1、2年生が集まっていることが多かった。室内では人形遊びやおままごとなど学年関係なく遊んでいた。</p> <p>学校が始まると登所してからの勉強時間に宿題に取り組む子が多くいた。</p> <p>4年生は昨年まで学童クラブの中心として活躍していたが、クラブ内での立ち位置が曖昧になり戸惑っている様子だった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・13日(水) 新入生歓迎会 ・19日(火)～22日(金) 学年毎の避難訓練 	
5月	<p>子どもたちは毎日の気温の変化についていけないのか、少し疲れている様子だった。</p> <p>外遊びに行く際は、お茶のみ休憩を挟みながら遊んだ。遊びに行く前に熱中症予防のため、塩タブレットを子どもたちに食べさせてから外へ行くなど熱中症に注意しながら外遊びを行った。</p> <p>雨が降り屋外で遊べない日は室内で過ごしたが、出席人数が多く、遊びのスペースに子どもたちが密集して室内が狭く感じた。グループのテーブルへ誘導するなどなるべく部屋全体に子どもたちを分散させるようにした。また、1年生や4月から転校してきた子たちは「ポケモンカード」など雨の日おもちゃが珍しかったようで雨の日を楽しみにしている子もいた。</p> <p>GW明けに夏野菜の苗をグループ毎に植えた。昨年から行っていることもあり、上級生からは自分たちで育てたい野菜がたくさん提案された。グループ毎に水やり当番も決め、子どもたちも収穫できるのを楽しみにしていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・11日(水) 避難訓練(引き渡し訓練) ・18日(水) 誕生会 	入所: 1名
6月	<p>気温が高く熱中症指數計が危険を示す日が続き、外遊びが出来ない日があった。想定外の早さで梅雨明けが発表され、暑い日が多かった為、外遊びには細心の注意を払い、こまめに水分補給するよう声をかけた。</p> <p>外遊びでは、工作で作ったマイ独楽を使い独楽遊びを楽しむ子が増えた。サッカーや、フリスビー鬼ごっこなどを楽しむ子が多かった。また虫捕りのほか、自作の「小人」を作って、仲間の「小人」が寄ってくることを楽しみにする「小人探し」を楽しむ姿もみられた。</p> <p>室内ではカブラを高く積み上げて遊ぶ3年生の姿を見ていた1、2年生がカブラのケースの上にすり鉢状の塔を作ったり、3、4年生が協力して中に人が入ったままカブラの塔を作り姿が見えなくなるまで積み上げたりして遊びが膨らむ様子が見られた。また、カロム教室の影響でカロムを楽しむ1年生が増えた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1日(水)～17日(金) 個人面談 ・5/30(月)～3日(金) 工作週間 ・13日(水) カロム教室 ・29日(水) 誕生会 	退所: 1名
7月	<p>熱中症の危険がある時には室内で遊ぶよう声をかけ、雨の日用の玩具を使えるよう配慮した。また、外遊びの時にはマスクを外すように声をかけ、塩タブレットや経口補水液を準備した。</p> <p>尚、昨年同様玄関のそばにミストシャワーを取り付けた。外遊びは熱中症指數計で確認しつつ、短い時間でも外に出ることができそうな時は、午前中は木陰で虫捕りしたり遊具を楽しんだり水鉄砲で水遊びをした。風が出やすい夕方4時以降は日影で遊び、虫捕りなどを楽しむことにした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・13日(水) 誕生会 ・20日(水) 昼食会 ・20日(水) 交通安全教室 ・28日(木)～ 夏の工作(うちわ作り) 	入所: 2名
8月	<p>昨年と比べ出席人数が少なかった。職員を午前午後で交代するなど、ある程度手早く見守ることができた。8月中旬には出席人数が20人の日もあり、室内でもスペースを確保して育成することができた。</p> <p>熱中症の危険のある日が続いたため、屋外で遊べる機会が少なかった。着替えが必要となるような水遊びは新型コロナウイルスが再度感染拡大をしていたこともあり行わなかつたが、一人一本ずつ水鉄砲を渡し、服が自然乾燥できる程度の水遊びを行った。また、テラスでシャボン玉遊びを行う等の工夫をして過ごした。</p> <p>夏休みの長い時間を使ってラキューやレゴブロックで大きい作品をじっくり作る子や、普段途中で終了してしまうボードゲームを最後までできて満足そうにしている子がいて、夏休みならではの過ごし方で楽しんでいた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1日(月)～31日(水) 夏の工作 ・24日(火) 誕生会 	入所: 1名 退所: 4名
9月	<p>夏休みが明けた頃、台風の接近が何回かあり、合間に縫って屋外遊びを行った。ぬかるんでいる場所を外して「校庭の真ん中でボール遊びだけ」、「濡れている遊具は使わない」などの条件をつけて工夫しながら屋外で遊んだ。晴れた日には、鬼ごっこやサッカー、野球、バスケ、鉄棒を楽しんだり大縄跳びを競ったりしていた。</p> <p>3年生以上の子ども達は10月に計画している「おみせやさん」の準備が始めた。9月中旬にやってみたいお店と分担が決まり、それぞれのお店ごとに話し合い、用意しなければならない物や予定表の確認をし、ゲームのルールについて意見を出し合うなど、子どもたちの3年間の成長が感じられた。</p> <p>図書委員会の有志の子ども達が夏休みに借りた本を豊ヶ丘図書館まで返却に出かけ、新しい本を借りてきた。下級生はどんな本を読むのかと話し合い、自分たちの読みたい本以外も借りてくるなど気を配っている姿があった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・9日(金) 避難訓練 ・21日(水) 歯科指導 	入所: 1名 退所: 2名
10月	<p>上旬は雨が多かったが、子どもたちは雨の日おもちゃを楽しみにしている様子があり、ポケモンカードやサッカー盤を楽しむ子が多かった。中旬からは晴天が続き、サッカー、バスケットボール、バレーボール、鬼ごっこや雲梯、鉄棒、竹馬やバトミントなど様々な遊びを楽しんでいた。</p> <p>3年生は、意欲的におみせやさんの準備を行った。フルーツキャンディー屋さんは何度も試作を重ね、準備に時間をかけて新しいことに挑戦する過程を楽しむ姿が見られた。受付のカウンターを作ったり、オリジナルの立て看板をつくるグループもあり、お手伝いの4年生はダンボールで自作のもぐらたたきを作ったりボーリングやバスケ屋さんなどのゲームで全体を盛り上げてくれた。また、都合がつく保護者の方には子ども達の様子を見に来ただけるよう案内し、17名の保護者が足を運んでくれた。子ども達が頑張って準備をした「おみせやさん」はとても楽しい時間となった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・12日(水) 誕生会 ・19日(水) お留守番講座 ・25日(火) 冬時間降所開始 ・27日(木) おみせやさん 	

11月	<p>以前から使っていたボールの空気が抜けたり、破損したりしたためボールを購入した。小さめのドッジボール用ボールを購入すると、早速ドッジボールを楽しんでいた。最初は3年生同士で遊んでいたが、楽しそうな姿を見た他の学年の子たちも参加し、いつの間にか大人数での遊びになっていた。1年生も遊びに参加し、上級生がキャッチをする「すごい」と言って憧れているようだった。また、「1年生を守る」と言って普段あまりドッジボールをしない2年生が参加したりと新たな交流が生まれていた。</p> <p>下旬頃からは夕方の暗さを考慮して、おやつの時間を変更し、4時に外遊びを切り上げて室内へ戻るようにした。最初は子どもたちも戸惑った様子だったが、理由を説明したことで納得したようだった。帰りの会以降の流れはグループ毎に決めるようにし、本読みや勉強の時間にしたり、クイズをしたり等、グループ毎に過ごしていた。</p>	<p>11日(金) 避難訓練 16日(水) 誕生会 26日(土) 3年生遠足</p>	入所: 1名
12月	<p>校庭の土が凍結し、お昼ごろに溶けるため使用できないことが多かった。外遊びではサッカーやバスケットなどの遊びを制限せざるを得なかった為、霜の影響を受けていない場所を探し、ドッジボールや鬼ごっこをして遊んだ。また、縄跳びや竹馬で遊ぶ子が多く、子どもたちは遊べる場所が制限される中でも工夫して楽しんでいるようだった。</p> <p>お楽しみ会があり、出し物の発表を希望した子どもたちは遊びの時間を利用して練習や準備を進めていた。ダンスの発表が3つあり、室内では同時に練習する場所を確保できなかつたため、テラスや屋外を使って練習をしていた。</p> <p>ペーパーサートの発表をする2年生は、職員が声をかけなくても自分たちで脚本を作ったり人形を作ったりして自主的に準備を進めていた一方、漫才の発表をする3年生は職員に声をかけられ、内容を1週間前に慌てて用意する様子があり、取り組み方には大きな差が見られたが、本番ではどのチームもがんばって発表し「楽しかった」と感想を述べていた。発表には参加しなかった子どもたちも発表を観て大いに楽しみ、集団遊びでは実行委員が提案した「文字探しゲーム」をしてみんなで盛り上がることが出来た。</p>	<p>14日(水) 誕生会 22日(木) お楽しみ会 23日(金) 昼食会 23日(金) 防犯訓練 27日(火) 大掃除</p>	入所: 1名
1月	<p>12月のお楽しみ会の際、クリスマスプレゼントとしてマイクロクラフトのレゴやシルバニア人形の家などを購入した。子どもたちもさっそく新しい遊具を使って楽しそうに遊んでいた。バー・ブレクサスや知恵の輪など一人で出来る遊具を購入したところ、手持ち無沙汰になった子が一人で集中して遊んでる様子があった。以前からある遊具もそのままおもちゃ棚に入っていることから、おもちゃ棚に収納しづらくなってしまったものもあり、一部遊具の整理を行った。</p> <p>1月に入り子どもたちの方から「コマ回しがしたい」との要望があつたためコマ台を出した。春の工作で作ったコマを回す子がいたり、「今まで回せたことがない」と言っていた子が友達に誘われてコマ回しをしたりと、子どもたち自身で主体的に遊んでいた。他にも、けん玉や竹馬など昔ながらの遊びを楽しむ姿があった。</p>	<p>18日(水) 誕生会 25日(水) 避難訓練</p>	退所: 1名
2月	<p>霜が溶けてグラウンド状態が良くない日が多く、外遊びができない日があった。子どもたちは、晴れているがグラウンドが使えないという日でも「しょうがないか」と言って、外遊びが出来ないことを受け入れていた。</p> <p>3月末に法人内施設間でドッジボール大会を開催することになり、子どもたちに大会の周知を始めた。3、4年生が中心となり優勝するために練習をしようと周りの子を誘ってドッジボールの練習を始める姿があった。楽しそうに遊ぶ上級生の姿を見て多くの子がドッジボールに参加するようになり、1年生も入って学年が入り交じて活発に遊んでいた。</p> <p>1年生はドッジボールの他にも鬼ごっこや氷おに等、自分たちでルールを設定して遊べるようになってきた。今まででは「休憩の時間やタイムをたくさん使っている」「タッチをしたのに逃げた」などの理由からケンカになる場面があったが、ルールの確認を促すようにした後は、自分たちで話し合う姿が多くなって成長を感じる。</p>	<p>3日(金) 節分 8日(水) 避難訓練 15日(水) 誕生会</p>	退所: 1名
3月	<p>ドッジボール大会の告知以降、多くの子がドッジボールをして遊ぶようになった。しかし、雨などでグラウンドが使えない日が続いたり、ドロケイやサッカーなど別の遊びが流行したりと、大会本番までブームは続かなかった。</p> <p>大会当日は代表チームの10数名が参加し、それ以外の子は参加できなかつたが、試合会場の映像を流し、試合の様子を観ることができた。前日から応援の準備をすることで多くの子が大会に興味津々といった様子で、画面越しに代表チームに声を出してエールを送っていた。大会の結果は準優勝となり、参加した子からは「来年また頑張りたい」と前向きな言葉が聞けた。また、大会後からは応援していた1、2年生もドッジボールをして遊ぶこと多くなり、今まで以上にドッジボールが流行していた。</p> <p>3年生は進級お祝い会を控え、当日の発表や司会の準備に大忙しだった。そんな中、3年生の子どもたちから「卒クラブ制作をしたい」と提案があり、職員とともに貰取小学校童クラブの看板制作を行った。完成した看板は学童クラブのフェンスに取付け、子どもたちも満足そうにしていた。</p>	<p>10日(金) 避難訓練 15日(水) 誕生会 22日(水) 進級を祝う会 23日(木) 昼食会 28日(火) たまふくカップ(ドッジボール)</p>	

2023年度 貝取小学童クラブ 参加研修一覧

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリア バス 該当	自主研修 対象	備考
1	正職員	日本学童保育学会 第12回研究大会	日本学童保育学会	オンライン	6月	学童保育についての研究発表	×	○	
2	正職員	ティーチャー トレーニング	島田療育センター	島田療育 センター	7月	子どもの見立てと対応について	×	×	
3	正職員	学担中級編	多摩市	市内学童クラブ	10月～	事例検討、育成について等	×	×	
4	正職員	中堅層研修	多摩福祉会	オンライン	10月～	中堅職員育成研修	×	×	
5	全職員	50周年記念研究集会	多摩福祉会	ハイアッตรージェンシー ・オンライン	11月	法人設立50年の歴史を知る	×	×	
6	正職員	学童クラブ 担当者会議	多摩市	貝取小学童 クラブ	10月～2月	・防災・子ども家庭支援セ ンター・応急手当	×	×	
7	正職員	ヤングケアラー研修	多摩市	多摩市役所	10月	ヤングケアラーの 問題点について	×	×	
8	正職員	育休についての学習会	上北沢こぐま保育園	オンライン	10月	社労士による育休について の勉強会	×	×	
9	正職員	たま研	学童クラブ職員	法人内 学童クラブ	10月～	職員による自主的な研修	×	×	
10	正職員	資質向上研修	東京都	オンライン	1月	支援員の資質向上	×	×	
11	正職員	島田全体研修	多摩市	オンライン	1月	子どもの支援について	×	×	
12	正職員	アレルギー研修	東京都	オンライン	2月	食物アレルギーについて	×	×	
13									